

6

昆  
虫  
類

*Red Data Book of Wakayama Prefecture*

## 昆虫類の概要

的場 績

和歌山県は紀伊半島の主要部を占め、海岸の照葉樹林から冷温帯のブナ林まで、自然環境の多様性を反映して、豊富な昆虫相を擁している。また、タイワントビナナフシやサツマニシキに代表される熱帯系の昆虫を多産し、本県の昆虫相の大きな特徴となっている。このことは本州最南端という地理的な要因に加え、黒潮による熱帯系昆虫の供給が大きな役割を果たしている。

また、地史的な要因として、最終氷期に南下してきた北方系昆虫は、氷期の終息と共に北上を開始したが、シモヤマミズギワゴミムシやミヤカワハナゾウムシ、フジキオビのような多くの北方系昆虫が北上せずに、現在の昆虫相の一員となっている。新宮市田長谷のキンキコルリクワガタや荒船海岸のクロオビアシナガゾウムシはこの一例で、照葉樹林に生活の場を獲得している。

昨今の地球温暖化の影響か、キョウチクトウスズメ、アカマダラヨトウ、クロメンガタスズメ等は、ほぼ定着の様相を示している。近年、ヨツモンカメノコハムシが県内に侵入し、2年間でほぼ県内全域に分布を拡散している。また、タテスジヒメジンガサハムシも2020年に橋本市に侵入定着を果たしている。ヤシオオサゾウムシも県内全域の沿岸部に定着し、カナリーヤシの重要な害虫となっている。アカギカメムシの分布も北上しており、有田地方でも発見報告が続いている。外来種の侵入定着により、在来種の存続にかなりの圧力になることの例として、クロメンガタスズメの分布拡散に伴い、メンガタスズメは絶滅に近いほど個体数を減らしている。近年ではチャイロスズメバチが県内の里山から自然林に分布を広げており、今後キロスズメバチとの競合が心配される。

本県の昆虫相は、専門家による調査・研究よりも、地元のアマチュア研究者たちにより解明されてきた。従って、公表された昆虫相の多くは、カメムシ目、チョウ目、コウチュウ目、トンボ目に限られ、ハエ目やハチ目等アマチュア研究者の少ない分野では、未解明の要素を大きく残している。

前回のレッドデータブック改訂版を出版してから10年、相変わらず自然環境は悪化しており、野外に於ける昆虫類も減少の一途をたどっている。今回の改訂にあたっては、各専門家の意見を聞く中で、絶滅13種、絶滅危惧Ⅰ類24種、絶滅危惧Ⅱ類40種、準絶滅危惧102種、情報不足27種、学術的重要37種を選定した。

今回の改訂では、マダラナニワトンボが新たに絶滅種に加えられ、前回絶滅種としたシルビアシジミが再発見されたが、人的移入の疑いもあるため、次回までの研究課題として今回は情報不足種として扱った。同じく絶滅種のコガタノゲンゴロウも新宮市と田辺市で相次いで再発見されたが、これも同様に国内移入種の疑いがあるため、情報不足種として扱った。

絶滅危惧Ⅰ類以下では30種が新たにに加えられ、ヒゲブトゲンバイ、ウラナミアカシジミ、ミドリシジミ、トラフトンボは、生息状況もしくは個体数が安定していると判断し、今回は削除した。絶滅危惧Ⅱ類では前回選定されていたマダラコガシラミズムシは記録を精査した結果、県内には分布していないことが分かり削除した。アカマダラセンチコガネは、記録や標本の存在が不明瞭であるので、情報不足に移した。前回、学術的重要種に扱っていたカワセタマノミゾウムシとヤクシマヒメキシタバについても、紀伊半島が分布の北限ではないことが判明したので、学術的重要種から除外し、ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種とコサナエを準絶滅危惧種から学術的重要種へと変更し、コウヤナナフシ、ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ、オトウカギバラヒゲナガゾウムシの3種を新たに学術的重要種に加えた。

全国的な稀少種は、もともと個体数が少ないので、生息基盤が脆弱であると言えるが、生態

や採集方法が判明すると、案外安定して生息していることがわかることもあり、今回も、珍種・稀少種よりは、減少の著しい種に焦点を当てた選定に努めた。その結果、半世紀近く発見されていない種や、昔はごく普通種であったのが、近年では絶滅に近い状態にある種がいくつも選定され、本県の自然度の低さを感じさせられた。特に水棲や湿地性昆虫については顕著であった。

地下浅層性のチビゴミムシ類も、環境省のレッドデータブックで選定されている種であっても、生息状況や生息数増減の判定が困難であることにより、今回も除外することにした。

今回は、昆虫類の模式産地種一覧を掲載したが、編集会議の結果、今回は省くことになった。しかし模式産地を保護することは、そのまま模式産地種の保護につながり、稀少種、普通種を問わず、その地域遺伝子を守ることに繋がり、生物多様性の観点に於いても重要であると考えている。

## ●絶滅 (EX)

マダラナニワトンボ  
 フサヒゲサシガメ  
 カワラハンミョウ  
 ハラヒロハンミョウ  
 スジゲンゴロウ  
 マルコガタノゲンゴロウ  
 ギフチョウ  
 タイワンツバメシジミ  
 シータテハ  
 オオウラギンヒョウモン  
 ヒメヒカゲ  
 ウラナミジャノメ  
 キバネセセリ

## ●絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

コバネアオイトトンボ  
 アオヤンマ  
 ルリボシヤンマ  
 キイロヤマトンボ  
 オオキトンボ  
 タガメ  
 ヒメタイコウチ  
 コバンムシ  
 トゲナベブタムシ  
 オオクチブトカメムシ  
 オオウスバカゲロウ  
 ヨドシロヘリハンミョウ  
 カワラゴミムシ  
 シモヤマミズギワゴミムシ  
 オオヒョウタンゴミムシ  
 ムツボシツヤコツブゲンゴロウ  
 ゲンゴロウ  
 コガタガムシ

シリグロナカボソタマムシ  
 ヤマトオサムシダマシ  
 イッシキキモンカミキリ  
 ウラキンシジミ  
 クロツバメシジミ  
 ウラギンスジヒョウモン

## ●絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

アオハダトンボ  
 ネアカヨシヤンマ  
 キイロサナエ  
 アカエゾゼミ  
 テングオオヨコバイ  
 エサキアメンボ  
 オオコオイムシ  
 ミヤケミズムシ  
 ハリサシガメ  
 ナカボシカメムシ  
 ツノアカツノカメムシ  
 セアカオサムシ  
 ウミホソチビゴミムシ  
 ダイミョウアトキリゴミムシ  
 ヨツボシヒラタシデムシ  
 ミヤマツヤハダクワガタ  
 ルイスツノヒョウタンクワガタ  
 ヒメオオクワガタ  
 ミヤマダイコクコガネ  
 キンスジコガネ  
 トラハナムグリ  
 アヤムネスジタマムシ  
 ミヤマナカボソタマムシ  
 ヨツコブサビコメツキ  
 クニミシモフリコメツキ  
 ヒゲブトハナカミキリ

タケウチホソハナカミキリ  
 クロソンホソハナカミキリ  
 カエデノヘリグロハナカミキリ  
 クロサワヒメコバネカミキリ  
 ニッポンモモブトコバネカミキリ  
 クロホソコバネカミキリ  
 エゾトラカミキリ  
 トラフカミキリ本土亜種  
 オオトラカミキリ  
 ヨツボシカミキリ  
 オオシロオビゾウムシ  
 ウマノオバチ  
 フジミドリシジミ  
 オオウラギンスジヒョウモン

● 準絶滅危惧 (NT)

オオハサミコムシ  
 オツネトンボ  
 ニホンカワトンボ  
 ベニイトトンボ  
 セスジイトトンボ  
 オオイトトンボ  
 モートンイトトンボ  
 オオルリボシヤンマ  
 アオサナエ  
 オグマサナエ  
 フタスジサナエ  
 ミヤマサナエ  
 エゾトンボ  
 ハネヒロエゾトンボ  
 ナニワトンボ  
 マイコアカネ  
 ミヤマアカネ  
 キトンボ  
 ハッチョウトンボ  
 カヤキリ

タイワンクツワムシ  
 クツワムシ  
 クロツヤコオロギ  
 カワラバッタ  
 ヒサゴクサキリ  
 フタツトゲササキリ  
 クチナガコオロギ  
 コガタカントン  
 セグロイナゴ  
 シダスケバモドキ  
 クワヤマハネナガウンカ  
 ミツハシテングスケバ  
 オヨギカタビロアメンボ  
 ハネナシアメンボ  
 トゲミズギワカメムシ  
 コオイムシ  
 タイコウチ  
 ナベブタムシ  
 キバネアシブトマキバサシガメ  
 クロバアカサシガメ  
 ハマベツチカメムシ  
 フタテンツノカメムシ  
 トゲツノカメムシ  
 ヤマトナガヒラタムシ  
 ハンミョウ  
 セグロホソクビゴミムシ  
 キボシケシゲンゴロウ  
 キベリクロヒメゲンゴロウ  
 ヒメミズスマシ  
 コガムシ  
 ガムシ  
 オオズウミハネカクシ  
 ルリクワガタ  
 ムネアカセンチコガネ  
 アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ)  
 オオサカスジコガネ

シロスジコガネ  
 アオアシナガハナムグリ  
 コカブト  
 クロマダラタマムシ  
 コガタノサビコメツキ  
 ツマグロコメツキ  
 ヒメクロナガコメツキ  
 ムネアカツヤケシコメツキ  
 ツヤヒラタコメツキ  
 オオダイルリヒラタコメツキ  
 イソジョウカイモドキ  
 ハラグロオオテントウ  
 アイヌテントウ  
 オカモトツヤアナハネムシ  
 フタコブルリハナカミキリ  
 イガブチヒゲハナカミキリ  
 ヒゲジロホソコバネカミキリ  
 オオホソコバネカミキリ  
 ヨコヤマヒゲナガカミキリ  
 ヒメビロウドカミキリ  
 キンイロネクイハムシ  
 ヒメゴマダラオトシブミ  
 ミツギリゾウムシ  
 モリモトシギゾウムシ  
 ヒメカツオゾウムシ  
 ハスジゾウムシ  
 タマヌキオニゾウムシ  
 コカタビロゾウムシ  
 マツムラハラブトハナアブ  
 ハチモドキハナアブ  
 ニトベベッコウハナアブ  
 ツマグロキチョウ  
 エゾミドリシジミ  
 オオミドリシジミ  
 ヒサマツミドリシジミ  
 キリシマミドリシジミ

クロシジミ  
 クモガタヒョウモン  
 オオムラサキ  
 クロヒカゲモドキ  
 ミヤマセセリ  
 オオチャバネセセリ  
 ミヤマチャバネセセリ  
 メンガタスズメ  
 サツマニシキ本土亜種  
 ムラサキシタバ

### ●情報不足 (DD)

ムカシヤンマ  
 ホンサナエ  
 エゾエンマコオロギ  
 ハマスズ  
 オオアシナガサシガメ  
 フタボシツチカメムシ  
 ヒトツメアオゴミムシ  
 ウミミズギワゴミムシ  
 コガタノゲンゴロウ  
 ウスイロシマゲンゴロウ  
 マルチビゲンゴロウ  
 ヤマトモンシテムシ  
 アカマダラセンチコガネ  
 アカヘリミドリタマムシ  
 オオムツボシタマムシ  
 シロウズツヤケシコメツキ  
 トゲウスバカミキリ  
 アカジマトラカミキリ  
 ミヤカワハナゾウムシ  
 ニホンアミカモドキ  
 シロスジナガハナアブ  
 スズキナガハナアブ  
 ウスイロオナガシジミ  
 ウラミスジシジミ

シルビアシジミ  
ツシマキモンチラシ  
オオシロシタバ

● 学術的重要 (SI)

コサナエ  
ウルシゴキブリ  
キイフキバツタ  
オガサワラクビキリギス  
コウヤササキリモドキ  
オオアリツカコオロギ  
タイワンエンマコオロギ  
クロヒバリモドキ  
コウヤナナフシ  
ゴトウヒサゴナガカメムシ  
ミナミオオヘリカメムシ  
ニシキキンカメムシ  
シラハマナガゴミムシ  
オオダイオオナガゴミムシ 原名亜種  
オオダイナガゴミムシ  
コモリヒラタゴミムシ  
ナガツヤヒラタゴミムシ

ナガホラアナヒラタゴミムシ  
ナチセスジゲンゴロウ  
(トモクニセスジゲンゴロウ)  
ツシマヒラタシデムシ 近畿地方亜種  
マメクワガタ  
ウスグロボタル  
クロマドボタル  
ナンキセダカコブヤハズカミキリ  
アヤモンチビカミキリ  
ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ  
オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ  
イチハシシギゾウムシ  
ネジロツブゾウムシ  
カスミゾウムシ  
オチバアナアキゾウムシ  
ルイスヒゲボソゾウムシ  
クモマトラフバエ  
ルーミスシジミ  
ウラナミアカシジミ 紀伊半島南部亜種  
ベニシタバ  
ヒゴキンウワバ

マダラナニワトンボ *Sympetrum maculatum* Oguma, 1915 トンボ目 トンボ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	---------	----	------	---	---	-----------------

**選定理由** 全長 40 mm 程。アカネ属ではあるが、成熟個体であっても体色に赤みがない。水生植物の繁茂する池沼や湿原に生息する。模式産地を“Kii”として記載されたが、その後、和歌山県における記録や、減少の過程を示す報告はない。開発による生息環境の改変や、遷移によって減少し、絶滅したと考えられる。  
執筆者 (南 敏行・松野茂富)



- 参考文献・情報**
- 1 小熊 捍. 1915. 日本産蜻蛉科各属各種の検索表. 昆虫学雑誌, 1 (2) : 1-8 & 49-54.
  - 2 Oguma, K. 1922. The Japanese dragonfly-fauna of the family Libellulidae. Deutsche Entomologische Zeitschrift, 1 : 96-112.
  - 3 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮. 2013. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京. 写真: 青木典司提供 (県外産)

フサヒゲサシガメ *Ptilocerus immitis* Uhler, 1896 カメムシ目 サシガメ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	---------	----	------	---------	---	----------------

**選定理由** 全身扁平で、体表及び触覚に長毛を密生する。体表から甘い液を分泌して、アリ類を誘引して捕食するという珍しい生態を持つ。マツの樹皮下で発見される。  
和歌山県では、橋本市での記録 1 例のみで、70 年間再発見されておらず、本種の生息するようなマツの古木も減少しており、絶滅したものと思われる。  
執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 後藤 伸. 1950. 最近紀州より採集された異翅亜目 (Heteroptera) 種について. 南紀生物, 2 (1) : 95-97.
  - 2 後藤 伸. 1988. 和歌山県産異翅半翅類追補 II Reduviidae サシガメ科. 南紀生物, 30 (1) : 36-44. 写真: 酒井雅博提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

カワラハンミョウ *Cicindela laetescripta* Motschulsky, 1860 コウチュウ目 ハンミョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	---------	----	------	---------	---	-----------------

**選定理由** 上翅は暗緑灰色で、外縁の白色紋が様々に変化するため、特異な紋様を呈する。北海道から九州及び中国大陸に分布し、国内では総ての生息地で減少している。  
和歌山県では、坂口・池田の目録に記録されており、発見地が紀の川であるとされているが、不明な点が多い。目録以降 90 年近く再発見されていないため、絶滅したものと思われる。  
執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 坂口総一郎・池田義郎. 1932. 和歌山県産昆虫目録. 50pp. 和歌山県師範学校郷土室, 和歌山. 写真: 中村 進提供 (県外産)

ハラビロハンミョウ *Cicindela sumatrensis niponensis* Bates, 1883 コウチュウ目 ハンミョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	---------	---	-------------

雌の上翅両側が基部3分の1付近から明瞭に膨らむのが特徴。砂浜に生息する。本州中部～種子島に分布するが、生息地は少ない。

**選定理由** 和歌山県では1931年に白浜町で発見された記録があるが、90年間再発見されておらず、砂浜の改変等による環境悪化のため、絶滅したものと思われる。  
執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報** 1 中根猛彦. 1954. ハラビロハンミョウ本州南岸に産す. 新昆虫, 7 (10) : 38.  
写真: 島根県環境生活部自然環境課提供 (県外産)

スジゲンゴロウ *Hydaticus satoi* Wewalka, 1975 コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅 (EX)
--------	---------	----	------	---------	---	---------

中型のゲンゴロウで、上翅中央後方で合流する黄色の2縦条が特徴的。関東地方以西に分布するが、何れの産地でも稀である。全国的に減少が著しく、絶滅した産地も多い。

**選定理由** 和歌山県では1960年に3頭採集された記録があるが、その後県内で発見された記録はない。  
執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報** 1 Sato, M. 1961. *Hydaticus vittatus* and its allied species. Transactions of the Shikoku Entomological Society, 7 (1/2) : 54-64.  
写真: 渡部晃平提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

マルコガタノゲンゴロウ *Cybister lewisianus* Sharp, 1873 コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	-
--------	---------	----	------	---------	---	---

比較的大型のゲンゴロウで、黒い体に、体側が黄色く縁取られる。腹面は黄色。本種も全国的に減少傾向にあり、多くの府県で絶滅～絶滅危惧Ⅰ類に選定されている。大阪では絶滅と判定されている。

**選定理由** 和歌山県では、和歌山市友ヶ島と湯浅町の記録があり、標本も現存しているが、60年以上再発見されていない。  
執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報** 1 林 成多・初宿成彦. 2003. 大阪市立自然史博物館所蔵のゲンゴロウ類標本 特に稀少種及び絶滅危惧種について. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 57 : 11-20.  
2 楠井善久. 2008. 和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫. KINOKUNI, (73) : 14.  
3 森 正人. 2007. 和歌山県のマルコガタノゲンゴロウ. 月刊むし, (432) : 38.  
写真: 松野茂富提供 (県外産)

ギフチョウ *Luehdorfia japonica* Leech, 1889 チョウ目 アゲハチョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	---------	---	-------------

春、サクラの咲く頃に発生する日本固有のアゲハチョウ。雌雄とも色彩、斑紋はほとんど同じで交尾後の雌は受胎囊をつける。幼虫の食草はウマノスズクサ科のカンアオイ属。

## 選定理由

和歌山県では龍門山周辺と紀見峠から記録されていたが、農薬散布の影響やゴルフ場開発等により絶滅した。分布の南限の一つで龍門山の個体群は、特有の斑紋を持つ。紀見峠の個体群は、大阪府、奈良県境の金剛山や葛城山に産する個体群と共通し、龍門山に生息する個体群とは異なる。

なお、現在、龍門山周辺に生息しているものは、人為的な放蝶によるものである。

執筆者 (小島和也)



## 参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1996. 蝶類雑記 16 龍門山のギフチョウについて. KINOKUNI, (49) : 1-5.
  - 2 橋本説朗. 2001. ギフチョウ 500 市町村 2. 53-54. 105pp. セツロー社, 黒磯.
  - 3 日浦 勇. 1969. 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録, 第1集 : 13.
  - 4 河辺敏夫. 2001. 龍門山のギフチョウの衰亡. 季刊ゆずりは, (9) : 52-54.
  - 5 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 6 的場 績. 1998. ギフチョウ生息確認調査会の実施報告. KINOKUNI, (53) : 33.
  - 7 的場 績. 2003. 龍門山のギフチョウについて. KINOKUNI, (63) : 9.
- 写真 : 小島和也標本

台湾ツバメシジミ *Everes lacturnus* (Godart, 1824) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)
--------	---------	----	------	---------	---	------------------

本州 (和歌山県)、四国、九州及び南西諸島に分布する。ツバメシジミに似るが、裏面の斑紋が、本種では第7室の2紋、中室内基部及び内縁の各1紋、外縁肛角部付近の2紋だけが、濃黒色である。食草は主にマメ科のシバハギ。

## 選定理由

和歌山県では、すさみ町、那智勝浦町に記録があり、太地町、日高川町 (旧川辺町) にも記録があるが、現在は草地の消滅等により絶滅したと考えられる。

和歌山県は、本州で唯一の産地であった。

執筆者 (小島和也)



## 参考文献・情報

- 1 乾風 登. 1957. 本州にて初記録の台湾ツバメシジミ. 新昆虫, 10 (12) : 36.
  - 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 3 岡崎裕一. 1959. 東牟婁地方の蝶に就いて. 私たちの理科環境, 9 : 67-74.
  - 4 小路嘉明. 1986. 紀伊半島の台湾ツバメシジミは本当にいるか?. 蝶研フィールド, 1 (7) : 14-20.
- 写真 : 船橋智輝提供 (県外産)

シータテハ *Polygonia c-album* (Linnaeus, 1758) チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	—
--------	---------	----	------	---------	---	---

北海道から九州まで広く産するが、好寒地性の種で暖地では山地性の稀種となる。キタテハと類似するが、翅縁の凹凸は本種の方が強い。食樹はニレ科のハルニレなど。

選定理由

和歌山県では、和歌山市、有田市、龍門山、紀南地方の各地で稀に確認されていたが、広葉樹林の伐採、植林による生息環境の減少、温暖化等により、近年は全く見られず、絶滅したと思われる。

執筆者 (小島和也)



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1984. 蝶類雑記 (7) シータテハの生息地はどこ?. KINOKUNI, (25) : 21-23.
  - 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 3 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
  - 4 吉田昌男. 2016. 紀の川市で過去に採集した蝶. KINOKUNI, (90) : 12-13.
  - 5 湯川淳一. 1957. 和歌山県産蝶類目録 (2). 紀州昆虫, 2 : 6-13.
- 写真: 大橋弘和提供 (県外産)

オオウラギンヒョウモン *Fabriciana nerippe* (C. & R. Felder, 1862) チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	---------	----	------	---------	---	--------------------

本州、四国、九州に分布するが産地は局地的であり、近年での確実な生息地は、数箇所に過ぎない。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。食草は各種のスミレ属植物。

選定理由

和歌山県では、旧大塔村等、紀南地方を中心に分布していたが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、農薬散布の影響等により、現在は絶滅したと思われる。

全国的にも絶滅寸前の種である。

執筆者 (小島和也)



参考文献  
・情報

- 1 乾風 登. 1951. 蝶類新産地一東. 南紀生物, 3 (2/3) : 92.
  - 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 3 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
- 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ヒメヒカゲ *Coenonympha oedippus* (Fabricius, 1787) チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	---------	----	------	---------	---	-----------------

日本では本州に分布するが、産地は局地的である。雄の翅表は暗褐色で無紋、雌は色彩が淡く、裏面の眼状紋が発達する。食草は、カヤツリグサ科、イネ科。

選定理由

和歌山県では、葛城山にのみ記録があるが、拡大造林、草地の消滅等により絶滅した。分布南限の産地であった。

執筆者 (小島和也)



参考文献  
・情報

- 1 乾風 登. 1951. 蝶類新産地一東. 南紀生物, 3 (2/3) : 92.
- 2 青柳昌宏. 1951. 紀州で最初のヒメヒカゲ. 新昆虫, 4 (13) : 24.
- 3 有田 斉・前田善広. 2016. 珠玉の標本箱 (14) ジャノメチョウ亜科①, 15 : 17.

- 参考文献  
・情報 4 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.  
写真：大橋弘和提供（県外産）

ウラナミジャノメ *Ypthima multistriata* Butler, 1883 チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	---------	----	------	---------	---	-------------

選定理由

関東地方以西に分布するが、産地は局地的である。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雌は雄に比べ翅形が丸く、翅表の地色は、やや淡色。翅裏面の眼状紋が3個で、近似種のヒメウラナミジャノメ（5個）と区別される。食草は、イネ科、カヤツリグサ科等。



かつては和歌山市、有田川町（旧吉備町）、那智勝浦町、新宮市（旧熊野川町）等、和歌山県内各地に分布していたが、拡大造林、草地の消滅、農薬散布の影響等により、現在は絶滅したと思われる。

執筆者（小島和也）

参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1961. 友ヶ島の昆虫（Ⅱ）. 紀州生物, 2 : 19-20.
- 2 後藤 伸. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の蝶類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 133-139, 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
- 4 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
- 5 岡崎裕一. 1959. 東牟婁地方の蝶に就いて. 私たちの理科環境. 9 : 67-74.
- 6 吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI, (25) : 24-27.  
写真：大橋弘和提供（県外産）

キバネセセリ *Burara aquilina* (Speyer, 1879) チョウ目 セセリチョウ科

県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	-
--------	---------	----	------	---------	---	---

選定理由

セセリチョウの中では大型種。斑紋は雌雄で異なり、雄の表面は黄褐色でほとんど無紋。雌は前翅中室の端に1個の灰黄色斑があり、その外側に曲線状に灰黄色斑が並んでいる。飛翔は極めて速い。幼虫はハリギリの葉を食べる。



和歌山県では、日高川町八斗蒔や護摩壇山周辺で数頭採集された記録があるが、その後、確実な採集記録がなく、森林の伐採、造林の拡大、温暖化等により、絶滅したと考えられる。日本での分布の中心は中部地方以北で、西南日本での分布は局限される。特に紀伊半島は分布の南限の一つで、僅かな産地が知られているに過ぎない。なお、確認できた現存する標本は1頭のみだが、近年、不確実であるが、護摩壇山周辺で目撃したとの情報もあり、注意を要する。

執筆者（小島和也）

参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
- 2 山田一男. 1969. キバネセセリ龍神にて採集. 南紀生物, 11 (1) : 12.
- 3 吉村雅行. 1968. 有田地方の蝶類報告. 南紀生物, 10 (1/2) : 43-44.  
写真：大橋弘和提供（県外産）

コバネアオイトトンボ *Lestes japonicus* Selys, 1883 トンボ目 アオイトトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
--------	------------------	----	------	------------------	---	--------------

全長 40 mm 程。雌雄ともに成熟しても胸部に青白い粉を生じない。抽水植物の生える池沼に生息し、和歌山市、有田川町(旧金屋町)、岩出市、紀の川市(旧貴志川町)、御坊市、日高町、由良町から記録されているが、現在の確実な生息地は極めて限られる。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者 (南 敏行・松野茂富)



参考文献  
・情報

- 乾風 登. 1973. 和歌山県のトンボ相. 島孝夫教授退官記念論文集, 29-36.
- 関西トンボ談話会. 1977. 近畿のトンボ第4部. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 9: 83-153.
- 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 南 敏行. 2015. 御坊市でのコバネアオイトトンボの記録. KINOKUNI, (88): 4-5.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮. 2013. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京. 写真: 南 敏行撮影

アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883 トンボ目 ヤンマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------------	----	------	------------------	---	------------

全長は最大で 80 mm 程。体色は黒を基調とし、鮮やかな緑色の模様が体側面において大きく広がる。ヨシやガマ等の抽水植物が茂る池沼や湿地に生息し、和歌山市、海南市、紀の川市(旧那賀町・旧貴志川町)、日高町から記録されているが、確実な現在の生息地は確認されていない。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者 (南 敏行・松野茂富)



参考文献  
・情報

- 乾風 登. 1975. 県産新記録アオヤンマと稀種ハネビロエゾトンボ. 南紀生物, 17 (2): 59.
- 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本. KINOKUNI, (49): 15-19.
- 有本 智・南 敏行. 2004. 海南市孟子でアオヤンマを記録. KINOKUNI, (86): 1.
- 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 森光茂夫. 1978. 和歌山県におけるトンボ3種とその新分布地. 南紀生物, 20 (2): 92.
- 高松 勉. 1982. 那賀郡貴志川町でアオヤンマを目撃. KINOKUNI, (21): 17. 写真: 山本哲央提供 (県外産)

ルリボシヤンマ *Aeschna juncea* (Linnaeus, 1758) トンボ目 ヤンマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	------------------	----	------	-------------	---	---

全長 90 mm 程。体側面の黄色い模様は青みを帯びる。和歌山県においては山地の周囲に樹林のある止水域に生息し、有田川町(偶産と思われる)、高野町から記録されているが、生息環境及び個体数は元来少なかったと考えられ、現在の生息地は局地的である。生息環境の遷移によって減少したと考えられる。

執筆者 (南 敏行・松野茂富)



参考文献  
・情報

- 1 有本 智. 2000. 1998~1999年に生石山(和歌山県)で採集した特筆すべきトンボ類. 南紀生物, 42(1): 64.
- 2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ(データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 3 南 敏行. 2012. 和歌山県北・中部での最近のトンボ記録. KINOKUNI, (81): 1-4.  
写真: 山本哲央提供(県外産)

キイロヤマトンボ *Macromia daimoji* Okumura, 1949 トンボ目 ヤマトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	--------------------	----	------	--------------------	---	------------

全長 80 mm 程。コヤマトンボに似るが、体型はより細長く、オスの腹部第 3 節の黄斑は体側面において途切れる。平地から丘陵地にかけての河川中流域に生息し、幼虫は砂泥底に生息する。和歌山市、紀の川市(旧貴志川町)、紀美野町から記録されているが、生息地は局地的である。生息環境の開発による変化が減少の原因であると考えられるが、成虫・幼虫共にコヤマトンボと誤認されている可能性があり、今後の調査が期待される。



執筆者(南 敏行・松野茂富)

参考文献  
・情報

- 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ(データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 2 松野茂富. 2021. 和歌山県立紀伊風土記の丘におけるキイロヤマトンボ *Macromia daimoji* Okumura, 1949 の記録. 和歌山県立紀伊風土記の丘研究紀要, 8: 52-53.
- 3 南 敏行. 2012. 和歌山県北・中部での最近のトンボ記録. KINOKUNI, (81): 1-4.
- 4 蜻蛉研究会. 1988. キイロヤマトンボについて—第 2 報・水域における♂の行動—. 月刊むし, (207): 26-29.  
写真: 松野茂富撮影

オオキトンボ *Sympetrum uniforme* (Selys, 1883) トンボ目 トンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	--------------------	----	------	--------------------	---	-----------------

全長 50 mm 程。翅を含む全身が黄褐色。平地の、抽水植物の繁茂した明るい池沼に生息し、特に定期的に池干しを行うため池を好む。和歌山市、海南市、紀の川市から記録されているが、近年は認められない。生息環境の開発や管理放棄による環境の悪化によって減少したと考えられる。



執筆者(南 敏行・松野茂富)

参考文献  
・情報

- 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ(データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
写真: 山本哲央提供(県外産)

タガメ *Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy, 1864) カメムシ目 コオイムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------------	----	------	------------------	---	-------------

日本最大の水生半翅類であり、メスの体長は65 mm程になる。メスは木の杭や草本に産卵し、オスが孵化まで保護する。和歌山県において、かつては水田などで普通に見られたが、最近の情報は極めて少ない。

**選定理由** これまでに湯浅町、田辺市、串本町、那智勝浦町、古座川町から記録されている。沼地や湿地、水田にて見られる種であるが、水辺環境の区画整備や、農薬散布、街灯の普及によって減少したと考えられ、絶滅が危惧される。



執筆者 (松野茂富)

**参考文献  
・情報**

- 1 後藤 伸. 1981. 人里の水生昆虫 タガメ. 南紀生物, 23 (1) : 15.
- 2 南 敏行. 2015. 和歌山県南部のタガメ標本について. KINOKUNI, (88) : 7.
- 3 弓場武夫. 1987. 水生昆虫2題-ハッチョウトンボとタガメ-. 南紀生物. 29 (2) : 132.  
写真: 松野茂富撮影 (県外産)

ヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esaki, 1925 カメムシ目 タイコウチ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	-
--------	------------------	----	------	------------------	---	---

タイコウチより小型であり、体型はより幅広く、呼吸管は非常に短い。後翅は退化傾向であり、飛翔しないと考えられる。現在は橋本市において確認されるが、生息環境が極めて脆弱である。やや鬱閉した湿地や、ため池の縁、水田の周辺で見られるが、これら生息環境の開発による改変や、耕作放棄による環境の遷移によって個体群は容易に消滅すると考えられる。

**選定理由**

執筆者 (松野茂富)



**参考文献  
・情報**

- 1 中尾史郎・松本 功・井上和彦. 2011. 奈良県と和歌山県における最近10年間のヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esaki の生息場所の減少要因. 京都府立大学学術報告. 生命環境学, 63 : 25-28.  
写真: 松野茂富撮影

コバンムシ *Ilyocoris cimicoides exclamationis* (Scott, 1874) カメムシ目 コバンムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
--------	------------------	----	------	------------------	---	--------------

体長10 mm程で、頭部と胸部は鮮やかな緑色。前脚は鎌状であり、これで水生昆虫等を捕食する。産地が局所的であり、和歌山県における近年の記録がまったくなく、絶滅が危惧される。水生植物が豊富なため池などの止水域に生息し、これまでに和歌山市から1例のみが知られる。開発による環境の改変や、環境の遷移によって減少したと考えられる。

**選定理由**

執筆者 (松野茂富)



**参考文献  
・情報**

- 1 乾風 登・後藤 伸・的場 績・宮武頼夫・吉田元重. 2012. コバンムシ. 保全上重要な和歌山の自然 和歌山県レッドデータブック. 120. 和歌山県環境生部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山.  
写真: 松野茂富撮影 (県外産, 和歌山県立自然博物館所蔵標本)

トゲナベブタムシ *Aphelocheirus nawae* Nawa, 1905 カメムシ目 ナベブタムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 II 類 (VU)
--------	--------------------	----	------	---	---	----------------

体長 10 mm 程で、ナベブタムシに似る。胸部及び腹部の側部が尖り、後方に曲がる。和歌山県において古い記録はあるものの、最近の記録がまったくなく、生息状況は不明である。河川中流域や、

**選定理由** 農業用水路の砂礫底に生息し、田辺市（旧中辺路町）から記録されている。開発による環境の改変や、農薬の使用による水質の悪化によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



**参考文献** 1 安田稔. 1980. 富田川水系の大型底生動物. 南紀生物, 22 (2) : 101-108.  
**・情報** 写真: 松野茂富撮影 (県外産, 和歌山県立自然博物館所蔵標本)

オオクチブトカメムシ *Picromerus fuscoannulatus* Stal, 1858 カメムシ目 カメムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	-
--------	--------------------	----	------	--------------------	---	---

クチブトカメムシに似るが、やや大型。前胸側縁が鋭く突出する。主として北海道～本州北部に分布し、和歌山県が南限になる。

**選定理由** 和歌山県では高野山で記録されているが、1950 年代以降発見されていない。

執筆者（的場 績）



**参考文献** 1 後藤 伸. 1985. 和歌山県産異翅半翅類昆虫追補 (I). 南紀生物, 27 (1) : 31-34.  
 2 後藤 伸. 2001. 和歌山県産カメムシ類の再録及び追補 5. KINOKUNI, (60) : 5-9.  
**・情報** 写真: 松野茂富提供 (県外産, 和歌山県立自然博物館所蔵標本)

オオウスバカゲロウ *Heoclisia japonica* (Hagen, 1866) アミメカゲロウ目 ウスバカゲロウ科

県カテゴリー	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	--------------------	----	------	---	---	---

日本産ウスバカゲロウ科の最大種である。幼虫はすり鉢状の巣を作らず、砂の表層に潜伏する。和歌山県においては笠塔山から 1 例の記録があるのみ。幼虫は海浜植物の生える砂浜、河川の砂礫地に生息し、成虫もその周辺で見られる。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

執筆者（松野茂富）



**参考文献** 1 後藤 伸. 2001. 昆虫相 (笠塔山森林公園) [昆虫確認目録]. くろしお, (20) : 59-64.  
**・情報** 写真: 吉富博之提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspecularis* (W. Horn, 1904) コウチュウ目 ハンミョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------------	----	------	------------------	---	-------------

河口汽水域の干潟に生息する種で、幼虫も海水が冠水する汽水域に生息している。和歌山県では白浜町日置川河口にのみ生息し、本州での東限及び南限になる。



**選定理由** 生息地での生息数は少なくないが、産地が限られること、生息地の改変の危機が高いこと等により、常に絶滅の危機にさらされている。なお、2016年に本種の生息地は県の天然記念物に指定されているが、マニアの密猟もあり、注意を要する。

執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 2011. 和歌山県産甲虫類分布資料 24. KINOKUNI, (79) : 11-13.
- 2 吉田元重. 2011. 後藤伸氏採集による甲虫類. KINOKUNI, (80) : 19-28.  
写真: 南 敏行提供

カワラゴミムシ *Omophron aequalis* Morawitz, 1863 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	-
--------	------------------	----	------	------------------	---	---

半球状の体型を持った特異な昆虫で、河原の砂地に生息し、灯火にもよく飛来する。生息地は改変されやすい環境にあり、紀の川 (かつらぎ町) と有田川町 (旧清水町) 二川ダムで記録されているが、20年以上再発見されていない。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 平松広吉. 1996. 紀の川河原の甲虫類数種の記録. KINOKUNI, (49) : 24-25.  
写真: 松野茂富提供 (県外産, 和歌山県立自然博物館所蔵標本)

シモヤマミズギワゴミムシ *Bembidion shimoyamai* Habu, 1978 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	------------------	----	------	-------------	---	---

本州北部と本県にのみ分布する稀少種。上翅は瑠璃色に輝き、脚が黄色。青森県では湿地上に突き出た倒木上を徘徊しているそうである。

選定理由

和歌山県では、1971年に日高川町 (旧美山村) 西ノ河原生林の砂防ダム上方河原に堆積した倒木上を徘徊していた個体が多数採集された。

その後50年間、再発見されていない。周辺の森林環境及び本種の生息環境は悪化しており、再発見の可能性も低くなっている。

西ノ河以外の生息地も発見されていない。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 2000. 八斗峠産キアシルリミズギワゴミムシの訂正. KINOKUNI, (58) : 38.
- 2 的場 績. 2001. 和歌山の甲虫 51 シモヤマミズギワゴミムシ. 自然博物館だより, 19 (3) : 5.  
写真: 的場 績撮影

**オオヒョウタンゴミムシ** *Scarites sulcatus* Oliver, 1795 **コウチュウ目** **オサムシ科**  
 県カテゴリー **絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)** 旧県 2012 **絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)** 国 **準絶滅危惧 (NT)**

**選定理由** ヒョウタンゴミムシの仲間では最大の種。大あごが発達し、一見クワガタムシを想像させる。本県では和歌山市、有田市、美浜町などに生息しているが、海浜の整備や宅地化の影響のために、生息地が破壊され、個体数が激減している。

現在、和歌山市の砂丘地に残された墓地や公園緑地等で少数が発見されるが、他では再発見されていない。

執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報**

- 1 後藤 伸. 1957. 和歌山市内のオオヒョウタンゴミムシ. 紀州昆虫, 1: 36-37.
  - 2 栗山 寛・桑原幸男. 1972. ゴミの下で採集した甲虫. KINOKUNI, (3): 7.
- 写真: 的場 績撮影

**ムツボシツヤコツブゲンゴロウ** *Canthydrus politus* (Sharp, 1873) **コウチュウ目** **コツブゲンゴロウ科**  
 県カテゴリー **絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)** 旧県 2012 **絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)** 国 **絶滅危惧Ⅱ類 (VU)**

**選定理由** 小型のゲンゴロウで、黄褐色地に暗褐色紋を有し、光沢のある綺麗な種である。全国的にも産地は局所的で、和歌山県では和歌山市友ヶ島の深蛇池に生息していたが、水質汚濁が著しくなり、1990年以降発見されていない。また、深蛇池以外の生息地も未だ発見されていない。本県では限りなく絶滅に近い種である。

執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報**

- 1 森 正人・北山 昭. 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 218pp. 文一総合出版, 東京.
- 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**ゲンゴロウ** *Cybister japonicus* Sharp, 1873 **コウチュウ目** **ゲンゴロウ科**  
 県カテゴリー **絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)** 旧県 2012 **絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)** 国 **絶滅危惧Ⅱ類 (VU)**

**選定理由** かつては県内全域に分布していたが、近年急速に生息地が減少し、1990年頃には田辺市本宮町皆地が県内における唯一の確実な生息地になってしまった。その後同地の生息地の改修工事があり、環境が激変し絶滅した。

かつらぎ町にも新たに生息地が発見されたが、ここも圃場整備のための大規模な改修工事があり、工事以降の生息が確認されていない。

現在、和歌山県内においては限りなく絶滅に近い状態である。

執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報**

- 1 楠井善久. 2008. 和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫. KINOKUNI, (73): 1-4.
- 写真: 有本 智提供 (県外産)

**コガタガムシ** *Hydrophilus bilineatus cashimirensis* Redtenbacher, 1892 **コウチュウ目** **ガムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------------	----	------	------------------	---	-------------

ガムシに次ぐ大型種で、後胸突起は長く、腹部に細毛を有す。  
湯浅町で1960年に採集された記録があるが、1個体の標本が残存するのみ。

選定理由

湯浅町以外では記録されておらず、標本も見ない。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報 1 楠井善久. 2008. 和歌山県湯浅町において近年見られなくなった水生昆虫. KINOKUNI, (73) : 1-4.  
写真: 松野茂富提供 (県外産, 和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**シリグロナカボソタマムシ** *Coraebus nigromaculatus* Y. Kurosawa, 1953 **コウチュウ目** **タマムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	-
--------	------------------	----	------	------------------	---	---

緑色を帯びた唐金色で、上翅後半に帯紋を持つ美麗種。中国と朝鮮に近似種がいることから、日本産は亜種として扱われていたが、現在では独立種として扱われている。

選定理由

和歌山県では護摩壇山が唯一の産地であり、1951年にミズナラ葉上で採集された1頭のみで、その後の記録はなく、絶滅が危惧されている。なお、この標本がタイプ標本に指定されており、護摩壇山が本種の模式産地である。

執筆者 (的場 績)



参考文献・情報

- 1 Kurosawa, Y. 1953. Synonymies and identification of genus *Coraebus* from eastern Asia, with description of several new forms (Coleoptera, Buprestidae). Bulletin of the National Science Museum, 33 : 96-109.  
2 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.  
写真: 有限技社 むし社提供 (県外産, 日本産タマムシ大図鑑より転載)

**ヤマトオサムシダマシ** *Blaps japonensis* Marseul, 1879 **コウチュウ目** **ゴミムシダマシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------------	----	------	------------------	---	------------

本州~九州に分布し、古い家屋の床下や納屋等で発見される。乾燥した藁屑などの植物遺骸を食べると思われる。

選定理由

和歌山県では田辺市、御坊市、由良町、橋本市などで発見されているが、1977年に橋本市で少数発見されたのを最後に発見例がない。

農業形態の変化により、農家の納屋に稲わらの蓄積がなくなったことなどが、本種の減少の一因と思われる。

執筆者 (的場 績)



参考文献・情報

- 1 青柳昌宏. 1961. 和歌山県に産するゴミムシダマシ. 紀州生物, 1 : 16-25.  
2 楠井善久. 1991. ヤマトオサムシダマシの古い記録. 南紀生物, 33 (1) : 36.  
写真: 松野茂富提供 (県外産)

イッシキキモンカミキリ *Glenea centroguttata* Fairmaire, 1897 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------------	----	------	---	---	---

真っ黒な上翅に、縦に並ぶ大きな三黄紋が特徴的な美麗種。体下面も黄色微毛で覆われる。幼虫はヌルデの枯れ木を食べ、成虫はクワの葉を食べる。

**選定理由** 和歌山県では、70年前に生石山で採集された1個体のみの記録しかない。成虫が後食するクワの木は、桑畑が壊滅的な状態にあり、野生のクワも年々少なくなっており、再発見の可能性も年々低くなっている。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 後藤 伸. 1951. イッシキキモンカミキリ本州にも産する. 紀州昆虫, 3 (2/3) : 68.  
・情報 写真: 的場 績撮影 (県外産)

ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana* (Butler, 1881) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	------------------	----	------	-------------	---	---

雌雄の斑紋はほとんど同じで、雌は雄に比べ翅形が幅広く、翅表の色彩がやや淡く、裏面の色彩は明るい。日本固有種で、食樹は、モクセイ科のトネリコ、アオダモ類。

**選定理由** 和歌山県では護摩壇山や果無山系周辺に分布するが、造林や林道建設等による自然林の減少、生息環境の破壊等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。

執筆者 (小島和也)



**参考文献** 1 後藤 伸. 1994. 1993~1994年紀伊半島南部の蝶界雑録. くろしお, (13) : 29-32.  
2 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯 (紀伊半島) の昆虫相資料Ⅰ蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.  
3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.  
4 斎藤基樹. 2019. 和歌山のゼフィルス雑記 最終回 思いつくままあれこれ. KINOKUNI, (95) : 13-23.  
5 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.  
・情報 写真: 大橋弘和提供

クロツバメシジミ *Tongeia fischeri* (Eversmann, 1843) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------------	----	------	-------------	---	------------

関東・中部地方から南に局地的に分布する。翅表の色彩は、雌雄とも黒褐色で、雌は翅形がわずかに丸みが強いくらいで、外観による雌雄の判別は難しい。食草は主にベンケイソウ科のツメレンゲ。

**選定理由** 和歌山県では、和歌山市から御坊市にかけて記録があるが、食草の生育できる瓦屋根のある人家の減少、つる性植物等、他の植物の繁茂による食草の生育環境の悪化等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。

多肉植物に依存した特異な種である。

執筆者 (小島和也)



**参考文献** 1 小島和也. 2008. クロツバメシジミとベニシジミの異常型の記録. KINOKUNI, (73) : 16.  
・情報 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.

- 参考文献・情報
- 3 諏訪隆司. 1998. 蝶三題. KINOKUNI, (53) : 21.
  - 4 竹井 一. 1999. 日本産蝶類の採集データ集. SPINDA, 14 : 106-125.
  - 5 鷲尾恭助. 1990. 和歌山県御坊市のクロツバメシジミ. 蝶研フィールド, 5 (7) : 21-26.
- 写真：大橋弘和提供

**ウラギンスジヒョウモン** *Argyronome laodice* (Pallas, 1771) チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------------	----	------	------------------	---	-------------

北海道から九州まで各地に広く分布する。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。オオウラギンスジヒョウモンに似るが、本種の方が前翅端の突出が弱く丸みがあり、裏面の斑紋も若干の差異がみられる。食草は各種のスミレ属植物。



選定理由

和歌山県では、かつて、山間部の草原に比較的普通に生息し、龍門山、生石高原～海南市鏡石山付近等に記録があるが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、減少が著しく、近年の記録がない等、絶滅が危惧される。

全国的に見ても普通種的な存在であったが、最近では減少している。

執筆者 (小島和也)

参考文献・情報

- 1 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 2 吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI, (25) : 24-27.
  - 3 吉村輔倫. 2005. 和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノートー有田地方を中心にー. KINOKUNI, (67) : 14-16.
- 写真：金岡晃司提供 (県外産)

**アオハダトンボ** *Calopteryx japonica* Selys, 1869 トンボ目 カワトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	—	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	---	---	------------

全長 60 mm 程。ハグロトンボに似るが、オスの翅は藍色の金属光沢を帯び、メスの翅は偽縁斑を備える。河川中流域の抽水植物が豊富な場所に生息する。2014年にかつらぎ町から記録されて以降、安定して確認されているが、他の生息地はこれまでに見つかっていない。成虫・幼虫ともに前述のハグロトンボと誤認されている可能性があり、新たな生息地の発見が期待される。



選定理由

執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報

- 1 南 敏行. 2015. 紀の川支流穴伏川系でアオハダトンボが生息. KINOKUNI, (88) : 3.
  - 2 宮崎俊行. 2015. アオハダトンボを和歌山県で発見. Gracile, (75) : 1-3.
  - 3 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮. 2013. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京.
- 写真：松野茂富撮影 (県外産)

ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883 トンボ目 ヤンマ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

選定理由

全長 85 mm 程。腹部は太く、くびれない。平地や丘陵地の湿地や放棄水田等の浅い止水に生息する。和歌山市、海南市、串本町、古座川町、太地町、那智勝浦町から記録されているが、生息地は局所的である。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。

執筆者 (南 敏行・松野茂富)



参考文献・情報

- 1 有本 智. 2001. 孟子トンボ谷 孟子不動谷トンボ観察ハンドブック. 48pp. 自然回復を試みる会 ピオトープ孟子, 海南.
- 2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 3 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.
- 4 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について (2). KINOKUNI, (78) : 1-7.

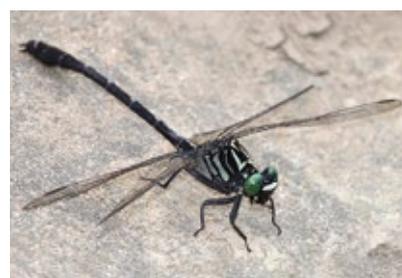
写真: 松野茂富撮影

キイロサナエ *Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883) トンボ目 サナエトンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

選定理由

全長 70 mm 程。ヤマサナエに似るが、雌雄ともに腹部末端の付属物で区別できる。河川中流域から下流域にかけての流れの緩やかな砂泥底に生息する。海南市、紀の川市 (旧桃山町・旧粉河町)、串本町、御坊市、太地町、田辺市、日高川町 (旧川辺町)、由良町から記録されているが、稀な種である。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報

- 1 南 敏行. 2013. 和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅱの追加種 新宮市浮島 (浮島の森). KINOKUNI, (83) : 1-2.
- 2 南 敏行. 2014. 和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅴ太地町 (河立). KINOKUNI, (85) : 1-8.

写真: 金岡晃司提供 (県外産)

アカエゾゼミ *Tibicen flammatus* (Distant, 1892) カメムシ目 セミ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由

エゾゼミに似るが、前胸背が赤褐色を呈する。ブナ林を中心とした山地帯に生息する。

和歌山県では護摩壇山から日高川町八斗蒔周辺に生息するが、鳴き声は年々少なくなっているように思われる。

和歌山県の産地は南限分布地に該当する。減少の理由は不明。

執筆者 (的場 績)



参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1998. 1996年以降のセミ類観察・採集記録. KINOKUNI, (53) : 9.
- 2 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ昆虫たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.

- 参考文献 3 吉田元重・後藤 伸. 1967. 西ノ河原生林に見られた注目すべき昆虫類. 南紀生物, 9 (1) : 27.  
・情報 写真: 的場 績撮影

**テングオオヨコバイ** *Tengirhinus tengu* Ishihara, 1953 カメムシ目 カムリヨコバイ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

襲速紀要素の昆虫として知られており、産地は極めて局所的である。  
生態はよく分かっていないが、オタカラコウに依存している。

静岡県以西に分布し、和歌山県では葛城山、三国山、護摩壇山、果無  
選定理由 山脈、新宮市田長谷で記録されている。

オタカラコウの生育するような湿潤な環境は少なくなり、このような  
環境は、造林やワサビ畑等に改変されやすく、不安定である。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献 1 後藤 伸. 1984. テングオオヨコバイについて. 南紀生物, 29 (1) : 58-60.  
・情報 写真: 的場 績撮影

**エサキアメンボ** *Limnporus esakii* (Miyamoto, 1958) カメムシ目 アメンボ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

体長 10 mm 程で、体側部は白銀色を帯び、生体ではこれがよく目立  
つ。和歌山県では紀の川流域と、和歌山市北部から記録がある。河川の  
選定理由 ワンドや植物が豊富な池沼で見られ、上空が鬱閉した水面を好む。しば  
しば集団で発見されるが、日光が直接当たる明るい水面ではほとんど見  
られない。開発による環境の改変や、環境の遷移によって減少したと考  
えられる。

執筆者 (松野茂富)



- 参考文献 1 乾風 登・後藤 伸・吉田元重. 1983. 友ヶ島の昆虫綱目録 友ヶ島学術調査. 259. 296pp. 関西自然保  
・情報 護機構, 和歌山.  
2 中尾史郎・江種伸之. 2007. エサキアメンボ *Limnporus esakii* のメタ個体群構造. 環境情報科学論文集,  
21 : 99-104.  
写真: 的場 績提供

**オオコオイムシ** *Appasus major* (Esaki, 1934) カメムシ目 コオイムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

コオイムシに似るが、前胸背板中央の窪みはより深く、  
前脚腿節はより太い。産地がやや局所的な種であり、和歌  
選定理由 山県における安定した産地は少なく、田辺市 (旧本宮町)  
と高野町から記録がある。水草の豊富な池沼、湿地に生息  
するが、生息環境の開発による改変や遷移、農薬の使用に  
よって減少したと考えられる。

執筆者 (松野茂富)



- 参考文献 1 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ昆虫たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.  
・情報 写真: 松野茂富撮影 (県外産)

ミヤケミズムシ *Xenocorixa vittipennis* (Horváth, 1879) カメムシ目 ミズムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

## 選定理由

最大で 10 mm 程であり、頭部の複眼間は黄色味が強い種である。かつては和歌山県において普通に見られたようであるが、現在では激減しており、和歌山市からのみ記録されている。水生植物が豊富な池沼に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移によって減少したと考えられる。

執筆者 (松野茂富)



## 参考文献・情報

- 1 乾風 登・後藤 伸・吉田元重. 1983. 友ヶ島の昆虫綱目録 友ヶ島学術調査. 260. 296pp. 関西自然保護機構, 和歌山.  
写真: 松野茂富撮影 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ハリサシガメ *Acanthaspis cincticrus* Stål, 1859 カメムシ目 サシガメ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

## 選定理由

中型のカメムシ類。捕食性で前脚は鎌状を呈する。地表を歩行しアリ類を捕食するという特異な習性を持つ。

和歌山県では龍門山山麓で発見された記録があるのみで、現在では農地に改変されており、農薬の影響もあり、絶滅が危惧される。

執筆者 (的場 績)



## 参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1988. 和歌山県産異翅半翅類追補Ⅱ Reduviidae サシガメ科. 南紀生物, 30 (1) : 36-44.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ナカボシカメムシ *Menida musiva* (Jakovlev, 1876) カメムシ目 カメムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

## 選定理由

体は淡褐色、前胸背と小楯板に小黑斑を有するのが特徴。

照葉樹林からブナ帯まで分布し、ブナ科植物で生活している。北海道～九州まで広く分布するが、個体数は少ないようである。和歌山県では、橋本市三石山、護摩壇山、大塔山系から知られているが、近年は殆ど発見されていないようである。特に三石山では絶滅したと考えられている。

執筆者 (的場 績)



## 参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1967. 紀州の異翅半翅目昆虫Ⅳ. 南紀生物, 9 (2) : 56-61.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ツノアカツノカメムシ *Acanthosoma haemorrhoidale angulatum* Jakovlev, 1881 カメムシ目 ツノカメムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

革質部と膜質部の赤斑はミヤマツノカメムシに似るが、前胸背の側角は強く張り出し赤い。幼虫はナナカマドの実に寄生する。

全国的にも稀少種であるが、和歌山県では護摩壇山の標高 1000 m 以上の山頂付近のみから知られている。

1990 年以降の採集記録がない。

護摩壇山が本州における南限分布地の一つである。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1967. 紀州の異翅半翅目昆虫 IV. 南紀生物, 9 (2) : 56-61.
- 2 後藤 伸. 1983. 護摩壇山のツノカメムシ類. 南紀生物, 25 (2) : 219-220.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

セアカオサムシ *Carabus tuberculatus* (Dejean & Boisduval, 1829) コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

日本全土に分布する草原性のオサムシで、和歌山県では生石山、龍門山、紀の川河川敷で発見されている。ミミズや昆虫の幼虫を求め徘徊するようで、かつては、生石山自動車道の側溝に落下した個体を発見することが多かったが、近年は全く発見出来なくなった。しかし、ススキ草原には少ないながらも生息しているようである。

龍門山や紀の川河原では、近年の発見例は全くない。

執筆者 (的場 績)



選定理由

参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1994. 和歌山の甲虫 30 セアカオサムシ. 和歌山県立自然博物館だより, 12 (1) : 3.
- 2 梅本 実. 1973. 和歌山県のオサムシ覚え書き. KINOKUNI, (22) : 3-4.  
写真: 梅本 実提供

ウミホソチビゴミムシ *Pelileptus morimotoi* S. Ueno, 1955 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	-------------	---	------------

汽水域に生息する小型のゴミムシで、近似のホソチビゴミムシと混棲することが多いが、本種の方が色彩が濃く、扁平で、複眼の突出が弱いことにより区別できる。

和歌山県では白浜町富田川河口、那智勝浦町太田川河口で発見されているが、常に河川改修などの脅威にさらされており、存続が危ぶまれている。

河川汽水域の砂礫中に潜っているので、各河川の河口でも発見される可能性がある。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 田中昭太郎. 1984. 和歌山県とその周辺の歩行虫. KINOKUNI, (26) : 18-20.
- 2 田中昭太郎. 1993. 紀伊半島のチビゴミムシ—特にキイメクラチビゴミムシ属の分布について—, くらしお, (12) : 12-15.  
写真: 松野茂富提供 (県外産)

**ダイミョウアトキリゴミムシ** *Cymindis daimio* Bates, 1873 **コウチュウ目** **オサムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

上翅が赤褐色で、中央後半から翅端にかけてU字型の青藍色紋を有する顕著な種類。通常は河原のヨシ原に生息する。

和歌山県では紀の川の小豆島に多産地があったが、紀の川大堰に伴う河川改修工事のため、生息地が破壊されてしまった。他にはかつらぎ町にかけて紀の川流域に小規模な生息地があるが、常に河川改修の脅威にさらされている。

2012年に生石山自動車道の側溝に落下している本種1個体が発見され、生石山ススキ草原にも生息していることが判明した。

執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報**

- 1 平松広吉. 1996. 紀の川河原の甲虫類の記録. KINOKUNI, (49): 24-25.
- 2 平松広吉. 2001. ダイミョウアトキリゴミムシを伊都郡で採集. KINOKUNI, (60): 15.
- 3 的場 績. 2012. 和歌山県産甲虫類分布資料 27. KINOKUNI, (82): 22-23.

写真: 的場 績撮影

**ヨツボシヒラタシデムシ** *Dendroxena sexcarinata* Motschulsky, 1862 **コウチュウ目** **シデムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

本邦産シデムシ科の中では色彩的に最も綺麗な種で、樹上生活をし、鱗翅目の幼虫を捕食する。

和歌山県では、護摩壇山で2頭採集された記録と城ヶ森山で1頭採集された記録があるのみ。この2産地は昆虫愛好家が数多く訪れ、調査されているが、本種の発見はこれ以外にはなされていない。

和歌山県内では、かなり稀少な種であり、種の存続基盤は脆弱である。

執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報**

- 1 的場 績. 2020. ヨツボシヒラタシデムシを城ヶ森山で採集. KINOKUNI, (97): 25.
- 2 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.

写真: 的場 績撮影

**ミヤマツヤハダクワガタ** *Ceruchus lignarius monticola* Nakane, 1978 **コウチュウ目** **クワガタムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	-------------	----	------	------------	---	---

ツヤハダクワガタの本州中部亜種。本州の関東以西の山地に分布する。本県では近年になって分布が確認された。

護摩壇山のごく限られた範囲で、多湿な赤色腐朽した倒木内に生息するが、乾燥化が進んだ護摩壇山ではこのような良好な腐朽倒木が少なくなっているため、本種の存続が厳しい状況にある。

護摩壇山が本種の分布南限にあたる。

執筆者 (的場 績)



**参考文献・情報**

- 1 小島和也. 2021. ミヤマツヤハダクワガタの記録. KINOKUNI, (100): 26.
- 2 的場 績. 2022. ミヤマツヤハダクワガタの生息調査. KINOKUNI, (101): 26.

写真: 的場 績撮影

**ルイスツノヒョウタンクワガタ** *Nigidius lewisi* Boilau, 1905 コウチュウ目 クワガタムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

小型のクワガタムシで、タブやシイなどの朽ち木内で生活する。南西諸島から紀伊半島にかけて分布し、和歌山県が北限の生息地である。

**選定理由** 那智勝浦町の限られた場所のみ生息し、生息範囲も狭小である。収集家の乱獲に遭うと絶滅しかねない。早急な保護策が必要である。

執筆者 (的場 績)



**参考文献  
・情報**

- 1 的場 績. 1987. ルイスツノヒョウタンクワガタ県下に産す. KINOKUNI, (31) : 14.
- 2 的場 績. 1997. 和歌山の甲虫 44 ルイスツノヒョウタンクワガタ. 和歌山県立自然博物館だより, 15 (3) : 3.

写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**ヒメオオクワガタ** *Nipponodorcus montivagus montivagus* (Lewis, 1883) コウチュウ目 クワガタムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

ブナ帯に生息する大型のクワガタムシで、成虫はヤナギの枝を傷つけ、樹液をなめる。幼虫は林内の多湿な朽ち木に生息する。

30年ほど前までは、護摩壇山で少なからず見られたが、近年殆ど姿を

**選定理由** 見なくなった。

和歌山県では、主に護摩壇山で確認されており、城ヶ森山や果無山脈でも発見されている。

執筆者 (的場 績)



**参考文献  
・情報**

- 1 梅本 実. 1972. ヒメオオクワガタの採集例. KINOKUNI, (4) : 5.

写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**ミヤマダイコクコガネ** *Copris pecuarius* Lewis, 1884 コウチュウ目 コガネムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

大型の食糞性コガネムシで、幼虫は大型哺乳類の糞を食している。

成虫は灯火にも飛来し、和歌山県における採集記録は、全て灯火に

**選定理由** 飛来した個体である。紀伊半島では中部山地帯にわずかに生息するが、本県では護摩壇山系で採集された2個体のみである。

執筆者 (的場 績)



**参考文献  
・情報**

- 1 的場 績. 1989. 和歌山県における糞虫数種. KINOKUNI, (35) : 28.
- 2 的場 績. 2000. 和歌山県産甲虫類分布資料 7. KINOKUNI, (58) : 17-18.

写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

キンスジコガネ *Mimela holosericea* (Fabricius, 1789) コウチュウ目 コガネムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	-
--------	-------------	----	------	------------------	---	---

選定理由 中型のコガネムシで、体表面が皺状に印刻され、緑色金属光沢を帯びる美麗種。生態はよく分かっていないが、灯火に飛来することが多く、県内での採集記録は全て灯火採集によるものである。

和歌山県では高野山、護摩壇山、果無山脈、大塔山系等で採集されているが、護摩壇山山系以外の正式な記録はない。護摩壇山山系でも数頭の記録しかない。2022年8月には城ヶ森山でも1個体が発見されている。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 井賀 哲. 2019. 最近の採集記録より. KINOKUNI, (96) : 30-31.
  - 2 松林 寛. 2022. 私信.
  - 3 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅. 写真: 的場 績撮影

トラハナムグリ *Trichius japonicus* Janson, 1885 コウチュウ目 コガネムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由 山地性のハナムグリで、高野山や護摩壇山等の1000m級の山地で1950年代は見られたが、自然林伐採後は急速に個体数が減少し、現在では全く見られない。和歌山県南部の大塔山周辺や熊野川流域では現在でもわずかに見られる。

ノリウツギやリョウブの花に飛来するが、熊野川流域ではヒメジョオンの花に飛来する。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 的場 績. 1981. トラハナムグリを採集する. KINOKUNI, (19) : 11.
  - 2 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅. 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

アヤムネスジタマムシ *Chrysodema lewisi* E. Saunders, 1873 コウチュウ目 タマムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	-
--------	-------------	----	------	------------------	---	---

選定理由 南方系のタマムシで、和歌山県では串本町から和歌山市にかけての沿岸域のウバメガシ林で発見されていたが、40年近く発見されていなかった。2010年頃から、串本町やすさみ町、和歌山市等で、少ないながらも再発見されるようになっている。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 井賀 哲. 2019. 最近の採集記録より. KINOKUNI, (96) : 30-31.
  - 2 児玉 洋. 2019. アヤムネスジタマムシの採集記録. KINOKUNI, (96) : 25.
  - 3 吉田元重. 1952. 和歌山県に於ける吉丁虫について (2). 南紀生物, 4 (1/2) : 43-46. 写真: 松野茂富提供 (県外産, 和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ミヤマナカボソタマムシ *Coroebus montanus* Miwa & Chûjô, 1940 コウチュウ目 タマムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由 本州中部以西に分布する中型のタマムシで、和歌山県では高野山と護摩壇山で採集され、ブナ・ミズナラ帯に生息するものと思われていたが、近年、白浜町将軍川林道でも採集されているので、標高に関係なく、食樹の分布に影響されることが分かった。食樹はサワフタギとタンナサワフタギである。



執筆者 (的場 績)

- 参考文献・情報
- 1 平松広吉. 2014. 高野山でミヤマナカボソタマムシを採集. KINOKUNI, (86) : 15.
  - 2 的場 績. 2019. 和歌山県産甲虫類分布資料36. KINOKUNI, (96) : 35-36.
  - 3 梅本 実. 1983. 護摩壇山の甲虫類7種. KINOKUNI, (24) : 13.
- 写真：中村 進提供 (県外産)

ヨツコブサビコメツキ *Lacon quadrinodatus* Lewis, 1894 コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	-
--------	-------------	----	------	-----------	---	---

選定理由 中型のコメツキムシで、前胸背に瘤状突起を有する。全国的にも非常に稀少種で、本県では50年以上も前に、護摩壇山の日光神社近くで採集された1個体の記録しかない。現在では日光神社周辺はスギ林になっており、本種の再発見は期待できない。

護摩壇山山頂周辺のブナ林に生息している可能性はあるが、これまでの調査では再発見できていない。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 的場 績・平松広吉. 1973. 和歌山県産コメツキムシ科目録Ⅰ. 南紀生物, 15 (2) : 45-48.
- 写真：平松広吉提供

クニモシモフリコメツキ *Actenicerus kunimi* (Kishii, 1966) コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

選定理由 大型のシモフリコメツキで、緑色金属光沢の翅鞘が特徴的。全国的な稀少種あり、本県では生石山山麓で約50年前に3頭が採集されただけで、その後、全く再発見されていない。雑木林の減少が関係しているのではないかとと思われる。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 岸井 尚. 1980. 日本産シモフリコメツキ属の研究 (2). Bulletin of the Heian high school, (24) : 59.
  - 2 的場 績・平松広吉. 1974. 和歌山県産コメツキムシ科目録Ⅱ. 南紀生物, 16 (1) : 18-22.
- 写真：岸井 (1980) 典拠 (県外産)

ヒゲブトハナカミキリ *Pachypidonia bodemeyeri* (Pic, 1934) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

北海道から九州まで広く分布するが、既知産地は少なく、全国的な稀少種である。幼虫は各種広葉樹の樹洞内の腐朽部を食し、成虫はその周辺を徘徊しているところを発見されることが多い。

**選定理由** 和歌山県では護摩壇山、高野山、果無山脈等で少数が発見されているのみ。近年では、城ヶ森山でも発見されている。

森林の乾燥化に伴い、本種の発生に適した樹洞が少なくなっている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 井賀 哲. 2014. ヒゲブトハナカミキリを城ヶ森山で採集. KINOKUNI, (86) : 18.
- 奈良 一. 1988. 新和歌山県産天牛虫科目録 (I). 南紀生物, 30 (2) : 98-107.  
写真: 的場 績撮影

タケウチホソハナカミキリ *Strangalia takeuchii* Matsushita & Tamanuki, 1935 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

コウヤホソハナカミキリに似ているが、前胸背の2本の黒縦線が特徴。7月から8月にノリウツギやリョウブ等の花に集まる。

**選定理由** 1980年代までは稀ながらも見られたが、1990年以降は殆ど見られなくなった。和歌山県では護摩壇山や高野山等で見られたが、近年の採集記録はない。

なお、2019年以降に白浜町將軍川や日高川町八斗蒔で発見されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 井賀 哲. 2019. 最近の採集記録より. KINOKUNI, (96) : 30-31.
- 小島和也. 2019. タケウチホソハナカミキリを白浜町將軍川林道で採集. KINOKUNI, (96) : 19.
- 奈良 一. 1988. 新和歌山県産天牛虫科目録 (I). 南紀生物, 30 (2) : 98-107.  
写真: 的場 績撮影

クロソンホソハナカミキリ *Mimostrangalia kurosonensis* (Ohbayashi, 1936) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

本州～奄美大島までの各地に分布するが局地的であり、本州での生息地は本県と山口県のみである。成虫は夏期に出現し、ノリウツギやリョウブ等、白い花に集まる。幼虫はハイノキの枯れ木を食べる。

**選定理由** 和歌山県では、將軍川林道周辺で少数が発見されていたが、近年すさみ町でも発見されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 児玉 洋. 2019. クロソンホソハナカミキリをすさみ町で採集. KINOKUNI, (96) : 22.
- 杉原龍也. 1981. 和歌山県産カミキリムシ2種の記録. KINOKUNI, (20) : 37.  
写真: 的場 績撮影

カエデノヘリグロハナカミキリ *Eustrangalis distenioides* Bates, 1884 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

北海道～九州までの温帯林に生息する。成虫は春に出現し、カエデ等の花に集まるが極めて少ない。和歌山県では、これまで護摩壇山のブナ帯でのみ少数が発見されていたが、近年になり、日高川町城ヶ森山でも発見され、ハリギリの枯死部に産卵に飛来するのが確認されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 井賀 哲. 2019. 最近の採集記録より. KINOKUNI, (96) : 30-31.
- 2 奈良 一. 1977. 和歌山県の天牛雑録 (その7). KINOKUNI, (13) : 1-3.  
写真: 的場 績撮影

クロサワヒメコバネカミキリ *Epania septentrionalis* Hayashi, 1950 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

成虫は夏期に出現し、クリやリョウブの花に飛来するが少ない。寄主植物はミズキと言われていたが、近年、関東地方でクリの枯れ枝に集まることが分かり、各地で発見されだした。

選定理由 和歌山県では、高野山、護摩壇山、日高川町八斗蒔で各1頭採集されているのみで、近年の発見例はないが、クリの枯れ枝を丹念に探せば、各地のブナ・ミズナラ帯で発見できるかも知れない。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 三木三徳. 1991. クロサワヒメコバネカミキリの採集例. 月刊むし, (250) : 24.
- 2 奈良 一. 1979. 和歌山県の天牛雑録 (その9). KINOKUNI, (20) : 11-15.
- 3 奈良 一. 1988. 新和歌山県産天牛虫科目録 (I). 南紀生物, 30 (2) : 98-107.  
写真: 的場 績撮影 (県外産)

ニッポンモモブトコバネカミキリ *Merionoedia formosanus septentrionalis* Tamu & Tsukamoto, 1952 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

雌雄で体色が異なる。上翅が短く、後腿節末端が強く膨らむ。成虫はリョウブやノリウツギなどの花に飛来し、幼虫はクスノキ科の枯れ木につく。

選定理由 南方系の種で、県南部で少数が発見されていたが、1979年以降全く発見されない時期があった。2013年に將軍川のリョウブ花上で、2014年に中辺路町水上のカゴノキの朽ち木から発生した個体が各1頭採集されている。

和歌山県では、田辺市 (旧中辺路町、旧大塔村、旧本宮町、笠塔山、護摩壇山) で発見されるが、いずれも少数である。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 小島和也. 2014. ニッポンモモブトコバネカミキリがカゴノキから羽脱. KINOKUNI, (86) : 13.
- 2 奈良 一. 1988. 新和歌山県産天牛虫科目録 (I). 南紀生物, 30 (2) : 98-107.

参考文献 3 仁坂吉伸. 2013. 将軍川林道でニッポンモモトコバナカミキリ. KINOKUNI, (83) : 35.  
 ・情報 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**クロホソコバナカミキリ** *Necydalis harmandi* Pic, 1901 **コウチュウ目** **カミキリムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

体色は通常黒色だが、変異が大きい。成虫は7月頃に現れ、ブナ科、カバノキ科の立ち枯れに飛来する。

和歌山県では護摩壇山で、1957年と1971年に各1頭採集されていたのみであったが、2000年頃にも1頭採集されている。2019年に日高川町城ヶ森山でも灯火に飛来した1雄個体が採集されている。

新たな生息域が発見されたが、ブナ林の減少と共に、本種の残存は難しくなっている。

執筆者 (的場 績)



参考文献 1 的場 績. 2019. 和歌山県産甲虫類分布資料 36. KINOKUNI, (96) : 35-36.  
 ・情報 2 奈良 一. 1988. 新和歌山県産天牛虫科目録 (I). 南紀生物, 30 (2) : 98-107.  
 写真: 的場 績撮影

**エゾトラカミキリ** *Oligoenoplus rosti rosti* (Pic, 1911) **コウチュウ目** **カミキリムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	-	国	-
--------	-------------	----	------	---	---	---

初夏にカエデやミズキの花に飛来する。全国的な稀少種で、絶滅危惧種に選定している県も多い。上翅は灰色微毛に3本の黒色帯紋がある。

和歌山県では、1980年代に有田川町白口峰周辺で採集されていたが、その後長い間再発見されずにいたが、2019年に護摩壇山で2頭発見されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献 1 井賀 哲. 2019. 最近の採集記録より. KINOKUNI, (96) : 30-31.  
 ・情報 2 奈良 一. 1988. 新和歌山県産天牛虫科目録 (I). 南紀生物, 30 (2) : 98-107.  
 写真: 的場 績撮影 (県外産)

**トラフカミキリ本土亜種** *Xylotrechus chinensis kurosawai* Fujita, 2010 **コウチュウ目** **カミキリムシ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	-
--------	-------------	----	------	------------------	---	---

大型のカミキリムシで、スズメバチに擬態していると言われている。日本全国に分布し、クワの木を加害する。

昔は県内各地に分布していたように思われるが、養蚕業の衰退と共に、クワの木も少なくなり、特に幹の太い古木がなくなったことにより、本種も少なくなった。1981年に紀美野町で採集されたのを最後に、その後の採集記録がなくなったが、近年再び少数ながら発見され始めている。

執筆者 (的場 績)



参考文献 1 井賀 哲. 2019. 最近の採集記録より. KINOKUNI, (96) : 30-31.  
 ・情報 2 的場 績. 1984. 和歌山県立自然博物館収蔵のカミキリムシ数種. KINOKUNI, (25) : 29.  
 写真: 松野茂富提供 (県外産)

オオトラカミキリ *Xylotrechus villioni* (Villard, 1892) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	—
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

トラカミキリの仲間では日本最大の種で、幼虫はモミやツガの生幹を食害し、特徴的な食痕を付けるので、本種の加害木は一見して分かる。

全国的な珍種で、発見例も少ない。和歌山県においても、これまでに2頭採集されているだけであるが、山地帯に広く分布しているものと思われる。しかし、モミ・ツガの伐採が進み、本種が食害する大木が少なくなっているため、本種の減少が見られる。

和歌山県では田辺市の龍神村と中辺路町で記録されているが、護摩壇山系や、果無山脈、新宮市（旧熊野川町）でも加害木が確認されている。

執筆者（的場 績）



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1998. オオトラカミキリの生息確認. くろしお, (17): 47.
- 2 岩田隆太郎・加藤敦史. 1994. 紀伊半島に於けるオオトラカミキリによる針葉樹の食害痕の発見. 森林防疫, 43 (5): 10-11.
- 3 奈良 一. 1993. オオトラカミキリ和歌山県初記録. KINOKUNI, (43): 22.  
写真: 松野茂富提供 (県外産, 和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ヨツボシカミキリ *Stenygrinum quadrinotatum* Bates, 1873 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧ⅠB類 (EN)
--------	-------------	----	------	-------------	---	--------------

体長は1 cm程で、飴色の体に黄白色の円紋が4個ある。かつては和歌山県内全域の耕地や里山周辺で普通に見られ、灯火にもよく飛来したが、次第に数を減らし、近年では殆ど見られなくなった。

幼虫は各種広葉樹の乾燥した枯れ木を好むらしく、農家の軒に積んだ薪に多く見られた。

執筆者（的場 績）



参考文献  
・情報

- 1 奈良 一. 1977. 和歌山県の天牛雑録 (その8). KINOKUNI, (14): 1-3.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

オオシロオビゾウムシ *Cryptoderma fortunei* (Waterhouse, 1853) コウチュウ目 オサゾウムシ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	—	国	—
--------	-------------	----	------	---	---	---

大型のゾウムシで、薄茶色の体に白線状紋を有する。

和歌山県における採集記録は、約90年前に和歌山市墓ノ谷で採集された記録があるが、その後、全く再発見されていない。

30年後の1967年に生石山で発見されているが、これもその後、約50年間、再発見されていない。しかも生石山では、近年の20年近く再調査しているが、発見には至っていない。

成虫は、ワラビを後食することが知られている。

執筆者（的場 績）



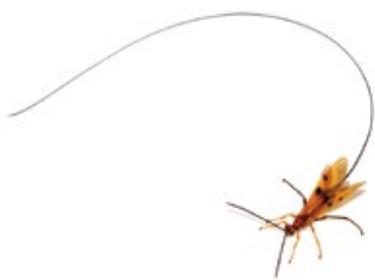
参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 2018. 吉田元重コレクションのゾウムシ標本. KINOKUNI, (93): 17-41.
- 2 大野正男. 1976. オオシロオビゾウムシ. 昆虫と自然, 11 (11): 15-18.  
写真: 的場 績撮影

**ウマノオバチ** *Euurobracon yokohamae* Dalla Torre, 1898 **ハチ目 コマユバチ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-------------	----	------	------------------	---	------------

体長 20 mm 程。体色は明るい朱色を基調とする。メスの産卵管は極めて長く、個体によっては体長の9倍に達する。丘陵地の二次林から春季に得られており、和歌山市、海南市、田辺市、橋本市から記録されている。かつては極めて稀な種であったが、近年は相次いで記録されており、今後の知見の蓄積が期待される。



執筆者 (松野茂富)

参考文献・情報

- 1 児玉 洋. 2021. ウマノオバチを橋本市で採集. KINOKUNI, (99) : 17-18.
- 2 松野茂富. 2013. 和歌山県海南市におけるウマノオバチ *Euurobracon yokohamae* Dalla Torre, 1898 の記録. 和歌山県立自然博物館館報, 31 : 39-40.
- 3 松野茂富. 2016. 和歌山県田辺市におけるウマノオバチ *Euurobracon yokohamae* Dalla Torre, 1898 の記録. 和歌山県立自然博物館館報, 34 : 51-52.
- 4 松野茂富. 2021. 衝撃! ウマノオバチ. 自然博物館だより, 39 (3) : 6.  
写真: 松野茂富撮影

**フジミドリシジミ** *Sibatanozephyrus fujisanus* (Matsumura, 1910) **チョウ目 シジミチョウ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

日本固有種で北海道から九州まで広く分布するが個体数は少ない。裏面の斑紋は雌雄大差ないが、雄の翅表は金属光沢のある青色、雌は暗褐色。食樹はブナ科のブナ、イヌブナ。

和歌山県では、護摩壇山及びその周辺、果無山系等の山間部に分布し、最近、大塔山系でも確認されたが、落葉広葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。本州での南限分布地の一つ。



執筆者 (小島和也)

参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯 (紀伊半島) の昆虫相資料Ⅰ 蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
- 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
- 3 斎藤基樹. 2019. 和歌山のゼフィルス雑記 最終回 思いつくままあれこれ. KINOKUNI, (95) : 13-23.
- 4 竹井 一. 1999. 日本産蝶類の採集データ集. SPINDA, 14 : 106-125.
- 5 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
- 6 吉村輔倫. 2005. 護摩壇山で採集したミドリシジミ類. KINOKUNI, (67) : 23.  
写真: 大橋弘和提供

**オオウラギンスジヒョウモン** *Argyronome ruslana* (Motschulsky, 1866) **チョウ目 タテハチョウ科**

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-------------	----	------	-------------	---	---

北海道から九州まで各地に広く分布するが、寒冷地に多く、暖地では少なく山地性となる。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。食草は各種のスミレ属植物。

和歌山県では、かつては山間部の草原に比較的普通に生息し、近年は高野山周辺、護摩壇山周辺、それを結ぶ高野龍神スカイライン周辺を中心に確認されているが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカなどの食害による食草の減少等により、減少が著しく絶滅が危惧される。



執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 小島和也. 2004. 高野龍神スカイラインでミドリヒョウモン暗色型を採集. KINOKUNI, (65) : 8.
- 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
- 3 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
- 4 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
- 5 吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI, (25) : 24-27.
- 6 吉村輔倫. 2005. 和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノートー有田地方を中心にー. KINOKUNI, (67) : 14-16.

写真：大橋弘和提供

オオハサミコムシ *Occasjapyx beneserratus* (Kuwayama,1927) コムシ目 ハサミコムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

関東以西から九州にかけて分布する。体長 15~20 mm もある日本最大の種で、落葉中に棲み、小動物を捕食する。一見、ハサミムシのような形態をした原始的な昆虫。

和歌山県では紀南地方の海岸林に生息すると思われていたが、  
選定理由 近年、より内陸部まで分布していることが判明した。

魚付林として保存されていた、腐葉土の多い湿った海岸林に本種が多く生息していたが、備長炭の用材としてウバメガシ林が伐採され、生息可能な森林が減少している。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 浜際康太. 2018. 和歌山県南部のオオハサミコムシの記録. KINOKUNI, (94) : 11.
- 写真：松野茂富提供

オツネントンボ *Sympetma paedisca* (Brauer, 1877) トンボ目 オツネントンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

全長 40 mm 程。雌雄ともに全身が褐色を基調としている。成虫で越冬する。平地から丘陵地の、抽水植物が多い池沼や湿地に生息する。和歌山市、海南市、

選定理由 串本町、紀の川市 (旧貴志川町・旧打田町)、白浜町、田辺市 (旧本宮町)、由良町から記録されているが、近年は和歌山県北部のみで確認される。開発による生息環境の改変や、管理放棄による遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献  
・情報

- 1 山本哲央 (編). 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 写真：松野茂富撮影

ニホンカワトンボ *Mnais costalis* Selys, 1869 トンボ目 カワトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

全長 65 mm 前後。アサヒナカワトンボに似るが、オスの前翅前縁に不透明班が認められる。山地から平地の、樹林に囲まれた抽水植物の多い清流に生息する。海南市、橋本市、紀の川市 (旧貴志川町)、九度山町、高野町から記録されており、紀美野町でも確認されるが、近年確認される生息地は少ない。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。

選定理由



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
写真: 松野茂富撮影

ベニイトトンボ *Ceriagrion nipponicum* Asahina, 1967 トンボ目 イトトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

全長 40 mm 前後。体色は雌雄ともに赤色を帯び、特にオスは顕著である。平地から丘陵地の抽水植物の多いため池で見られる。和歌山市、海南市、紀の川市 (旧貴志川町・旧粉河町) から記録されているが、生息地は局所的である。開発による生息環境の改変や、管理放棄による遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報 1 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本. KINOKUNI, (49) : 15-19.  
2 南 敏行. 2012. 和歌山県北・中部での最近のトンボ記録. KINOKUNI, (81) : 1-4.  
写真: 南 敏行撮影

セスジイトトンボ *Paracercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865) トンボ目 イトトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

全長 35 mm 程。眼後紋は三角形。平地から丘陵地の池沼や用水に生息する。和歌山市、有田川町 (旧金屋町)、海南市、紀の川市 (旧貴志川町)、九度山町、高野町、新宮市、田辺市 (旧本宮町)、日高川町 (旧川辺町) から記録されているが、多くの市町村で近年の記録がない。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
2 南 敏行. 2011. 和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅱ新宮市浮島 (浮島の森). KINOKUNI, (79) : 1-5.  
3 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮. 2013. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京.  
写真: 南 敏行撮影

オオイトトンボ *Paracercion sieboldii* (Selys, 1876) トンボ目 イトトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

全長 40 mm 程。眼後紋は大きく、後頭状を備える。平地から丘陵地の抽水植物の多い池沼や湿地、放棄水田で見られる。和歌山市、有田川町 (旧金屋町)、海南市、紀の川市 (旧貴志川町)、串本町、九度山町、高野町、古座川町、新宮市、太地町、田辺市 (旧本宮町)、那智勝浦町、日高川町 (旧川辺町) から記録されているが、減少している生息地が多い。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報 1 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ類標本. KINOKUNI, (49) : 11-19.  
2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
3 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.  
4 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について (2). KINOKUNI, (78) : 1-7.  
写真: 南 敏行撮影

モートンイトトンボ <i>Mortonagrion selenion</i> (Ris, 1916) トンボ目 イトトンボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

全長 30 mm 程。眼後紋は三日月状であり、成熟した雌雄の胸部は明緑色。平地から丘陵地の湿地や休耕田に生息する。和歌山市、串本町、高野町、古座川町、御坊市、白浜町、新宮市、田辺市（旧本宮町・旧中辺路町）、那智勝浦町、橋本市から記録されているが、近年の記録は和歌山県南部に限られる。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。



執筆者（南 敏行・松野茂富）

参考文献・情報

- 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ（データ編）. 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 2 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.  
写真：南 敏行撮影

オオルリボシヤンマ <i>Aeshna crenata</i> Hagen, 1856 トンボ目 ヤンマ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—

選定理由

全長 90 mm 前後。山地の抽水植物や浮葉植物の多い池沼で見られる。後胸気門の前方にある帯状の斑紋は、前翅基部でほぼ直角に曲がり、後方へ伸びる。和歌山市、有田川町（旧金屋町）、海南市、紀の川市、紀美野町（旧野上町）、高野町から記録されているが、生息地は局地的である。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。



執筆者（南 敏行・松野茂富）

参考文献・情報

- 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ（データ編）. 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 2 南 敏行. 2012. 和歌山県北・中部での最近のトンボ記録. KINOKUNI, (81) : 1-4.  
写真：松野茂富撮影

アオサナエ <i>Nihonogomphus viridis</i> Oguma, 1926 トンボ目 サナエトンボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—

選定理由

全長 60 mm 前後。雌雄ともに体側面の斑紋は緑黄色。幼虫は山地から丘陵地の河川砂底に生息する。紀美野町（旧美里町）、九度山町、新宮市、すさみ町、みなべ町（旧南部川村）から記録されているが、近年は紀美野町でのみ確認されている。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。



執筆者（南 敏行・松野茂富）

参考文献・情報

- 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ（データ編）. 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 2 南 敏行. 1993. 高田中学校の生物（4）トンボ類. みくまの, 9 : 10-22.  
写真：金岡晃司提供

**オグマサナエ** *Trigomphus ogumai* Asahina, 1949 トンボ目 サナエトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

全長 50 mm 程。雌雄ともに胸部側面に黒条を 1 本備える。平地から丘陵地の、周囲に樹林のあるため池や湿地に生息する。和歌山市、岩出市、海南市、  
**選定理由** 紀の川市 (旧打田町・旧貴志川町)、橋本市から記録されているが、和歌山県北部に限られる。生息環境の開発による改変や、外来生物の捕食圧によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

**参考文献** 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
**・情報** 写真: 松野茂富撮影

**フタスジサナエ** *Trigomphus interruptus* (Selys, 1854) トンボ目 サナエトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

全長 50 mm 程。胸部側面の黒条を 2 本備える個体が多い。平地から丘陵地の周囲に樹林のあるため池や湿地に生息する。和歌山市、岩出市、かつらぎ町、有田川町 (旧金屋町)、紀の川市 (旧貴志川町・旧那賀町)、御坊市、田辺市、橋本市 (旧高野口町) から記録されているが、和歌山県南部からは発見されていない。生息環境の開発による改変や、外来生物の捕食圧によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

**参考文献** 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
**・情報** 2 南 敏行. 2012. 和歌山県北・中部での最近のトンボ記録. KINOKUNI, (81) : 1-4.  
 写真: 松野茂富撮影

**ミヤマサナエ** *Anisogomphus maacki* (Selys, 1872) トンボ目 サナエトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

全長 60 mm 程。オスの腹部第 7~9 節は広がる。幼虫は山地から平地の河川砂泥底に生息する。海南市、紀の川市 (旧貴志川町・旧那賀町・旧桃山町)、新宮市、田辺市、日高川町 (旧川辺町) から記録されているが、確認される機会は少ない。生息環境の開発による改変によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

**参考文献** 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
**・情報** 2 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.  
 写真: 松野茂富撮影

エゾトンボ *Somatochlora viridiaenea* (Uhler, 1858) トンボ目 エゾトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 全長 70 mm 前後。雌雄ともに胸部は緑色の金属光沢を帯び、メスの成熟個体は胸部及び腹部に黄斑が認められる。平地から丘陵地の湿地や休耕田に生息する。和歌山市、有田川町 (旧吉備町)、海南市、紀の川市 (旧那賀町)、串本町、白浜町、太地町、田辺市 (旧龍神村)、那智勝浦町、橋本市 (旧高野口町)、日高町から記録されているが、近年は和歌山県南部のみで記録されている。生息環境の遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報

- 1 有本 智. 2001. 孟子トンボ谷 孟子不動谷トンボ観察ハンドブック. 48pp. 自然回復を試みる会 ビオトープ孟子, 海南.
- 2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 3 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について (2). KINOKUNI, (78) : 1-7.
- 4 高松 勉. 1978. 和歌山県で小学生の採集したオオエゾトンボ. KINOKUNI, (31) : 21. 写真: 金岡晃司提供 (県外産)

ハネビロエゾトンボ *Somatochlora clavata* Oguma, 1913 トンボ目 エゾトンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

**選定理由** 全長 65 mm 程。雌雄ともに胸部は緑色の金属光沢を帯びる。平地から山地の樹林に囲まれた細流に生息する。和歌山市、串本町、古座川町、御坊市、白浜町、田辺市 (旧本宮町、旧田辺市)、日高町、那智勝浦町から記録されているが、近年確認される生息地は少ない。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報

- 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 2 松下 弘. 1993. 古座川町におけるトンボ3種の新産地. くろしお, (12) : 47-48.
- 3 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8. 写真: 南 敏行撮影

ナニワトンボ *Sympetrum gracile* Oguma, 1915 トンボ目 トンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

**選定理由** 全長 40 mm 程。成熟したオスは全身に青灰色の粉を吹く。平地から丘陵地の樹林に囲まれ、池干しや水位の低下によって岸辺が露出するため池に好んで生息する。和歌山市、岩出市、海南市、かつらぎ町、紀の川市 (旧粉河町・旧桃山町・旧貴志川町)、紀美野町 (旧美里町)、九度山町、高野町、日高川町 (旧川辺町) から記録されているが、最近の記録は局所的である。ため池の管理放棄による生息環境の消失によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献・情報

- 1 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本. KINOKUNI, (49) : 15-19.
- 2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.

参考文献 3 南 敏行. 2012. 和歌山県北・中部での最近のトンボ記録. KINOKUNI, (81) : 1-4.  
 ・情報 写真：南 敏行撮影

マイコアカネ <i>Sympetrum kunkeli</i> (Selys, 1884) トンボ目 トンボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

**選定理由** 全長 40 mm 程。オスの顔面は青白く、これが和名の由来である。平地から丘陵地の、抽水植物の多いため池や湿地に生息する。和歌山市、岩出市、海南市、紀の川市 (旧粉河町・旧貴志川町)、串本町、御坊市、那智勝浦町、日高町から記録されているが、分布は局所的である。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

**参考文献**  
 ・情報 1 乾風 登. 2006. 日高町の阿尾湿地と周辺におけるトンボ類の記録. くろしお, (25) : 35.  
 2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
 3 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.  
 写真：松野茂富撮影

ミヤマアカネ <i>Sympetrum pedemontanum elatum</i> (Selys, 1872) トンボ目 トンボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

**選定理由** 全長 40 mm 程。雌雄ともに前・後翅に黒褐色の帯状斑を備える。平地から山地にかけての、流れの緩やかな河川や用水路に生息する。有田川町 (旧金屋町・旧清水町)、海南市、紀美野町 (旧野上町)、御坊市、高野町、新宮市、すさみ町、田辺市、橋本市、日高川町 (旧川辺町・旧中津村)、広川町、那智勝浦町から記録されているが、近年の記録は少ない。生息環境の開発による改変や、耕作放棄による用水の消失によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

**参考文献**  
 ・情報 1 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本. KINOKUNI, (49) : 15-19.  
 2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
 3 南 敏行. 2012. 和歌山県北・中部での最近のトンボ記録. KINOKUNI, (81) : 1-4.  
 写真：松野茂富撮影 (県外産)

キトンボ <i>Sympetrum croceolum</i> (Selys, 1883) トンボ目 トンボ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

**選定理由** 全長 45 mm 程。全身が明るい黄褐色を帯びる。平地から丘陵地にかけての、明るく透明度の高いため池に生息する。和歌山市、海南市、紀の川市 (旧貴志川町)、紀美野町 (旧野上町)、串本町、古座川町、御坊市、白浜町、新宮市、田辺市、那智勝浦町、日高川町 (旧中津村)、日高町から記録されているが、近年の記録は和歌山県南部に限られる。開発による生息環境の改変や、水質の悪化、外来生物の侵入によって減少したと考えられる。



執筆者 (南 敏行・松野茂富)

参考文献  
・情報

- 乾風 登. 1991. 田辺市で見つかったタイワンウチワヤンマとその生息地. くろしお, (10) : 25-26.
- 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本. KINOKUNI, (49) : 15-19.
- 乾風 登. 2002. 日高地方 (和歌山県) の2つのビオトープでのトンボ分布. くろしお, (21) : 12-13.
- 乾風 登. 2006. 日高町の阿尾湿地と周辺におけるトンボ類の記録. くろしお, (25) : 35.
- 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.
- 南 敏行. 2010. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について (2). KINOKUNI, (78) : 1-7.
- 南 敏行. 2013. 和歌山県南部のトンボ分布資料Ⅲの追加種 那智勝浦町下里天満 (池の谷). KINOKUNI, (83) : 3-5.

写真: 岡晃司提供

ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* Rambur, 1842 トンボ目 トンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

全長 20 mm 程。トンボ科では日本最小種である。丘陵地の湿地や休耕田に生息する。和歌山市、有田川町 (旧金屋町)、北山村、串本町、古座川町、新宮市、田辺市 (旧本宮町)、橋本市から記録されているが、近年の記録は県南部に限られる。生息環境の開発による改変や、遷移によって減少したと考えられる。  
執筆者 (南 敏行・松野茂富)



参考文献  
・情報

- 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本. KINOKUNI, (49) : 15-19.
- 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
- 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.
- 南 敏行. 2010. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について (2). KINOKUNI, (78) : 1-7.

写真: 南 敏行撮影

カヤキリ *Pseudorhynchus japonicus* Shiraki, 1930 バッタ目 キリギリス科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

ススキ草原に生息する日本産クサキリ亜科最大の種。本種は和歌山県北部と串本町から記録されているのだが、他県の状況から推測して普遍的に分布していると考えられる。  
執筆者 (河北 均)



参考文献  
・情報

- 北尾陽左右. 1941. 和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類. 関西昆虫学会会報, 11 (1) : 49-54.
- 松野茂富. 2016. 串本町におけるカヤキリの記録. KINOKUNI, (90) : 20.

写真: 松野茂富提供

**タイワンクツワムシ *Mecopoda elongata* (Linnaeus, 1758) バッタ目 クツワムシ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

和歌山県広川町以南の中南部から近年の記録がある大型のクツワムシ科昆虫。西南日本では局地的に分布する。

**選定理由** 和歌山県内では岩出市、美浜町、田辺市、串本町、古座川町から記録があり、県内では広く分布するようではあるが、近年はソデ群落等の衰退により個体数、生息地とも減少しており、生息地の保全が必要である。



執筆者 (河北 均)

**参考文献・情報**

- 1 乾風 登. 1951. 紀州で得られた直翅類. 紀州昆虫, 3 (1) : 15-17.
- 2 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ昆虫たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.
- 3 細井孝昭. 1999. 紀伊半島・古座川レポート. ぱったりぎす, (120) : 105.
- 4 北尾陽左右. 1941. 和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類. 関西昆虫学会会報, 11 (1) : 49-54.
- 5 小川忠宏. 1989. 紀北地方の鳴く虫展望 第1回. KINOKUNI, (36) : 1-10.
- 6 大町文衛. 1941. 紀州に於いて発見せられたる亜熱帯性直翅類昆虫. 兵庫県中等教育博物学雑誌, 7 : 233-241.

写真：松野茂富提供

**クツワムシ *Mecopoda niponensis* (de Haan, 1843) バッタ目 クツワムシ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

藪等に生息する大型のクツワムシ科昆虫。

**選定理由** 和歌山県内では紀の川市、紀美野町、広川町、印南町、古座川町から記録があり、広く分布するようではあるが、近年はソデ群落等の衰退により個体数、生息地とも減少しており、生息地の保全が必要である。



執筆者 (河北 均)

**参考文献・情報**

- 1 乾風 登. 1985. クツワムシを飼養して. KINOKUNI, (28) : 15.
- 2 直翅類研究グループ. 1983. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 日本の直翅類, 15 : 101.
- 3 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ昆虫たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.
- 4 細井孝昭. 1999. 紀伊半島・古座川レポート. ぱったりぎす, (120) : 105.
- 5 北尾陽左右. 1941. 和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類. 関西昆虫学会会報, 11 (1) : 49-54.
- 6 日本直翅類学会. 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp. 北海道大学出版会, 札幌.
- 7 小川忠宏. 1989. 紀北地方の鳴く虫展望 第1回. KINOKUNI, (36) : 1-10.

写真：松野茂富提供

**クロツヤコオロギ *Phonarellus ritsemai* (Saussure, 1877) バッタ目 コオロギ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

日当たりの良い草地斜面等で穴居生活をする中型のコオロギ。西南日本等に局地的に分布する。

**選定理由** 和歌山県内では南部のみなべ町、田辺市、那智勝浦町、古座川町から記録があり、農耕地の南向き斜面等に生息している。しかし、農耕地の衰退により、減少しているものと考えられる。



執筆者 (河北 均)

参考文献  
・情報

- 1 細井孝昭. 1999. 紀伊半島・古座川レポート. ぱったりぎす, (120) : 105.
  - 2 細井孝昭. 1999. 紀伊半島南部 古座川～大島直翅類リスト. ぱったりぎす, (121) : 16-17.
  - 3 市川顕彦・村井貴史・本田恵理. 2000. 総説・日本のコオロギ. ホシザキグリーン財団研究報告, 4 : 257-332.
  - 4 村井貴史. 2015. バッタ・コオロギ・キリギリス鳴き声図鑑. 191pp. 北海道大学出版会, 札幌.
  - 5 日本直翅類学会. 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp. 北海道大学出版会, 札幌.
  - 6 富永 修. 1997. 紀伊和歌山の直翅類へのお誘いー後藤 伸氏採集品ー. ぱったりぎす, (111) : 3.
  - 7 富永 修. 1998. 後藤コレクションⅡ<南紀の直翅類>. ぱったりぎす, (119) : 48-50.
- 写真：河北 均撮影（県外産）

**カワラバッタ** *Eusphingonoyus japonicus* (Saussure, 1888) バッタ目 バッタ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

日本固有種。中型のバッタで後翅の鮮やかな青色が美しい。河川敷の砂礫に生息する。

和歌山県では紀の川（かつらぎ町）と熊野川（田辺市）の各中流域から記録されている。河川改修、水害、植生遷移等により生息基盤が危ぶまれている。

執筆者（河北 均）



参考文献  
・情報

- 1 村井貴史・伊藤ふくお. 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 449pp. 北海道大学出版会, 札幌.
  - 2 富永 修. 2019. 和歌山県本宮町の熊野川河原でカワラバッタを確認. ぱったりぎす, (162) : 68.
- 写真：的場 績提供

**ヒサゴクサキリ** *Palaeoagraecia lutea* (Matsumura & Shiraki, 1908) バッタ目 キリギリス科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	—	国	—
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

竹林に生息する中型のクサキリ亜科。西南日本に分布するが局所的であり、和歌山県からは白浜町より記録されているだけである。

執筆者（河北 均）



参考文献  
・情報

- 1 北尾陽左右. 1941. 和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類. 関西昆虫学会会報, 11 (1) : 49-54.
  - 2 村井貴史. 2015. バッタ・コオロギ・キリギリス鳴き声図鑑. 191pp. 北海道大学出版会, 札幌.
- 写真：松野茂富提供

**フタツトゲササキリ** *Conocephalus bambusanus* Ingrisch, 1990 バッタ目 キリギリス科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	—	国	—
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

竹林に生息するササキリ亜科。西南日本に分布するが局所的であり、和歌山県からは御坊市から記録されているだけである。

執筆者（河北 均）



参考文献  
・情報

- 1 村井貴史. 1990. 和歌山御坊市でもフタツトゲササキリ（ヤマトササキリ）. ぱったりぎす, (85) : 60.
- 写真：村井貴史提供（県外産, バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載）

クチナガコオロギ *Velarifictorus aspersus* (Walker, 1869) バッタ目 コオロギ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

中型のコオロギ。ツヅレサセコオロギの近似種だが雄の大顎が長い。乾燥した草地に生息する。

選定理由 西南日本に分布するが局所的であり、和歌山県からは岩出市から記録されているだけである。

執筆者 (河北 均)



参考文献 1 小川忠宏. 1990. 紀北地方の鳴く虫展望 第2回. KINOKUNI, (38): 1-14.  
・情報 写真: 伊藤ふくお提供 (県外産, バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載)

コガタカントン *Oecanthus similator* Ichikawa, 2001 バッタ目 マツムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

カントン、ヒロバネカントンの近似種だが、ひとまわり小さく、キイチゴ類上に生息する。

選定理由 本州・四国に局所的分布し、和歌山県では高野山から記録されている。生息域が狭く、開発等により減少が危惧される。



執筆者 (河北 均)

参考文献 1 Ichikawa, A. 2001. New species of Japanese crickets (Orthoptera: Grylloidea) with notes on certain taxa. Tettigonia, 3: 45-58.  
・情報 2 村井貴史・伊藤ふくお. 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 449pp. 北海道大学出版会, 札幌.  
写真: 村井貴史提供 (バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載)

セグロイナゴ *Shirakiacris shirakii* Bolívar, 1914 バッタ目 バッタ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

西南日本では局所的に分布し、和歌山県では高野山、岩出市及び印南町から記録されている。

執筆者 (河北 均)



参考文献 1 市川顕彦. 2017. 高野山の直翅類の記録 コウヤナナフシのいるところ. ぱったりぎす, (154): 30-31.  
・情報 2 松野茂富. 2014. 和歌山県におけるセグロイナゴ *Shirakiacris shirakii* Bolívar, 1914 の記録. 和歌山県立自然博物館館報, (32): 63-64.  
写真: 松野茂富提供

シダスケバモドキ *Ugyops vittatus* (Matsumura, 1906) カメムシ目 ウンカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

やや大型の亜熱帯系森林性ウンカ類で、翅に縦走る暗褐色条がある。本県では串本町和深、すさみ町江須崎、田辺市神島で発見されているが、

選定理由 近年減少している。

紀伊半島が分布の北限である。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1996. すさみ町里野付近の半翅目調査記録. KINOKUNI, (49) : 26.
  - 2 後藤 伸. 1997. 紀伊半島南部産のウンカ類 (1). 南紀生物. 39 (2) : 112.
- 提供 : 有本 智提供

クワヤマハネナガウンカ *Zoradia kuwayamae* (Matsumura, 1913) カメムシ目 ハネナガウンカ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

大型のウンカ類で、前翅が発達した形態的に特異な昆虫である。前翅前縁の黒い紋が特に太く山形を呈する。幼虫は朽ち木に生じた菌類に付くようである。灯火によく飛来し、灯火採集で採集されることが多いが、近年減少しているようである。

選定理由

和歌山県では、田辺市、白浜町、護摩壇山、白馬山等で見られる。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1987. 和歌山県産ハネナガウンカ類. 南紀生物, 29 (1) : 58-60.
  - 2 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ昆虫たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.
- 写真 : 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ミツハシテングスケバ *Tenguella mitsuhashii* Matsumura, 1910 カメムシ目 テングスケバ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

関東以西に見られる南方系の種。淡緑色で透明の翅を持つ大型同翅類で、頭部は著しく突出する。

選定理由 和歌山県では有田市地ノ島、日高町阿尾、白浜町市江の海岸性草原で発見されているが、このような環境は消滅しつつある。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1997. 紀伊半島南部のウンカ類 (1). 南紀生物, 39 (2) : 112.
- 写真 : 紙谷聡志提供 (県外産, 福岡県レッドデータブックより転載)

オヨギカタビロアメンボ *Xiphovelia japonica* Esaki & Miyamoto, 1959 カメムシ目 カタビロアメンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

選定理由

体長 2 mm 程で、体型はひし形。基本的に無翅型であるが、稀に有翅型が出現する。和歌山市から記録があるが、既知の産地が非常に少なく、近年の新産地発見もない。樹林に囲まれた流れの緩やかな河川、池沼に生息するが、開発による環境の改変によって減少したと考えられる。



執筆者 (松野茂富)

参考文献  
・情報

- 1 中尾史郎. 2005. 和歌山県北部におけるケシミズカメムシとオヨギカタビロアメンボの記録と生息状況. KINOKUNI, (68): 1-2.  
写真: 中尾史郎提供 (県外産, 京都府レッドデータブックより転載)

ハネナシアメンボ *Gerris nepalensis* Distant, 1910 カメムシ目 アメンボ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

体長は最大で 10 mm 程。無翅型が多く、腹部背面は白銀色を呈し、体型はひし形である。和歌山市、海南市、田辺市から記録されており、有田川町でも得られているが、既知の産地は局地的であり、他のアメンボ科よりも明らかに少ない。ヒシ等の浮葉植物が豊富な池沼に生息するが、開発による環境の改変や環境の遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (松野茂富)

参考文献  
・情報

- 1 有本 智. 2005. 海南市孟子不動谷における動物相調査追加報告. くろしお, (23): 15-20.
- 2 米林憲市. 1973. 田辺に産するアメンボ (1). KINOKUNI, (5): 16.
- 3 中尾史郎. 2005. 和歌山県北部におけるケシミズカメムシとオヨギカタビロアメンボの記録と生息状況. KINOKUNI, (68): 1-2.  
写真: 松野茂富撮影

トゲミズギワカメムシ *Saldoidea armata* Horváth, 1911 カメムシ目 ミズギワカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

体長 3 mm 前後。体型は細長く、複眼は著しく発達する。前胸部に一对の棘があり、後方へ曲がるのが特徴的である。新宮市と串本町から記録されているが、和歌山県における記録は少なく、環境の変化によって容易に減少し得る種であると考えられる。池沼周辺の、植生のある湿った陸地に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (松野茂富)

参考文献  
・情報

- 1 乾風 登・後藤 伸・的場 績・宮武頼夫・吉田元重. 2012. トゲミズギワカメムシ. 保全上重要な和歌山の自然 和歌山県レッドデータブック. 153. 442pp. 和歌山県環境生部環境政策局環境生活総務課自然環境室, 和歌山.  
写真: 渡部晃平提供 (県外産)

コオイムシ <i>Appasus japonicus</i> Vuillefroy, 1864 カメムシ目 コオイムシ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)

**選定理由**  
 体長 20 mm 前後。和名の通り、オスが背面に卵を背負い、孵化するまで保持する習性がある。水田等で普通に見られる種であったが、減少が著しい。和歌山市から記録されており、橋本市、有田川町からも得られている。明るく水草が多い、水深の浅い止水域に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移、農薬の使用によって減少したと考えられる。



執筆者 (松野茂富)

**参考文献・情報**  
 1 乾風 登・後藤 伸・吉田元重. 1983. 友ヶ島の昆虫綱目録 友ヶ島学術調査. 259. 296pp. 関西自然保護機構, 和歌山.  
 写真: 松野茂富撮影

タイコウチ <i>Laccotrephes japonensis</i> Scott, 1874 カメムシ目 タイコウチ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-

**選定理由**  
 呼吸管を除いた体長は 35 mm 前後。前脚は鎌状であり、腿節基部に突起がある。水底の泥に半ば埋まるようにして潜伏する。和歌山市、古座川町から記録されているが、和歌山県における記録は少なく、近年の採集例も非常に少ない。水田や湿地等の浅い止水環境に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移、農薬の使用によって減少したと考えられる。



執筆者 (松野茂富)

**参考文献・情報**  
 1 乾風 登・後藤 伸・吉田元重. 1983. 友ヶ島の昆虫綱目録 友ヶ島学術調査. 259. 296pp. 関西自然保護機構, 和歌山.  
 2 藤田昂己. 2004. 古座川観察会で採集した昆虫類. くろしお, (23) : 65-66.  
 写真: 松野茂富撮影

ナベブタムシ <i>Aphelocheirus vittatus</i> Matsumura, 1905 カメムシ目 ナベブタムシ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

**選定理由**  
 体長は 10 mm 程。体型は円形、通常は無翅であるが、稀に有翅型が認められる。プラストロン呼吸を行うため、一生を水中で過ごすことができる。那智勝浦町、田辺市、新宮市 (旧熊野川町)、橋本市から記録されているが、比較的稀な種であり、減少が懸念される。和歌山県においては、河川上流部の砂礫底の流水環境に生息するが、生息環境の開発による改変や遷移によって減少したと考えられる。



執筆者 (松野茂富)

**参考文献・情報**  
 1 乾風 登. 1974. 大塔山系の水生昆虫 (II) 大塔山系の自然IV 生物相調査記録. 53-59pp. 71pp. 大塔山系生物調査グループ, 田辺.  
 2 後藤 伸. 1951. ナベブタムシ紀伊那智山にて採集する. 紀州昆虫, 3 (2/3) : 34.  
 3 日浦 勇. 1967. 日本産水棲・半水棲半翅類の分布の研究 1 大阪市立自然史博物館所蔵標本の検討. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 20 : 65-81.  
 4 安田 稔. 1980. 安川水系の大型底生動物. 南紀生物, 22 (2) : 101-108.  
 写真: 松野茂富撮影

**キバネアシフトマキバサシガメ** *Prostemma kiborti* (Jakovlev, 1899) カメムシ目 マキバサシガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

光沢のある黒色で、粗い毛に覆われる。翅鞘は黄色で短い。河原の石の下で生活しているため、河川改修による生息地の破壊が顕著である。  
**選定理由** 和歌山県では紀の川と有田川で発見されていたが、その生息地はいずれも破壊されている。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 的場 績. 1995. 和歌山県産昆虫類分布資料 I. KINOKUNI, (47) : 28.  
**・情報** 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**クロバアカサシガメ** *Labidocoris insignis* Distant, 1883 カメムシ目 サシガメ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

ビロードサシガメに似ているがやや小型で、赤と黒の色彩が鮮明である。初夏の早朝によく飛翔する性質がある。  
**選定理由** 和歌山県では照葉樹林に生息するが、今では稀少種である。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 後藤 伸. 1988. 和歌山県産異翅半翅類追補 II Reduviidae サシガメ科. 南紀生物, 30 (1) : 36-44.  
 2 後藤 伸. 1996. すさみ町里野付近の半翅目調査記録. KINOKUNI, (50) : 9-16.  
**・情報** 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**ハマベツチカメムシ** *Byrsinus varians* (Fabricius, 1803) カメムシ目 ツチカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

小型のツチカメムシで、球形に近い形態をし、光沢のある褐色。海浜植物の根際に生息する。  
**選定理由** かつては和歌山市から御坊市までの砂浜に多産していたが、砂浜の改修工事などにより生息域がダメージを受けるとともに、砂浜の消滅等により減少した。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 後藤 伸. 1966. 紀州の異翅半翅目昆虫 III. 南紀生物, 8 (2) : 58-64.  
**・情報** 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

フタテンツノカメムシ *Elasmucha nipponica* (Esaki & Ishihara, 1950) カメムシ目 ツノカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

やや小型のカメムシで、側角が鋭く突出し、腹部背面に1対の黒い斑紋がある。

選定理由 和歌山県では古座川源流、果無山脈、那智山等で記録されているが、稀少種である。照葉樹林の減少で更に少なくなってきた。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1985. 和歌山県産異翅半翅類追補 I. 南紀生物, 27 (1): 31-34.
- 2 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ昆虫たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

トゲツノカメムシ *Lindbetgicoris gramineus* (Distant, 1883) カメムシ目 ツノカメムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

鮮緑色で側角が特に鋭く突出する。側角先端部は黒い。

選定理由 和歌山県では護摩壇山のみから記録されており、かつては多産していたが、現在では少なくなっている。ウドの果実に寄生する。

和歌山県は南限分布地に当たる。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1983. 護摩壇山のツノカメムシ類. 南紀生物, 25 (2): 219-220.
- 2 後藤 伸. 2001. 和歌山県産カメムシ類の再録及び追補 5. KINOKUNI, (60): 5-9.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ヤマトナガヒラタムシ *Tenomerga yamato* Miyatake, 1985 コウチュウ目 ナガヒラタムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

ナガヒラタムシに酷似するが、上翅第8と9点刻列の間の基部から約1/3の所に短い点刻列があることにより区別できる。四国と九州では局所的に分布するが、本州では殆ど知られていない。

選定理由 和歌山県においても和歌山市、護摩壇山、大塔山系大杉谷で各1頭の記録があるのみであったが、近年、新宮市大倉畑山でも1頭発見されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1991. 和歌山県産甲虫目録 1 ナガヒラタムシ科・セスジムシ科. 和歌山県立自然博物館館報, 9: 51-55.
- 2 的場 績. 2018. 和歌山県産甲虫類分布資料 34. KINOKUNI, (94): 24-28.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

### ハンミョウ *Sophiodela japonica* (Thunberg, 1781) コウチュウ目 ハンミョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

#### 選定理由

最も綺麗な甲虫の一つで、里地の農道や神社の境内等に生息する。「みちおしえ」の俗称があるほど親しまれている昆虫である。

かつては、各地で最も普通に見られたが、近年急速に生息地が減少し、確実に発見できる生息地は僅かになった。

本種の幼虫は道端の裸地に巣穴を掘って潜み、巣の近くを通った小昆虫を捕食するので、農道の舗装や開発による生息地の減少の他にも、除草剤の散布による影響により減少したと思われる。

執筆者 (的場 績)



#### 参考文献・情報

- 1 的場 績. 2005. 和歌山の甲虫 65 ハンミョウ. 自然博物館だより, 23 (1) : 3.
- 2 吉村輔倫. 2016. ハンミョウを広川町の山間部で採集. KINOKUNI, (89) : 16.  
写真: 岡岡晃司提供

### セグロホソクビゴミムシ *Brachinus nigridorsis* Nakane, 1962 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

#### 選定理由

とっくり型をした特異なグループ。体の背面が黒いので他種と容易に区別できる。

和歌山県では護摩壇山と果無山脈にかけてのブナ帯林床に生息する。生息域が限られており、環境も悪化しているので少なくなっている。

執筆者 (的場 績)



#### 参考文献・情報

- 1 田中昭太郎. 1984. 紀伊半島とその周辺の歩行虫. KINOKUNI, (26) : 18-20.  
写真: 松野茂富提供 (県外産)

### キボシケシゲンゴロウ *Allopachria flavomaculatus* (Kamiya, 1938) コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

#### 選定理由

体長約 3 mm の小型種で、黒色の体に黄色の大紋を有する。清流のよどみの石や落ち葉の下に生息している。黄色大紋は 2 紋型 ~ 6 紋型、無紋型等、変異に富む。

熊野川、日置川、有田川、紀の川の上流に分布しているが、近年個体数が激減している。清流に棲むゲンゴロウなので、源流部の砂防ダム設置工事等による水質の悪化が原因と思われる。

執筆者 (的場 績)



#### 参考文献・情報

- 1 森 正人・北山 昭. 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 218pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 中根猛彦. 1969. 紀州の虫と私. 南紀生物, 11 (1) : 2-3.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

キベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* Sharp, 1873 コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

中型のゲンゴロウで、前胸背側縁と上翅側縁が黄褐色に縁取られる。日本全国に分布するがやや局所的で、各地で減少傾向にある。

**選定理由** 和歌山県でも和泉山脈、白浜町、串本町に生息地があるが、近年激減しており、発見が難しくなっている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 森 正人・北山 昭. 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 218pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 中野東男. 1989. 和泉山脈の昆虫 (2). Nature Study, 35 (2) : 8.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ヒメミズスマシ *Gyrinus gestroi* Regimbart, 1883 コウチュウ目 ミズスマシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

ミズスマシに似るが、小型でやや細型。腹部第2、3節の基部は後基節に沿って強く窪む。

**選定理由** 和歌山県内各地に分布していたが、近年急速に生息地が減少し、現在では串本町周辺で観察される程度。個体数も激減している。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 南 敏行. 2009. 和歌山県南部の甲虫記録. KINOKUNI, (76) : 26-27.  
写真: 渡部晃平提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp, 1873) コウチュウ目 ガムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	情報不足 (DD)
--------	------------	----	------	------------	---	-----------

コガタガムシに次ぐ大型のガムシで、脚が赤褐色であることにより区別できる。

**選定理由** 和歌山県内各地の池沼で見られ、個体数も多かったが、近年急速に減少し、ほとんど発見できなくなった。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 北畑雅弘. 1991. 和歌山市和歌浦で採集した水生甲虫数種, KINOKUNI, (39) : 13.
- 2 楠井善久. 2008. 和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫. KINOKUNI, (73) : 1-4.  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**ガムシ** *Hydrophilus acuminatus* Motschulsky, 1854 **コウチュウ目** **ガムシ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

ガムシ科最大の種で、他種とは容易に区別できる。腹部は無毛。  
和歌山県内全域の湿地及び池沼に生息していたが、生息地・個体数共に激減し、県内では危機的な状態である。特に近年では全く発見されていない。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 楠井善久. 2008. 和歌山県湯浅町に於いて近年見られなくなった水生昆虫. KINOKUNI, (73) : 1-4.
  - 2 南 敏行. 2009. 和歌山県南部の甲虫記録. KINOKUNI, (76) : 26-27.
- 写真: 中村 進提供 (県外産)

**オオズウミハネカクシ** *Liparocephalus tokunagai* Sakaguti, 1944 **コウチュウ目** **ハネカクシ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	------------	----	------	------------	---	-----------------

潮間帯の岩礁に生息する。後翅が退化していて、飛ぶことができない。潮間帯に棲む小動物を捕食する。

和歌山県と神奈川県、愛媛県で発見されている。和歌山県では田辺市と白浜町で発見されているが、近年の発見記録はない。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 2002. 和歌山県産ハネカクシ科の採集記録 4. KINOKUNI, (61) : 16-18.
  - 2 渡辺泰明. 1974. ハネカクシ漫歩 (4) 潮間帯に生息するハネカクシ. 甲虫ニュース, (21/22) : 3-5.
- 写真: 片山雄史提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

**ルリクワガタ** *Platycerus delicatulus delicatulus* Lewis, 1883 **コウチュウ目** **クワガタムシ科**

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧 II 類 (VU)	国	-
--------	------------	----	------	----------------	---	---

小型のクワガタムシで、雄は青藍色をした美麗種。新芽が開き始める5月頃に成虫が出現し始め、6月中頃まで見られる。近似種のコルリクワガタはミズナラの開き始めの新芽に集まるが、本種は新芽には集まらない。飛翔中のものや、朽ち木に産卵に来たものが採集される。

和歌山県では護摩壇山にのみ生息するものと思われていたが、近年になり、大塔山や果無山脈等でも生息が確認された。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 2017. 和歌山県産甲虫類分布資料 32. KINOKUNI, (91) : 17-19.
  - 2 南 敏行. 2015. 古座川町大塔山でルリクワガタを採集. KINOKUNI, (87) : 7.
  - 3 梅本 実. 1972. 護摩壇山で採集されている特筆すべき甲虫類. KINOKUNI, (4) : 3.
- 写真: 的場 績撮影

**ムネアカセンチコガネ** *Bolbochrodema nigroplagiatum* (Waterhouse, 1875) コウチュウ目 センチコガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

上翅に赤褐色紋を有する特徴的なセンチコガネである。全国各地に分布する。古い牛糞に集まると言われているが、観察例は少なく、灯火に飛来する個体が採集されることの方が多い。

**選定理由** 和歌山県では、生石山周辺が比較的数量多く観察されているが、かつらぎ町、田辺市、串本町、新宮市からも記録されている。しかし、いずれも1、2頭の記録しかない。

通常、放牧場に生息するが、このような特殊な環境は減少しており、本種の生息基盤は危機的な状況にある。



執筆者 (的場 績)

**参考文献  
・情報**

- 1 的場 績. 2005. 糞虫の記録4種. KINOKUNI, (66) : 24.
- 2 南 敏行. 2009. 和歌山県南部の甲虫記録. KINOKUNI, (76) : 26-27.
- 3 巽 和政. 1976. 生石山のムネアカセンチコガネについて. KINOKUNI, (12) : 11.  
写真: 松野茂富提供 (県外産)

**アカマダラハナムグリ (アカマダラコガネ)** *Poecilophilides rusticola* (Burmeister, 1842) コウチュウ目 コガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	情報不足 (DD)
--------	------------	----	------	------------	---	-----------

やや小ぶりのハナムグリで、体の背面は赤褐色地に黒斑を散在し、ロウ状の鈍い光沢がある。体下面は黒色。大型鳥類の巣内で幼虫が発見される。成虫はクヌギの樹液に集まる。

**選定理由** 里山のクヌギ林で他のハナムグリに混じって少数が発見されていたが、年々減少し、最近ではほとんど見られなくなっている。



執筆者 (的場 績)

**参考文献  
・情報**

- 1 有本 智. 2001. 海南省孟子不動谷における動物相調査追加報告. くろしお, (23) : 15-20.
- 2 土井邦江. 2020. アカマダラハナムグリを拾う. KINOKUNI, (98) : 27.
- 3 平松広吉. 1994. アカマダラコガネの採集例. KINOKUNI, (45) : 8.
- 4 井賀 哲. 2001. アカマダラコガネの採集例. KINOKUNI, (60) : 25.  
写真: 有本 智提供

**オオサカスジコガネ** *Anomala osakana* Sawada, 1942 コウチュウ目 コガネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

中型のコガネムシ。上翅は光沢のある褐色で、前胸背は暗緑色。

**選定理由** 都市周辺に生息するコガネムシで、和歌山県では和歌山市と御坊市で発見されている。畑地や河川敷等の草地で発生していると思われるが、近年の発見例がない。



執筆者 (的場 績)

**参考文献  
・情報**

- 1 和歌山大学教育学部生物学教室生物同好会. 1973. 和歌山城動物調査中間報告. 42pp. 和歌山.  
写真: 田中 稔提供 (県外産)

シロスジコガネ <i>Polyphylla albolineata</i> (Motschulsky, 1861) コウチュウ目 コガネムシ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

大型のコガネムシで、褐色の体に白い縦線紋を有する。雄の触角片状部は著しく長い。以前は沿岸部の松林周辺で普通に見られたが、近年急速に減少し、ほとんど見られなくなった。海岸の防風林の減少及びマツ食い虫防除のための農薬散布が原因と思われる。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 乾風 登. 1992. 松食い虫防除のための農薬散布と昆虫類. 南紀生物, 34 (82) : 108.
  - 2 井賀 哲. 2001. シロスジコガネの採集例. KINOKUNI, (60) : 52.
  - 3 的場 績. 1998. 松食い虫防除の被害に遭った甲虫. KINOKUNI, (53) : 22-23. 写真: 的場 績撮影

アオアシナガハナムグリ <i>Gnorimus subopacus</i> Motschulsky, 1860 コウチュウ目 コガネムシ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

比較的大型のハナムグリで、夏季に出現してノリウツギやリョウブの花に飛来する。和歌山県では主に山地に分布し、幼虫は林内の腐朽木等で生活する。局所的に多産することもあるが、和歌山県における採集記録は少なく、特に近年では極めて少なくなっている。

和歌山県では、北山村、田辺市 (旧本宮町)、古座川町、護摩壇山、有田川町 (旧清水町)、高野山等で発見されている。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 後藤 伸. 1949. 護摩壇山の珍昆虫. 南紀生物, 1 (2) : 73-76.
  - 2 井賀 哲. 2001. アオアシナガハナムグリを熊野古道で採集. KINOKUNI, (60) : 40.
  - 3 的場 績. 1988. アオアシナガハナムグリ採集例. KINOKUNI, (32) : 10. 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

コカブト <i>Eophileurus chinensis chinensis</i> (Feldermann, 1835) コウチュウ目 コガネムシ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

小型のカブトムシで、サクラやエノキ等の古木の樹洞内で生活する。幼虫は腐朽部を食べる。日中はほとんど外に出ず、夜間に灯火に飛来する。

社寺林や都市近郊の灯火に飛来した個体が時々発見されていたが、近年は殆ど見られなくなった。

和歌山県では、笠塔山、みなべ町、湯浅町、有田川町 (旧吉備町)、海南市、和歌山市等、各地で発見されているが、市街地周辺の記録が多く、山間部での記録は少ない。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 土井邦江・的場 績. 2019. みなべ町東本庄の甲虫 (その1). KINOKUNI, (95) : 7-8.
  - 2 楠井善久. 1990. コカブトムシの生息する樹種と若干の知見. SAIKAKU, 9 : 1-2.
  - 3 和歌山大学教育学部生物学教室生物同好会. 1973. 和歌山城動物調査中間報告. 42pp, 和歌山. 写真: 的場 績撮影

クロマダラタマムシ *Nipponobuprestis querceti* (E. Saunders, 1873) コウチュウ目 タマムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

大型の美麗種で、成虫はエノキの葉を食べ、幼虫はエノキの衰弱部や枯死枝に付く。平地から里山に至る河畔林や社寺林等で見られる。

選定理由 和歌山市周辺で比較的安定して見られるが、他では殆ど見られなくなった。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 土井邦江・的場 績, 2019. みなべ町東本庄の甲虫 (その1). KINOKUNI, (95) : 7-8.
  - 2 平松広吉, 2001. クロマダラタマムシの採集例. KINOKUNI, (60) : 53.
  - 3 的場 績, 1993. 和歌山の甲虫 26 クロマダラタマムシ. 自然博物館だより, 11 (1) : 2. 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

コガタノサビコメツキ *Lacon parallelus parallelus* (Lewis, 1894) コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	------------	----	------	-------------	---	---

本科の中では古い形質を残していると言われている。全国的にも採集記録は少なく、和歌山県では橋本市、和歌山市、護摩壇山、広川町、新宮市等で記録されているが、調査が進めばもっと広く分布しているものと思われる。

選定理由 比較的乾燥したマツの立ち枯れ樹皮下に潜んでいることが多く、このような環境は、マツ枯れの多い今日では丹念に探せばもっと発見されるものと思われる。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 平松広吉, 1994. 和歌山県のコメツキムシ追加記録. KINOKUNI, (45) : 9-12.
  - 2 平松広吉, 2010. 的場績氏採集 (2009年) のコメツキムシ. KINOKUNI, (77) : 18.
  - 3 的場 績・平松広吉, 1973. 和歌山県産コメツキムシ科目録 I. 南紀生物, 15 (2) : 45-48. 写真: 平松広吉提供

ツマグロコメツキ *Ampedus niponicus* (Lewis, 1894) コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

翅鞘が黄色で、翅端部が黒い特徴的な美しい種である。全国的にも少なく、生息地が限られている。本県では田辺市大塔山、古座川町、護摩壇山でわずかに採集されているのみである。しかも 2000 年以降、全く採集されていない。

選定理由

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報
- 1 秋田勝巳, 1998. 和歌山県古座川町平井で得た甲虫. 南紀生物, 40 (2) : 195-197.
  - 2 的場 績・平松広吉, 1974. 和歌山県産コメツキムシ科目録Ⅱ. 南紀生物, 16 (1) : 18-22.
  - 3 大平仁夫・平松広吉, 1995. ツマグロコメツキの黒化型. 月刊むし, (294) : 37-38. 写真: 平松広吉提供

ヒメクロナガコメツキ *Parallelostethus georgelewisii* (W. Suzuki, 1985) コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

日中での観察記録はなく、稀に灯火に飛来する。強い自然林依存種であり、豊かな自然林の環境指標種と言える。

**選定理由** 全国的にも記録が少なく、和歌山県では高野山、護摩壇山、田辺市大杉谷、那智勝浦町那智山で記録されているが、近年ほとんど発見できない。  
執筆者 (的場 績)



**参考文献**  
**・情報** 1 平松広吉. 2001. 高野山で採集した数種のコメツキムシ. KINOKUNI, (60): 9.  
写真: 平松広吉提供

ムネアカツヤケシコメツキ *Megapenthes opacus* Candeze, 1873 コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

背面は黒色の短毛で覆われ、つや消し状。胸が赤い。全国的な稀少種であるが、本県では高野山、護摩壇山、白浜町將軍川で発見されている。

**選定理由** 成虫はブナ等の樹洞内で生活し、稀に樹洞の外に出てきた個体が発見されることが多い。  
執筆者 (的場 績)



**参考文献**  
**・情報** 1 平松広吉. 2007. 和歌山県立自然博物館所蔵の和歌山県産コメツキムシ. KINOKUNI, (72): 12-13.  
2 大平仁夫・平松広吉. 2001. 和歌山県産コメツキムシ類の記録 (12). 南紀生物, 43 (2): 94-97.  
写真: 平松広吉提供

ツヤヒラタコメツキ *Aganohypoganus mirabilis* (Miwa, 1934) コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

黒色光沢のある中型のコメツキムシ。全国的には非常に稀な種であるが、生石山のススキ草原には比較的多産していた。2000年頃までは多かったが、近年減少傾向にある。

**選定理由** 和歌山県では生石山にしか生息していないと思われていたが、古くは北山村でも発見されており、近年は、護摩壇山や有田川町白馬山でも発見されている。  
執筆者 (的場 績)



**参考文献**  
**・情報** 1 平松広吉. 1973. 和歌山県のツヤヒラタコメツキ. 昆虫学評論, 25 (1/2): 62.  
2 平松広吉. 2012. 和歌山県レッドデータブック記載のコメツキムシ3種. KINOKUNI, (82): 25.  
3 大平仁夫. 1973. コメツキ雑記 (1). 昆虫と自然, 8 (9): 20-21.  
写真: 平松広吉提供

オオダイリヒラタコメツキ *Actenicerus odaisanus* (Miwa, 1928) コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	------------	----	------	-------------	---	---

**選定理由** 緑銅色の金属光沢を持つ美しい種。体は細長く脚は黄色。紀伊半島固有種。本県では護摩壇山周辺と日高川町八斗蒔のブナ帯に生息する。近年採集報告がなかったが、2~3年前より、護摩壇山から日高川町城ヶ森山にかけて、毎年発見されている。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 平松広吉. 1994. 和歌山県のコメツキムシ追加記録. KINOKUNI, (45) : 9-12.  
**・情報** 写真: 的場 績撮影

イソジョウカイモドキ *Laius asahinai* Nakane, 1955 コウチュウ目 ジョウカイモドキ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	情報不足 (DD)
--------	------------	----	------	------------	---	-----------

**選定理由** 自然海岸の岩礁に生息する種で、岩礁性の微小動物を食している。本県では白浜町、由良町、広川町で記録されているが、自然海岸の減少と共に本種の生息環境も減少し、全国的にも減少傾向にあり、和歌山県でも、近年ほとんど観察できなくなっている。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 平松広吉. 1999. イソジョウカイモドキを日高郡で採集. KINOKUNI, (56) : 25.  
**・情報** 2 梅本 実. 1971. 岩礁より採集した甲虫. KINOKUNI, (1) : 4.  
 写真: 的場 績撮影

ハラグロオオテントウ *Collicaria superba* (Mulsant, 1853) コウチュウ目 テントウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 大型のテントウムシで、前胸背に1対、上翅に、1-3-3に並んだ7対の黒紋を有する。腹部中央は黒色。キジラミ類を捕食する。和歌山県における発見例は少なく、古い記録ばかりで、ごく少数の標本しか残っていない。特に近年の発見報告はない。クワの古木に多い。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 的場 績. 1986. 和歌山県のテントウムシ科. 南紀生物, 28 (2) : 89-92.  
**・情報** 写真: 金岡晃司提供

アイヌテントウ *Coccinella ainu* Lewis, 1896 コウチュウ目 テントウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

形態・色彩共にナナホシテントウに似るが少し小型で、上翅の黒い星は11個ある。北方系の種で、北海道や本州東部では少ないが、近畿地方では稀少種である。和歌山県では有田川町(旧清水町)と新宮市で発見されているが、発見は散発的で継続的な発見例はない。特に近年の発見例はない。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

1 的場 績. 1988. アイヌテントウ県下に産す. KINOKUNI, (33) : 25.  
写真: 松野茂富提供

オカモトツヤアナハネムシ *Pedilus okamotoi* (Kôno, 1935) コウチュウ目 アカハネムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

雄の上翅後方に特異な彫刻があり、触角は櫛状、山地の谷間や、湿った林床の植物上にいることが多い。和歌山県では山地性の稀少種であり、護摩壇山と果無山脈で発見されているが、極めて少数である。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

1 平松広吉. 2000. 紀伊半島のオカモトツヤアナハネムシの記録. 甲虫ニュース, (127/128) : 14.  
写真: 中村 進提供

フタコブルリハナカミキリ *Stenocorus caeruleipennis* (Bates, 1873) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

全国各地に広く分布するが、近畿以西では稀少種である。6月から8月にクリ、タンナサワフタギ、ノリウツギ、リョウブ等の花に飛来する。本県では高野山から護摩壇山にかけての1000 m級の山々で採集されている。那智勝浦町那智山と生石山でも記録されているが、いずれも1例のみの記録で、再発見はされていない。

護摩壇山周辺では、少ないながらも毎年発見されている。2021年には日高川町白馬山でも発見された。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

1 平松広吉. 1994. 生石山のカミキリムシ2種. KINOKUNI, (45) : 8.  
2 的場 績. 2019. 和歌山県産甲虫類分布資料36. KINOKUNI, (96) : 35-36.  
写真: 的場 績撮影

**イガブチヒゲハナカミキリ** *Stictoleptura igai* (Tamanuki, 1942) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

赤褐色の上翅に触角は黒色と淡黄色のまだら状。成虫は夏に出現してノリウツギの花に集まる。護摩壇山から高野山に分布していたが、近年護摩壇山ではほとんど見られなくなり、現在では高野山で安定して発見される。

2019年以降に日高川町八斗蒔でも少ないながら発見されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 井賀 哲. 2019. 最近の採集記録より. KINOKUNI, (96) : 30-31.
- 2 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅. 写真: 的場 績撮影

**ヒゲジロホソコバナカミキリ** *Necydalis odai* Hayashi, 1951 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

ブナ帯の昆虫で、成虫は夏期にミズナラの立ち枯れに飛来するが、個体数は少ない。

和歌山県では高野山と護摩壇山で記録されており、護摩壇山が模式産地になっている。もともと数が少なく、ブナ林の減少が本種の生存に大きな影響を与えている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 奈良 一. 1977. 和歌山県の天牛雑録 (その7). KINOKUNI, (13) : 1-3. 写真: 的場 績撮影

**オオホソコバナカミキリ** *Necydalis solida* Bates, 1884 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

ブナ帯の昆虫で、成虫は夏季に各種広葉樹の立ち枯れに飛来し、産卵する。和歌山県では護摩壇山と日高川町八斗蒔で採集されているが、個体数は極めて少なく、特に近年の採集例は聞かない。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 奈良 一. 1977. 和歌山県の天牛雑録 (その7). KINOKUNI, (13) : 1-3. 写真: 的場 績撮影

ヨコヤマヒゲナガカミキリ *Dolichoprosopus yokoyamai* (Gressitt, 1937) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	------------	----	------	-------------	---	---

選定理由

大型のカミキリムシで、本州～九州のブナ帯に生息する。成虫は夏期にブナの生木に集まるが、個体数は少ない。灯火に飛来する性質があり、本県における採集例のほとんどは、灯火採集によるものである。

和歌山県では、高野山、護摩壇山、大塔山、果無山脈、新宮市熊野川町等で記録されている。個体数は少ないが、比較的安定して発生しているようである。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1984. 和歌山県立自然博物館収蔵のカミキリムシ数種. KINOKUNI, (25) : 29.
  - 2 仁坂吉伸. 2015. 大塔山系のヨコヤマヒゲナガカミキリ. KINOKUNI, (87) : 2.
- 写真: 中村 進提供 (県外産)

ヒメビロウドカミキリ *Acalolepta degener* (Bates, 1873) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	-------------	---	------------

選定理由

小型のビロウドカミキリで、成虫は夏季に出現する。オトコヨモギに集まり、その枯葉内に潜む。

和歌山県では 1992 年に有田川町 (旧清水町楠本) で 1 頭採集されているのみであったが、その後、生石高原に比較的安定して生息していることが判明した。しかし、生息域は極めて限られており、生息基盤は脆弱である。

今のところ、和歌山県での生息地は、生石高原周辺のみである。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 加藤敦史. 1993. 和歌山県におけるヒメビロウドカミキリの分布記録. 月刊むし, (265) : 40.
  - 2 的場 績. 2007. 和歌山県産甲虫類分布資料 17. KINOKUNI, (72) : 19-21.
- 写真: 的場 績撮影

キンイロネクイハムシ *Donacia japana* Chûjô & Geocke, 1956 コウチュウ目 ハムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------------	---	------------

選定理由

金属光沢を帯びた緑銅色の綺麗なハムシ。幼虫及び成虫はミクリを食害する。1958 年に高野山霊宝館前の池で採集されている。現在、霊宝館前の池の環境は悪化しているが、本種は生存している。また近年、かつらぎ町や橋本市でも新たな生息地が発見され、本種の存続が一安心の状況であるが、楽観は出来ない。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 Kimoto, S. & Hiura I. 1964. A list of the chrysomelid specimens preserved in the Osaka Museum of Natural History I. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 17 : 5018.
  - 2 的場 績. 2008. キンイロネクイハムシの新産地を発見. 自然博物館だより, 26 (3) : 6.
  - 3 鈴木慶太・的場 績. 2012. キンイロネクイハムシが橋本市にも生息する. KINOKUNI, (81) : 14-15.
- 写真: 後藤雅則提供

ヒメゴマダラオトシブミ *Paropladerus vanvolxemi* (Roelofs, 1875) コウチュウ目 オトシブミ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

ゴマダラオトシブミの黒化型に似ているが少し小型で、上翅に1対の瘤がある。北海道～九州まで各地に分布する普通種である。成虫は5月中旬頃に現れ、エノキの葉を巻いて揺籃を作る。

和歌山県では有田川町楠本及び生石山で、1990年頃まで生息していたが、2000年以降は毎年調査しているにもかかわらず、全く発見できなくなった。

近年、橋本市と高野町で発見されたが合計3頭であり、再調査をしているが発見はできていない。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 児玉 洋. 2021. 橋本市の造成地における興味ある甲虫類の記録 (2021年). KINOKUNI, (100): 5-9.
  - 2 的場 績. 1975. 和歌山県産ゾウムシ雑録1. KINOKUNI, (9): 10-11.
  - 3 的場 績. 1983. 和歌山県のオトシブミ類. 南紀生物, 24 (1): 53-57.
- 写真: 的場 績撮影

ミツギリゾウムシ *Baryrhynchus poweri* (Roelofs, 1879) コウチュウ目 ミツギリゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

暗赤褐色の体で、各上翅には6~7個の黄橙色の紋がある。雄は口吻の前方が広がり、大あごが発達する。雌の口吻は細長い。沖縄から本州まで各地に分布するが、本州では稀。夜行性で、広葉樹の伐採材に集まる。

和歌山県では紀南地方の山間部で見られるが、広葉樹の伐採がなくなった現在では、ほとんど見られなくなった。2021年には比較的沿岸に近いすさみ町琴の滝でも発見された。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1974. 和歌山県のミツギリゾウムシ類覚え書き. KINOKUNI, (8): 8-9.
  - 2 的場 績. 2018. 吉田元重コレクションのゾウムシ標本. KINOKUNI, (93): 17-41.
  - 3 的場 績. 2021. ゾウムシ雑記49 和歌山県では記録の少ないゾウムシの記録. KINOKUNI, (100): 34-35.
- 写真: 的場 績撮影

モリモトシギゾウムシ *Curculio morimotoi* Notsu, 1994 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	------------	----	------	-------------	---	---

成虫は6~7月頃に現れ、ハンノキ類の葉及び果実上に見られる。和歌山県では新宮市の河原に生育するカワラハンノキに限って見られると思われていたが、1973年に有田川町熊井にて採集された体色の白っぽい不明種のシギゾウムシが本種と同一種であることが判明し、河原以外のハンノキ類にもいることが判明した。今後、各地のハンノキ類を精査すれば、新たな生息地が発見されるものと思われる。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. 和歌山県立自然博物館館報, 17: 29-51.
- 2 野津 裕・山迫淳介. 2021. モリモトシギゾウムシの背面鱗毛による斑紋変異について (形態ならびにDNAバーコーディングに基づく解析). さやばねニューシリーズ, (44): 31-35.  
写真: 的場 績撮影

ヒメカツオゾウムシ *Lixus subtilis* Boheman, 1836 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

体長 1 cm ほどの小型種で、アイノカツオゾウムシの小形個体と紛らわしいが、前胸両側が平行状であり、吻が太く短い。本種は全国的にも稀少種で、分布は九州と紀伊半島のみである。

和歌山県では有田市宮崎ノ鼻と生石山の 2 箇所しか産地が知られていない。宮崎ノ鼻ではたった 1 頭の記録で、生石山では 2000 年以降、毎年生息調査をしているが、少数が確認されているだけで、2011 年以降は全く発見されていない。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 2015. ゾウムシ雑記 38 アイノカツオゾウムシ近似種 3 種の区別法. KINOKUNI, (87): 13-15.  
写真: 的場 績撮影

ハスジゾウムシ *Cleonus japonicus* Faust, 1907 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

普通種のハスジカツオゾウムシに似ているが、大型で、吻背面に 4 隆起条があることにより区別できる。アザミ類の茎先端部につき、茎や葉を加害する。

和歌山県では紀の川市、岩出市、和歌山市、有田市で採集されているが、産地は局所的であり、岩出市及び有田市の産地以外ではその後の発見例がない。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. 和歌山県立自然博物館館報, 17: 29-51.
- 2 的場 績. 2003. ゾウムシ雑記 22 短報 5 題. KINOKUNI, (64): 9-10.
- 3 的場 績. 2003. 和歌山の甲虫 53 ハスジゾウムシ. 自然博物館だより, 21 (3): 4.  
写真: 的場 績撮影

タマヌキオニゾウムシ *Gasterocercus tamanukii* Kôno, 1932 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

北海道と本州に分布するが、既知産地は極めて少なく、個体数も極めて少ない。北方系の種で、和歌山県が分布の南限になる。

生態は不明で、灯火に飛来した個体が採集されているだけである。

**選定理由** 和歌山県では大塔山系と果無山脈で採集されている。個体数は少なく、これまでに採集された個体は 10 頭以下であり、生態も分かっていないので、本種の生息している自然林を保護しないと絶滅する危険性がある。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1995. 和歌山の甲虫 35 アシナガオニゾウムシとその近似種. 自然博物館だより, 13 (2) : 3.
- 2 的場 績. 2018. 吉田元重コレクションのゾウムシ標本. KINOKUNI, (93) : 17-41.  
写真: 的場 績撮影

コカタビロゾウムシ *Trigonocolus sulcatus* Roelofs, 1874 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

体長 3 mm 程の小型種で、上翅基部から前後に急速に狭まり菱形になる。黒色で上翅には灰色毛による縦条がある。成虫はハギを加害する。幼虫の生態は不明であるが、成虫はハギ類の根際につき、幹をゆらすとすぐに落下し、発見は困難である。

**選定理由** 本州中部地方では比較的に見られるが、他では稀少種である。和歌山県では、御坊市丸山、有田川町上湯川、生石山で各 1 頭採集されているのみで、40 年以上再発見されていないが、2021 年に生石山で複数個体が再発見された。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. 和歌山県立自然博物館館報, 17 : 29-51.
- 2 的場 績. 2021. ゾウムシ雑記 49 和歌山県では記録の少ないゾウムシの記録. KINOKUNI, (100) : 34-35.  
写真: 的場 績撮影

マツムラハラブトハナアブ *Mallota rubripes* Matsumura, 1916 ハエ目 ハナアブ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

森林性の種で環境指標性が高い。産地が局地的で個体数も少ない。成虫はクマノミズキやノリウツギ等の花に飛来する。幼虫は水生で、大木の樹洞内に生息する。和歌山県では護摩壇山で採集されている。成虫はマルハナバチに擬態していると考えられ、学術的にも貴重。

執筆者 (弘岡拓人)



参考文献  
・情報

- 1 Hirooka, T., Maruyama, M. & Thompson, F. C. 2015. Revision of the flower fly genus *Mallota* Meigen, 1822 (Diptera : Syrphidae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 21 (2) : 241-258.  
写真: 弘岡拓人撮影

ハチモドキハナアブ <i>Monoceromyia pleuralis</i> (Coquillett, 1898) ハエ目 ハナアブ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-

選定理由

低地から台地・丘陵地のクヌギを主とした樹林地に生息し、環境指標性が高い。成虫はクヌギ等の樹液やカラスザンショウ、タラなどの花に飛来する。和歌山県内では紀北地域で確認されているが、産地が局地的で個体数も少ない。成虫はドロバチに擬態していると考えられ、学術的にも貴重。

執筆者 (弘岡拓人)



参考文献・情報

- 1 伊藤憲正. 1999. 関東地方におけるハチモドキハナアブ属3種の記録. はなあぶ, (8) : 55-56.
- 2 岩井大輔. 2002. 埼玉県におけるハチモドキハナアブに関する知見. はなあぶ, (14) : 11.  
写真: 弘岡拓人撮影

ニトベッコウハナアブ <i>Volucella linearis</i> Walker, 1849 ハエ目 ハナアブ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-

選定理由

和歌山県はもとより近隣府県でも発見例が少ない。大型のハナアブで、ベッコウハナアブに似るが、前翅に縦走る暗色部がある。幼虫はスズメバチ類に寄生し、ハチの幼虫の死体を食す。和歌山県では御坊市で採集された標本がある。

執筆者 (弘岡拓人)



参考文献・情報

- 特になし。  
写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ツマグロキチョウ <i>Eurema laeta</i> (Boisduval, 1836) チョウ目 シロチョウ科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)

選定理由

本州、四国、九州にやや局地的に分布。キタキチョウに似るが、翅裏に帯状の褐色斑があり、前翅端がとがる。また、黒縁の現れ方に差がある。季節的差異は顕著で、夏型は雌雄とも小型。食草は、マメ科のカワラケツメイ。

和歌山県では紀南地方を中心にして県内各地に局地的に分布しているが、河川改修や水湿地の埋立て、また大雨の増水による生息地の破壊、農薬散布の影響等により近年の減少が著しく絶滅が危惧される。

執筆者 (小島和也)



参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1997. 紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その1》. KINOKUNI, (52) : 8-11.
- 2 小島和也. 2006. 和歌山市田野でツマグロキチョウを採集. KINOKUNI, (69) : 19.
- 3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
- 4 吉村輔倫. 2005. 和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノートー有田地方を中心にー. KINOKUNI, (67) : 14-16.  
写真: 大橋弘和提供

エゾミドリシジミ *Favonius jezoensis* (Matsumura, 1915) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

北海道から九州まで分布し、本州中部以北の山地には、やや広く分布するが、本州南西部では山地性の傾向が強くなり、個体数も少ない。四国、九州ではこの傾向が著しい。翅頂は *Favonius* 亜属中、最もとがり、雄の尾状突起は最も短い。裏面は雄は灰白色、雌は淡灰色。食樹はブナ科のミズナラ、コナラ等。

和歌山県では、護摩壇山及びその周辺の局限された地域のみ確認されているが、広葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、近年の減少が著しく、絶滅が危惧される。なお、果無山系での確認情報もあり、今後注意する必要がある。



執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1994. 1993~1994 年紀伊半島南部の蝶界雑録. くろしお, (13) : 29-32.
  - 2 後藤 伸. 2001. エゾミドリシジミの斑紋異常型. くろしお, (20) : 12.
  - 3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 4 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
  - 5 吉村輔倫. 2005. 護摩壇山で採集したミドリシジミ類. KINOKUNI, (67) : 23.
- 写真：金岡晃司提供 (県外産)

オオミドリシジミ *Favonius orientalis* (Murray, 1875) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

北海道から九州まで広く分布するが個体数は一般にあまり多くない。雄翅表外縁の黒帯は *Favonius* 亜属中、最も細い。裏面の地色は灰白色~暗灰色。食樹はブナ科のコナラ、カシワ、クヌギ、アラカシ等。

和歌山県では、県内各地の低山地から護摩壇山山頂や果無山系などの山地帯にまで広く記録があるが、広葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、生息地、個体数とも近年の減少が著しく絶滅が危惧される。



執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 小島和也. 2006. 清水町で帯の広いオオミドリシジミを採集. KINOKUNI, (69) : 18.
  - 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 3 斎藤基樹. 2019. 和歌山のゼフィルス雑記 最終回 思いつくままあれこれ. KINOKUNI, (95) : 13-23.
  - 4 吉田昌男. 2016. 紀の川市で過去に採集した蝶. KINOKUNI, (90) : 12-13.
  - 5 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
  - 6 吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI, (25) : 24-27.
  - 7 吉村輔倫. 2005. 和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノートー有田地方を中心にー. KINOKUNI, (67) : 14-16.
- 写真：金岡晃司提供

**ヒサマツミドリシジミ** *Chrysozephyrus hisamatsusanus* (Nagami & Ishiga, 1935) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

本州（中部から西南部）、四国、九州に分布するが、産地は局限される。日本固有種で後翅裏面の白帯は直線状で、その後端はV字状。近似種のようなW状をなさない。食樹はブナ科のウラジロガシ、イチイガシなど。

和歌山県では、護摩壇山、大塔山系、果無山系等、県中南部を中心に分布するが、産地は局限され、照葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により、個体数が減少しており絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料 I 蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
- 2 後藤 伸. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の蝶類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 133-139, 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 小島和也. 2014. ヒサマツミドリシジミを生石高原で採集. KINOKUNI, (86) : 11.
- 4 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
- 5 的場 績. 2005. ヒサマツミドリシジミを採集. KINOKUNI, (68) : 12.
- 6 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
- 7 斎藤基樹. 2015. 高標高地におけるヒサマツミドリシジミの記録. KINOKUNI, (88) : 9-10.
- 8 斎藤基樹. 2019. 和歌山のゼフィルス雑記 最終回 思いつくままあれこれ. KINOKUNI, (95) : 13-23.
- 9 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅. 写真：大橋弘和提供

**キリシマミドリシジミ** *Chrysozephyrus ataxus* (Westwood, 1851) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

本州（中部から西南部）、四国、九州に分布するが、産地は局限される。雄の翅裏は銀白色の地色に褐色の弱い斑紋があり、雌の斑紋は独特で近似のものがない。食樹は主にブナ科のアカガシ。

和歌山県では、護摩壇山、大塔山系、果無山系等、県中南部を中心に分布するが、産地は局限され、照葉樹林の伐採、造林による生息環境の減少等により個体数が減少しており絶滅が危惧される。

執筆者（小島和也）



参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯（紀伊半島）の昆虫相資料 I 蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
- 2 後藤 伸. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の蝶類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 133-139, 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 後藤 伸・乾風 登・吉田元重. 1971. 大塔山系の昆虫相. 大塔山系の自然, 29-30. 69pp. 大塔山系生物調査グループ, 田辺.
- 4 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
- 5 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
- 6 斎藤基樹. 2016. 和歌山のゼフィルス雑記 第2回 キリシマミドリシジミ. KINOKUNI, (89) : 24-38.
- 7 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅. 写真：金岡晃司提供（県外産）

クロシジミ *Niphanda fusca* (Bremer & Grey, 1852) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	------------	----	------	------------	---	--------------------

本州、四国、九州にかけて分布するが、産地は局地的である。雄の翅表は暗紫色、雌は暗褐色がふつう。アブラムシやアリと密接な関係をもつ生活史に特色がある。

選定理由

和歌山県では、県内各地に広く記録があるが、その生息地は極めて局地的で、造林の拡大、農薬散布、また、生息環境が極めて不安定な環境で変遷しやすいこと等から、近年の減少が著しく、絶滅したと思われる産地もある。



執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯(紀伊半島)の昆虫相資料 I 蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
  - 2 後藤 伸. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の蝶類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 133-139, 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
  - 3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 4 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
  - 5 吉田昌男. 2016. 紀の川市で過去に採集した蝶. KINOKUNI, (90) : 12-13.
  - 6 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
  - 7 吉村輔倫. 2008. クロシジミの和歌山県、奈良県での最近の記録. KINOKUNI, (74) : 29.
- 写真：大橋弘和提供

クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene* (C. & R. Felder, 1862) チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

北海道から九州まで各地に広く分布する。色彩斑紋は雌雄大差ないが、雄には前翅に黒色発香鱗条がある。年 1 化の大型ヒョウモン類の中では、その出現時期が最も早い。食草は各種のスミレ属植物。

選定理由

和歌山県では、県内各地に比較的普通に広く分布していたが、拡大造林や山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、近年は減少が著しく、絶滅したと思われる産地もある。



執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯(紀伊半島)の昆虫相資料 I 蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
  - 2 後藤 伸. 1996. すさみ町里野付近の蝶類調査記録. KINOKUNI, (49) : 26-31.
  - 3 後藤 伸. 1997. 紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その 1》. KINOKUNI, (52) : 8-11.
  - 4 後藤 伸. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の蝶類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 133-139, 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
  - 5 後藤 伸・乾風 登・吉田元重. 1971. 大塔山系の昆虫相. 大塔山系の自然 : 29-30. 69pp. 大塔山系生物調査グループ, 田辺.
  - 6 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 7 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
  - 8 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
  - 9 吉村輔倫. 2006. クモガタヒョウモンを日高川町で採集. KINOKUNI, (69) : 19.
  - 10 吉村輔倫. 2020. ヒョウモンチョウ類 5 種の記録 (有田地方 2020 年 6 月). KINOKUNI, (97) : 12-13.
- 写真：大橋弘和提供

**オオムラサキ** *Sasakia charonda charonda* (Hewitson, 1863) チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	------------	----	------	------------	---	------------

北海道から九州まで広く分布するが、産地は各地で開発等により減少している。雄は前後翅の基半部が紫色に輝くが、雌にはこれがない。日本の国蝶に指定されている。食樹はアサ科のエノキ等。



**選定理由** かつては和歌山県内各地に生息していたが、果樹園の開発、都市化、農薬散布の影響等により、減少が著しく、近年は主に紀北地域の限られた場所にのみに生息し、絶滅したと思われる地域も多い。

執筆者 (小島和也)

**参考文献  
・情報**

- 1 後藤 伸. 1994. 1993~1994 年紀伊半島南部の蝶界雑録. くろしお, (13) : 29-32.
  - 2 秀野義男. 1998. オオムラサキの目撃例. KINOKUNI, (53) : 24.
  - 3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 4 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
  - 5 南 敏行. 1992. 高田中学校校庭の生物 (3) 蝶類とその成虫の季節消長. みくまの, 8 : 3-11.
  - 6 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
  - 7 吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI, (25) : 24-27.
- 写真: 大橋弘和提供

**クロヒカゲモドキ** *Lethe marginalis* (Motschulsky, 1860) チョウ目 タテハチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	絶滅危惧 I B 類 (EN)
--------	------------	----	------	---	---	-----------------

本州、四国、九州に分布。いずれの産地も局地的である。雌雄とも斑紋はほとんど同じであるが、雌は雄に比べ翅形が幅広く地色は淡色、前翅の斜白帯はより明瞭である。クロヒカゲ、ヒカゲチョウに類似するが、前翅裏面亜外縁の1列に並ぶ3個(場合によっては4個)の眼状紋列は大型で、第3室の眼状紋が最大となる。類似2種は通常第5室の紋が最大となる。幼虫の食草はイネ科、カヤツリグサ科。



**選定理由**

和歌山県では局地的ではあるが、各地に広く分布していた。拡大造林や果樹園開発、農薬散布等による生息環境の悪化、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、近年は産地、個体数とも減少が著しく、絶滅したと思われる産地もある。

執筆者 (小島和也)

**参考文献  
・情報**

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯(紀伊半島)の昆虫相資料 I 蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
  - 2 後藤 伸・乾風 登・吉田元重. 1971. 大塔山系の昆虫相. 大塔山系の自然, 29-30. 69pp. 大塔山系生物調査グループ, 田辺.
  - 3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 4 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
  - 5 吉田元重. 2010. 護摩壇山山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
  - 6 吉村輔倫. 2005. 和歌山県のチョウ、注目すべき種の調査ノートー有田地方を中心にー. KINOKUNI, (67) : 14-16.
- 写真: 金岡晃司提供 (県外産)

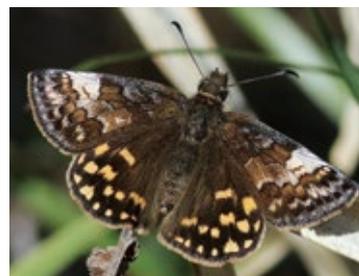
ミヤマセセリ *Erynnis montanus* (Bremer, 1861) チョウ目 セセリチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

北海道から九州まで、ほぼ日本全土に分布する。雌雄とも斑紋はほとんど同じであるが、雄には前翅前縁基半に反り返った性標がある。年1回、春の訪れとともに出現する。食樹はブナ科のコナラ、クヌギ等。

和歌山県では、全県内、低山地から護摩壇山等の山間地域まで広く分布するが、森林の伐採、造林の拡大等により、近年は産地、個体数とも減少が著しい。



執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 乾風 登. 1986. 日高郡南部町で1984年に観察した蝶類. KINOKUNI, (30) : 6-9.
  - 2 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯(紀伊半島)の昆虫相資料I蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
  - 3 後藤 伸. 1996. すさみ町里野付近の蝶蛾類調査記録. KINOKUNI, (49) : 26-31.
  - 4 後藤 伸・乾風 登・吉田元重. 1971. 大塔山系の昆虫相. 大塔山系の自然 : 29-30. 69pp. 大塔山系生物調査グループ, 田辺.
  - 5 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 6 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川.
  - 7 吉田昌男. 2016. 紀の川市で過去に採集した蝶. KINOKUNI, (90) : 12-13.
  - 8 吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI, (25) : 24-27.
- 写真 : 大橋弘和提供 (県外産)

オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida* (Murray, 1875) チョウ目 セセリチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	------------	----	------	-------------	---	---

選定理由

全国的に見て東北日本に多く、西南日本には個体数の少ない種であるが、最近では、全国的に減少傾向にある。雌雄とも色彩、斑紋はほとんど同じで前後翅表面の地色は黒味をおびた茶褐色、裏面は赤みをおびた黄土色となり、白斑がある。飛翔は敏速で、幼虫の食草はタケ類等のイネ科植物。

かつては、和歌山県内に広く採集記録があったが、最近まで確認されていた岩出市周辺でも見かけることが難しくなってきた。なお、ごく最近、有田川町で確認された。ただ、ここ数年は山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカ等の食害による食草の減少等により、生息が確認できない地域も多い等、生息地、個体数とも減少しており、絶滅が危惧される。



執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯(紀伊半島)の昆虫相資料I蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
  - 2 後藤 伸. 1997. 紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その1》. KINOKUNI, (52) : 8-11.
  - 3 秀野義男. 1989. 和歌山市周辺のオオチャバネセセリ. KINOKUNI, (36) : 29.
  - 4 北畑雅弘. 1987. 海南市小野田の蝶. KINOKUNI, (31) : 29-30.
  - 5 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 6 吉村輔倫. 2020. 有田地方で確認したチョウ類9種. KINOKUNI, (97) : 10.
- 写真 : 大橋弘和提供 (県外産)

**ミヤマチャバネセセリ** *Pelopidas jansonis* (Butler, 1878) チョウ目 セセリチョウ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

全国的には、本州、四国、九州に広く産するが稀な種。雌雄とも色彩、斑紋はほとんど同じで前後翅表面の地色は黒褐色、裏面は赤みをおびた褐色となり、白斑がある。また、後翅裏面中室に顕著な銀白色の紋がある。飛翔は活発で、幼虫の食草は主にイネ科のススキ。



和歌山県では県内に広く分布しているが、局地的で、近年は山間の荒廃による草原の減少、ニホンジカなどの食害による食草の減少等により、生息地、個体数とも減少が著しく、絶滅が危惧される。

執筆者 (小島和也)

参考文献  
・情報

- 1 後藤 伸. 1995. 果無山脈一帯 (紀伊半島) の昆虫相資料 I 蝶類. 南紀生物, 37 (1) : 34-40.
  - 2 後藤 伸. 1997. 紀南・太田川流域の昆虫相調査資料《その1》. KINOKUNI, (52) : 8-11.
  - 3 北畑雅弘. 1987. 海南市小野田の蝶. KINOKUNI, (31) : 29-30.
  - 4 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 5 吉村輔倫. 2008. 有田地方のミヤマチャバネセセリ. KINOKUNI, (74) : 28.
  - 6 吉村輔倫. 2020. 有田地方で確認したチョウ類9種. KINOKUNI, (97) : 10.
- 写真: 金岡晃司提供

**メンガタスズメ** *Acherontia styx medusa* Moore, 1858 チョウ目 スズメガ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

胸背に人面模様がある。前翅の黒と後翅の黄色のコントラストが美しい大型のガである。以前はナス科作物の害虫として畑地でよく見られたが、近年は近似種のクロメンガタスズメの侵入により駆逐されたのか、全く見られなくなった。



執筆者 (的場 績)

参考文献  
・情報

- 1 坂口勝彦. 1949. 紀北の一隅橋本高校付近の鱗翅目について. 紀州昆虫, 1 (4) : 69-75.
- 写真: 小島和也提供

**サツマニシキ本土亜種** *Erasmia pulchella nipponica* Inoue, 1976 チョウ目 マダラガ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

昼行性の美しい蛾。成虫は年2化性で6月と9月に現れる。幼虫はヤマモガシの葉を食べる。

紀伊半島が分布の北限で、和歌山県では紀南地方の照葉樹林で普通に見られるが、近年減少しているようである。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 村瀬ますみ・的場 績. 1998. 和歌山県産蛾既報の整理. KINOKUNI, Suppl. 1, 120pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅.
- 写真: 大橋弘和提供

**ムラサキシタバ** *Catocala fraxini jezoensis* Matsumura, 1931 チョウ目 ヤガ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

*Catocala* 属で後翅が紫青色の横帯になる唯一の種。幼虫はヤマナラシを食う。

**選定理由** 和歌山県では護摩壇山と高野山で発見されているが、高野山では1例のみ。護摩壇山では数例の発見がある。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 的場 績. 2009. 高野山に於けるムラサキシタバの記録. KINOKUNI, (75) : 13.
  - 2 植田広行. 1999. 和歌山県でムラサキシタバを採集. KINOKUNI, (12) : 11.  
写真: 有本 智提供

**ムカシヤンマ** *Tanypteryx pryeri* (Selys, 1889) トンボ目 ムカシヤンマ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	-----------	----	------	------------	---	---

全長 80 mm 程。雌雄ともに腹部に黄色の小さな斑紋を備える。幼虫の生息環境が特異であり、丘陵地や山地の樹林内の、水が染み出し、コケで覆われた崖の穴の中で生活する。和歌山市、海南市、紀の川市 (旧貴志川町・旧桃山町)、紀美野町 (旧野上町・旧美里町)、串本町、九度山町、高野町、古座川町、新宮市、田辺市、那智勝浦町、橋本市、みなべ町 (旧南部川村) から記録があり、白浜町からも得られているが、生息地は局地的で個体数は少ない。開発による生息環境の改変によって減少していると考えられるが、和歌山県における分布は広いいため、新たな生息地の発見が期待される。

執筆者 (南 敏行・松野茂富)



- 参考文献・情報**
- 1 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ (データ編). 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.
  - 2 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息状況 レッドデータ種及び県南部での記録の少ない種について. KINOKUNI, (76) : 1-8.
  - 3 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について (2). KINOKUNI, (78) : 1-7.  
写真: 金岡晃司提供

**ホンサナエ** *Shaogomphus postocularis postocularis* (Selys, 1869) トンボ目 サナエトンボ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	—	国	—
--------	-----------	----	------	---	---	---

全長 55 mm 程。雌雄ともに体形は太短い。幼虫は河川中流域の砂泥底に生息する。橋本市において、2010 年代に目撃記録が1例あるのみ。開発による生息環境の改変によって減少している可能性があるものの、紀の川および貴志川で幼虫が、橋本市で成虫が記録されている。

執筆者 (南 敏行・松野茂富)



- 参考文献・情報**
- 1 国土交通省河川水辺の国勢調査 河川環境データベースシステム 近畿地方.  
[http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl\\_86\\_index.html](http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/dl_86_index.html) (2022年10月1日参照)
  - 2 南 敏行. 2017. 橋本市でホンサナエを撮影記録. KINOKUNI, (92) : 4.
  - 3 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮. 2013. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京.  
写真: 山本哲央提供 (県外産)

**エゾエンマコオロギ** *Teleogryllus inferalis* (Saussure, 1877) バッタ目 コオロギ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-----------	----	------	-------------	---	---

エゾエンマコオロギに近似の大型のコオロギ。本州では河川敷の草地に生息する。

**選定理由** 滋賀県・福井県以北に生息し、飛び石的にかつらぎ町紀の川から、採集されたのみである。かつらぎ町の記録は本種の南限にあたるが、雄1個体が採集されただけなので、再発見が望まれる。



執筆者 (河北 均)

**参考文献・情報**

- 市川 顕彦・村井 貴史・本田 恵理. 2000. 総説・日本のコオロギ. ホシザキグリーン財団研究報告, 4: 257-332.  
写真: 村井 貴史提供 (県外産, バッタ・コオロギ・キリギリス鳴き声図鑑より転載)

**ハマズズ** *Dianemobius csikii* (Bolivar, 1901) バッタ目 ヒバリモドキ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

砂に隠蔽擬態するヒバリモドキ科昆虫。

**選定理由** 東アジア～日本列島の海岸、大河川の砂地に生息し、日本列島では近年各地で激減・絶滅している。和歌山県では和歌山市、岩出市、田辺市から古い記録がある。古い記録のなかには同定に疑わしいと考えられるものもある。再調査が望まれる種である。



執筆者 (河北 均)

**参考文献・情報**

- 北尾 陽左右. 1941. 和歌山県北部地方のキリギリス類及びコオロギ類. 関西昆虫学会会報, 11 (1): 49-54.
- 小川 忠宏. 1991. 紀北地方の鳴く虫展望 第4回. KINOKUNI, (40): 1-7.
- 富永 修. 1998. 後藤コレクションⅡ<南紀の直翅類>. ぱったりぎす, (119): 48-50.  
写真: 酒井 雅博提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

**オオアシナガサシガメ** *Gardena malinarthrum* Dohrn, 1860 カメムシ目 サシガメ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-----------	----	------	-----------	---	------------

体は細長く、脚も極めて細長い。前脚は鎌状に変化している。

**選定理由** 和歌山県ではかつらぎ町 (旧花園村) で採集された1例のみで、その後の記録はなく、近似のセスジアシナガサシガメの誤認の可能性もある。

執筆者 (的場 績)

**参考文献・情報**

特になし。

**フタバシツチカメムシ** *Adomerus biguttulus* (Motschulsky, 1860) カメムシ目 ツチカメムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	-
--------	-----------	----	------	-----------	---	---

**選定理由** 小型種で、ミツボシツチカメムシに類似するが、小楯板の白斑は2個のみである。土壌性のカメムシで、東日本に分布するが、和歌山県では由良町黒島で採集された1例があるのみである。



執筆者 (的場 績)

**参考文献・情報**

- 後藤 伸. 1999. 和歌山県産カメムシの再録及び追補2 [マルカメムシ科、ツチカメムシ科]. KINOKUNI, (56): 1-6.  
写真: 南葉 鍊志郎提供 (県外産)

ヒトツメアオゴミムシ *Callistoides deliciolus* (Bates, 1873) コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー 情報不足 (DD) 旧県 2012 情報不足 (DD) 国 準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 小型のアオゴミムシ類で、前胸は褐色。翅端近くに褐色の紋が一つある。本県では新宮市とみなべ町、湯浅町で発見されており、湯浅町では集団越冬していた。

執筆者 (的場 績)



**参考文献  
・情報**

- 1 土井邦江・的場 績. 2019. みなべ町の甲虫 (その2). KINOKUNI, (96) : 33-34.
- 2 南 敏行. 1985. 新宮・東牟婁地方のアオゴミムシについて. みくまの, 8 : 3-11.  
写真: 武智礼央提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

ウミミズギワゴミムシ *Sakagutia marina* S. Ueno, 1955 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー 情報不足 (DD) 旧県 2012 情報不足 (DD) 国 準絶滅危惧 (NT)

**選定理由** 体は平たく、潮間帯砂利浜に棲み、砂礫中に潜っている。白浜町の海岸で記録されているが、この産地では絶滅したと言われている。採集方法が分かり、各地で採れるようになり、本県でもすさみ町で新たな生息地が発見された。調査が進めば他でも発見されるものと思われる。

執筆者 (的場 績)



**参考文献  
・情報**

- 1 初宿成彦. 2012. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録 (2) ゴミムシ科、カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属、ハムシ科. 372pp. 大阪市立自然史博物館所蔵資料目録 第44集, 大阪.
- 2 田中昭太郎. 1984. 和歌山県とその周辺の歩行虫 (1). KINOKUNI, (26) : 18-20.  
写真: 酒井雅博提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus orientaris* Gschwendtner, 1931 コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー 情報不足 (DD) 旧県 2012 絶滅 (EX) 国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

**選定理由** 図鑑では和歌山県産の標本の存在が示唆されているが、確実な記録はなく、過去の分布はよく分かっていないので、絶滅したものと判断したが、近年新宮市と田辺市で発見された。

近年、和歌山県外でも本種の分布が急速に拡大しており、その影響で県内に侵入してきたのか、県内で残存していた個体なのか判断が難しい。

執筆者 (的場 績)



**参考文献  
・情報**

- 1 浜際康太. 2016. 県内絶滅のコガタノゲンゴロウを新宮市で記録. KINOKUNI, (90) : 1.
- 2 森 正人・北山 昭. 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 28. 217pp. 文一総合出版, 東京.  
写真: 和歌山県立田辺高等学校・中学校生物部提供

ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhanthoides* Sharp, 1882 コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	-
--------	-----------	----	------	-----------	---	---

**選定理由** 体長 1 cm 程の種で、体背面は赤褐色。上翅には一面に黒点を有するが、目立った斑紋はない。主に和歌山県南部の池沼に見られるが、近年生息地が少なくなっている。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 土井邦江・的場 績. 2019. みなべ町の甲虫 (その2). KINOKUNI, (96) : 33-34.
  - 2 的場 績. 2011. 和歌山県産甲虫類分布資料 24. KINOKUNI, (79) : 11-13.
  - 3 的場 績. 2019. 和歌山県産甲虫類分布資料 36. KINOKUNI, (96) : 35-36.
- 写真: 松野茂富提供

マルチビゲンゴロウ *Leiodytes frontalis* (Sharp, 1884) コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-----------	----	------	-----------	---	------------

**選定理由** 体長 2 mm 程の微小ゲンゴロウで、短卵形、黄赤褐色で光沢がある。前胸後縁にはハの字状の溝があり、そのまま上翅前縁の逆ハの字状の溝につながる。田辺市、白浜町、日高町、有田川町 (旧金屋町)、和歌山市友ヶ島で採集されているが、確実な記録が少ない。特に近年の採集例が少なくなっている。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 御勢久右衛門. 1955. 友ヶ島の水生昆虫. Nature Study. 臨時増刊 : 19-21.
  - 2 的場 績. 1992. ベルレーゼ法で採集した甲虫類 I. KINOKUNI, (42) : 28.
  - 3 田中昭太郎. 2004. 白浜町しらさぎ橋付近のゲンゴロウ 2 種の記録. KINOKUNI, (51) : 15.
- 写真: 渡部晃平提供 (県外産, 愛媛県レッドデータブックより転載)

ヤマトモンシテムシ *Nicrophorus japonicus* Harold, 1877 コウチュウ目 シテムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-----------	----	------	---	---	------------

**選定理由** 大型のシテムシで、黒色、上翅には赤橙色の紋が前方に 2 紋、後方に 2 紋ある。人里の虫と言われ、市街地や、畑地周辺に見られ、山間部には見られない。全国的に減少傾向にあり、多くの府県で絶滅危惧種に選定されている。

和歌山県には分布記録がなく、生息状況が不明であったが、大阪市立自然史博物館所蔵標本の中に、高野山産の標本がある。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 初宿成彦. 2014. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録 (3) シテムシ科 1、コガネムシ上科、食糞群、ヨーロッパ東部産オサムシ科、コメツキムシ科 1. 200pp. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第 46 集, 大阪.
- 写真: 田中 稔提供 (県外産)

アカマダラセンチコガネ *Netochodaeus maculatus maculatus* (Waterhouse, 1875) コウチュウ目 コガネムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	-
--------	-----------	----	------	-------------	---	---

選定理由 林縁を低く飛翔することが多く、糞には誘引されない。近年採集方法が明らかになり、各地で採集されているが、和歌山県内では殆ど採れていない。しかも、和歌山県内における正式な記録は見当たらない。

執筆者 (的場 績)



参考文献 特になし。  
・情報 写真：的場 績撮影

アカハリミドリタマムシ *Bprestis splendens niponica* Hoscheck, 1931 コウチュウ目 タマムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由 金属光沢の緑色の体で銅赤色に縁取られる美麗種。アカマツやヒメコマツに寄生する。全国的な稀少種で、近畿地方では、京都府と兵庫県、奈良県で発見されており、京都府では絶滅、兵庫県では要調査種、奈良県では稀少種に選定されている。

2018年に田辺市(旧本宮町皆瀬川)林道で1頭が発見されているのみで、和歌山県内における分布の様子や生息数の多寡等、全く分かっていない。

執筆者 (的場 績)



参考文献 1 平松広吉. 2018. 田辺市でアカハリミドリタマムシを採集. KINOKUNI, (94) : 13.  
・情報 写真：平松広吉提供

オオムツボシタマムシ *Chrysobothris ohbayashii* Y. Kurosawa, 1948 コウチュウ目 タマムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

日本産ムツボシタマムシ属では最大の種。紫銅色で、鈍い金属光沢があり、上翅には3対の金緑色紋を持つ。

選定理由 和歌山県では、2014年に田辺市(旧本宮町)で発見され、2020年に橋本市で多数発見されている。本種はクヌギやコナラの伐採木に飛来するが、伐採1年目の材に限り、2年目にはほとんど飛来しない。従って継続的に本種の発生を確認することは難しい。

執筆者 (的場 績)



参考文献 1 平松広吉. 2014. 田辺市でオオムツボシタマムシを採集. KINOKUNI, (85) : 18.  
2 児玉 洋. 2020. 和歌山県橋本市の宅地造成地で採集された興味ある甲虫類. KINOKUNI, (98) : 1-4.  
・情報 写真：的場 績撮影

シロウズツヤケシコメツキ *Megapenthes shirozui shirozui* Kishii, 1959 コウチュウ目 コメツキムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	-
--------	-----------	----	------	-----------	---	---

屋久島から北海道まで各地で記録されているが稀少種である。多くの亜種に分けられ、本土産は本土亜種として区別されている。

選定理由 和歌山県では1972年に護摩壇山で採集されて以降、全く採集されていない。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績・平松広吉. 1974. 和歌山県産コメツキムシ科目録 II. 南紀生物, 16 (1) : 18-22.
  - 2 大平仁夫. 1973. コメツキ雑記 (I). 昆虫と自然, 8 (9) : 20-21.
- 写真: 平松広吉提供 (県外産)

トゲウスバカミキリ *Spinimegopsis nipponica nipponica* (Matsushita, 1934) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

比較的大型のカミキリムシ。体は赤褐色で、上翅は前胸よりも黄色が強い。前胸背側縁には前方と後方に顕著なトゲ状突起がある。

選定理由 琉球列島から九州、四国、八丈島に分布し、本州では那智勝浦町で採集された1頭のみが知られている。その後も何度か調査しているが、追加採集は出来ていない。

幼虫はソヨゴ、モチノキ、ツゲモチ等の枯れ木に付く。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 小島和也. 2017. トゲウスバカミキリを那智勝浦町で採集. KINOKUNI, (92) : 11.
- 写真: 小島和也提供

アカジマトラカミキリ *Anaglyptus bellus* (Matsumura & Matsushita, 1933) コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	-
--------	-----------	----	------	-----------	---	---

赤色と黒色の帯模様の美しい種で、8月下旬から9月末にかけて出現する。ケヤキの枯れ枝や伐採木上に飛来するが、ケヤキのそばのイタドリの花に来ることも知られている。

和歌山県では高野山で採集された記録があるのみ。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 奈良 一. 1981. 和歌山県の天牛雑録 (その13). KINOKUNI, (20) : 11-15.
- 写真: 的場 績撮影 (県外産)

ミヤカワハナゾウムシ *Anthonomus miyakawai* Kojima & Morimoto, 1994 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

褐色の体に白色紋が目立つ綺麗なゾウムシで、日本で3頭しか記録の無い極めて稀少なハナゾウムシである。3頭のうち1頭が田辺市（旧日本宮町）で2013年に採集されている。その後も何度か調査しているが、再発見できていない。

生態は全く不明で、寄主植物も不明である。

執筆者（的場 績）



参考文献 1 的場 績. 2014. ゾウムシ雑記 36 ハナゾウムシ三題. KINOKUNI, (85) : 19-21.

・情報 写真：的場 績撮影

ニホンアミカモドキ *Deuterophlebia nipponica* Kitakami, 1938 ハエ目 アミカモドキ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-----------	----	------	-----------	---	-------------

選定理由

全国的に減少傾向にある種で、和歌山県における確認例は少ない。体長2~3 mm、体は淡暗褐色、口器は退化消失し、翅には網状に発達したしわ状の線がある。雄成虫の触角は非常に長くなる。田辺市（旧日本宮町）から記録されているが、和歌山県における発見例は少なく、知見の蓄積が少ないため、分布の状況は不明である。山間部の清流中に幼虫が生息する。和歌山県の記録は成虫の確認ではないので、マルハナノミ科コウチュウの幼虫を誤同定した可能性がある。

執筆者（弘岡拓人・松野茂富）

参考文献

・情報

- 1 乾風 登. 1972. 大塔山系の水生昆虫. 大塔山系の自然Ⅲ, 49-62. 86pp. 大塔山系生物調査グループ, 田辺.
- 2 乾風 登・弓場武夫. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の水生昆虫目録大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告書. 119-122pp. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 竹本和哉. 1972. 黒蔵谷（中・下流）の水生昆虫とその現存量. 大塔山系の自然Ⅲ, 65-69. 86pp. 大塔山系生物調査グループ, 田辺.

シロスジナガハナアブ *Milesia undulata* Vollenhoven, 1863 ハエ目 ハナアブ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

選定理由

丘陵地から山地まで広く分布するが、和歌山県内における個体数は多くはない。幼虫は樹木の腐朽部に生息するものと考えられる。個体群の今後の動向に注意を払う必要がある。

執筆者（弘岡拓人）



参考文献

・情報

- 1 林 成多. 2004. シロスジナガハナアブを有馬富士山頂で観察. はなあぶ, (17) : 93.
  - 2 飯嶋一浩. 2000. シロスジナガハナアブの擬態について. はなあぶ, (11) : 79.
- 写真：弘岡拓人撮影

**スズキナガハナアブ *Spilomyia suzukii* Matsumura, 1916** ハエ目 ハナアブ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

やや稀な種であり、生態に関する情報が少ない。成虫はアカメガシワ等の花に飛来する。また、典型的なハチ擬態の種として学術的にも貴重である。個体群の今後の動向に注意を払う必要がある。



執筆者 (弘岡拓人)

- 参考文献・情報**
- 1 桂 考次郎. 1999. 蜂が刺すように腹部を曲げるスズキナガハナアブ. はなあぶ, (7) : 52.
  - 2 大原賢二. 1997. コガタスズメバチに捕らえられたスズキナガハナアブ. はなあぶ, (4) : 21-23.  
写真: 弘岡拓人撮影

**ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri* (Fenton, 1882)** チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

北海道、本州、九州に分布。多産する地域もあるが、一般に個体数は少ない。食樹は主にブナ科のミズナラ、コナラ等。アラカシやウラジロガシより幼虫が採集された記録もある。

和歌山県では、1954年に護摩壇山で採集されてから長らく記録がなかったが、最近、古座川町で記録された。本州での分布南限地の一つで、特に古座川町では落葉広葉樹の少ない地域に生息している。記録された個体数が少なく、減少しているかどうかは不明である。



執筆者 (小島和也)

- 参考文献・情報**
- 1 磯崎立之. 2015. 和歌山県南部でウスイロオナガシジミ♂を採集. 季刊ゆずりは, (64) : 63.
  - 2 吉田昌男. 2005. 和歌山県における蝶類の採集記録2種. KINOKUNI, (66) : 11.  
写真: 金岡晃司提供 (県外産)

**ウラミスジシジミ *Wagimo signatus* (Butler, 1882)** チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

北海道から九州まで全国的に分布は広いが産地は局地的で一般に少ない種である。食樹はブナ科のカシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワ、ウラジロガシ等。

和歌山県では、2006年にかつらぎ町で採集されてから記録がなかったが、最近、和歌山市、海南市、紀の川市で記録された。記録された個体数が少なく、減少しているかどうかは不明である。



執筆者 (小島和也)

- 参考文献・情報**
- 1 船本雅治. 2007. 和歌山県でウラミスジシジミを採集. 蝶研フィールド, 22 (3) : 38.
  - 2 金岡晃司. 2020. 和歌山県内でウラミスジシジミを撮影. KINOKUNI, (97) : 9.
  - 3 小島和也. 2016. ウラミスジシジミを和歌山市で採集. KINOKUNI, (90) : 8.  
写真: 金岡晃司提供

シルビアシジミ *Zizina otis* (Fabricius, 1787) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)
--------	-----------	----	------	---------	---	--------------------

関東地方以南に分布する。ヤマトシジミに似るが、一般的により小型で、雄の翅表の色調はさらに紫色を帯び、裏面の斑紋の配列が異なる。食草は主にマメ科のミヤコグサ。

和歌山県では、かつては県内各地に広く分布していたが30年近く採集記録が途絶え、絶滅したと考えられてきた。

**選定理由** 2010年頃から県中部の一部地域で確認されはじめ、現在も発生している。現在発生している個体が他地域の個体の人為的な放蝶によるものか、自然状態で細々と残存していたものが復活してきたのか判断が難しい。



なお、全国的には絶滅した産地も多く、近年減少の著しい種の一つである。

執筆者 (小島和也)

- 参考文献**  
 ・**情報**
- 1 後藤 伸. 1950. 昆虫界短報. 南紀生物, 2 (2) : 78.
  - 2 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51) : 17-43.
  - 3 吉村輔倫. 1984. 有田地方のチョウの記録. KINOKUNI, (25) : 24-27.
- 写真: 大橋弘和提供

ツシマキモンチラシ *Eterusia watanabei* Inoue, 1982 チョウ目 マダラガ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	準絶滅危惧 (NT)
--------	-----------	----	------	-----------	---	------------

オキナワルリチラシに似るが斑紋が異なる。幼虫はヒサカキを食し、成虫は6月中旬から7月上旬に出現する。成虫はクリの花やアカメガシワの花に吸蜜に飛来する。

**選定理由** 高野山で唯一頭採集されている。本種は、高野山で発見されるまでは、対馬特産種と考えられていた。的場 (1996) は偶産種ではないかと報告しているが、大和田 (1998) は本種は飛翔力が弱く、和歌山県で発生している可能性が高いと報告している。その後、広島県で連続して発見されている。



執筆者 (的場 績)

- 参考文献**  
 ・**情報**
- 1 的場 績. 1996. ツシマキモンチラシを高野山で採集. KINOKUNI, (49) : 10.
  - 2 大和田 守. 1998. ツシマキモンチラシとその仲間たちの斑紋 小蛾類の生物学. 102-108. 233pp. 日本教出版, 東京.
- 写真: 的場 績撮影

オオシロシタバ *Catocala lara* Bremer, 1861 チョウ目 ヤガ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	-	国	-
--------	-----------	----	------	---	---	---

本属では大型の種で、後翅に白い帯があるのが特徴。北海道から九州に生息し、近畿地方以西では極めて少ない。

**選定理由** 和歌山県に於いても、2016年8月に護摩壇山で採集された標本が1個体知られているのみである。その後も何度か調査されているが、再発見されていない。



幼虫はシナノキ属を食べる。護摩壇山にも少ないながらシナノキが生育しているので、偶産種ではないと思われる。

執筆者 (的場 績)

参考文献・情報 1 小島和也. 2016. オオシロシタバの記録. KINOKUNI, (90) : 10.  
写真: 小島和也標本

**コサナエ** *Trigomphus melampus* (Selys, 1869) トンボ目 サナエトンボ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

全長 45 mm 程。胸部側面の黒条は 1 本。平地から丘陵地にかけての湿地やため池に生息する。串本町、田辺市（旧本宮町）、古座川町、那智勝浦町、太地町から記録されているが、和歌山県南部に限られる。串本町が本種の分布南限及び太平洋側での分布西限である。



執筆者（南 敏行・松野茂富）

参考文献・情報 1 乾風 登. 1996. 和歌山県立自然博物館所蔵のトンボ標本. KINOKUNI, (49) : 15-19.  
2 関西トンボ談話会. 2006. 近畿のトンボ（データ編）. 102pp. 関西トンボ談話会, 奈良.  
3 南 敏行. 2009. 和歌山県南部のトンボ生息近況 レッドデータ種及び県南部で記録の少ない種について (2). KINOKUNI, (78) : 1-7.  
4 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮. 2013. ネイチャーガイド 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版, 東京.  
写真: 松野茂富撮影

**ウルシゴキブリ** *Periplaneta japonica* Asahina, 1969 ゴキブリ目 ゴキブリ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

日本固有種で、紀伊半島から南西諸島まで分布する。クロゴキブリに似るが、漆のような黒色で区別できる。野外性の種で、冬期は乾燥した朽木内で越冬する。和歌山県ではみなべ町鹿島と由良町黒島に生息することが知られている。本州における生息地は和歌山県のみである。



執筆者（的場 績）

参考文献・情報 1 的場 績. 1987. ウルシゴキブリの発見. 南紀生物, 29 (2) : 83.  
2 的場 績. 1990. 和歌山県のゴキブリ. 自然博物館だより, 8 (2) : 6.  
写真: 的場 績撮影

**キイフキバツタ** *Parapodisma hiurai* Tominaga & Kanô, 1987 バッタ目 バッタ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

紀伊半島固有（和歌山県・三重県・奈良県のみ）に分布する短翅型バッタ。近似種が多く、腹部末端の交尾器等で識別できる。森林のソデ群落、マント群落に生息する。

執筆者（河北 均）



参考文献・情報 1 加納康嗣. 1987. 名張市周辺のミヤマフキバツタ (4). ひらくら, 31 (1) : 1-5.  
2 中尾史郎・小林伶史・谷川寛樹・神吉紀世子. 2010. 紀伊半島北部におけるミヤマフキバツタ属とダイリフキバツタ属（バッタ目、フキバツタ亜科）の分布. 南紀生物, 52 (1) : 66-69.

参考文献  
・情報

- 富永 修・加納康嗣. 1981. 近畿地方から発見されたミヤマフキバッタ属の一新種. 越佐昆虫同好会会報, (64): 29-38.  
写真: 伊藤ふくお提供 (県外産, バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載)

**オガサワラクビキリギリス** *Euconocephalus nasutus* (Thunberg, 1815) バッタ目 キリギリス科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

クビキリギリスに近縁。日本列島～東南アジアに広く分布、南西諸島には比較的多いが本州で確実に定着しているのは、和歌山県のみである。和歌山県では広川町、印南町、田辺市、白浜町、串本町及び古座川町から記録がある。



執筆者 (河北 均)

参考文献  
・情報

- 細井孝昭. 1999. 紀伊半島南部 古座川～大島直翅類リスト. ぱったりぎす, (121): 16-17.
- 河北 均. 2007. 田辺市元島 11 月の直翅目 2 種. KINOKUNI, (72): 22-23.
- 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ昆虫たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.
- 松野茂富. 2016. あ！オガサワラクビキリギリス. 自然博物館だより, 39 (1). 6.
- 松野茂富. 2022. オガサワラクビキリギリスを探せ!. 自然博物館だより, 40 (1). 2.
- 富永 修. 1998. 後藤コレクション II <南紀の直翅類>. ぱったりぎす, (119): 48-50.  
写真: 松野茂富提供

**コウヤササキリモドキ** *Kinkiconocephalopsis koyasanensis* (Kanô, 1987) バッタ目 ササキリモドキ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

温帯林上部～ブナ帯に生息する。近似種が多く雄の交尾器等で識別される。紀伊半島西部 (和歌山県・奈良県) の固有種。和歌山県では模式産地の高野山周辺から記録されている。



執筆者 (河北 均)

参考文献  
・情報

- 細井孝昭. 1999. 紀伊半島中央部の直翅類の記録. ぱったりぎす, (121): 15.
- 市川顕彦. 2019. 鳴く虫の記録 2018 前半. ぱったりぎす, (162): 59-60.
- Kanô, Y. 1987. A new species of the genus *Tettigoniopsis* (Orthoptera, Tettigoniidae) from Japan. Akitu, New Series, 84: 1-5.
- 加納康嗣・富永 修・田畑郁夫・別府隆守・石川 均・村井貴史・三時輝久・河北 均・豊嶋 弘・高橋耕司. 1999. 日本の短翅ササキリモドキ類 (直翅目, キリギリス科, ヒメツユムシ亜科). Tettigonia, 1 (2): 1-81.
- 村井貴史・伊藤ふくお. 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 449pp. 北海道大学出版会, 札幌.
- 日本直翅類学会. 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp. 北海道大学出版会, 札幌.  
写真: 村井貴史提供 (バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載)

**オオアリツカコオロギ** *Myrmecophilus gigas* Ichikawa, 2001 バッタ目 アリツカコオロギ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由

ムネアカオオアリの巢中に寄生する種。海草郡紀美野町を模式産地として新種記載された。



執筆者 (河北 均)

参考文献  
・情報

- Ichikawa, A. 2001. New species of Japanese crickets (Orthoptera: Grylloidea) with notes on certain taxa. Tettigonia, 3: 45-58.  
写真: 村井貴史提供 (県外産, バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載)

台湾エンマコオロギ *Teleogryllus occipitalis* (Audinet-Serville, 1839) バッタ目 コオロギ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由 エンマコオロギに近似の大型のコオロギ。西南日本にも分布するが、紀伊半島が北限。和歌山県南部に広く分布する。

執筆者 (河北 均)



参考文献・情報 1 柳原浩良. 2000. 周参見駅付近の台湾エンマコオロギ. ぱったりぎす, (123) : 51-52.  
写真: 松野茂富提供

クロヒバリモドキ *Trigonidium cicindeloides* Rambur, 1839 バッタ目 ヒバリモドキ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由 キアシヒバリモドキと混同されることが多い。海岸等の疎らな草地に生息する。

本種は南西諸島～台湾に生息し、飛び石的に本州の和歌山県と大阪府に分布記録がある。和歌山県内では、御坊市、美浜町から記録されている。

執筆者 (河北 均)



参考文献・情報 1 市川顕彦. 1995. 和歌山県でクロヒバリモドキがとれている. ぱったりぎす, (105) : 29.  
2 市川顕彦. 2016. 和歌山県美浜町でもヤマトマダラバッタは見つからなかった. ぱったりぎす, (153) : 9-10.  
3 市川顕彦. 2020. 大阪府大正区千島公園でクロヒバリモドキを採集. ぱったりぎす, (163) : 9-35.  
写真: 村井貴史提供 (県外産, バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑より転載)

コウヤナナフシ *Phraortes koyasanensis* Shiraki, 1935 ナナフシ目 トビナナフシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

選定理由 エダナナフシ、クマモトナナフシ及び未記載の近似的種が多く、区別は難しい。

高野山が模式産地。和歌山県その他、奈良県及び徳島県から記録されている。

執筆者 (河北 均)



参考文献・情報 1 日本直翅類学会. 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp. 学研プラス, 東京.  
写真: 中村 進提供

ゴトウヒサゴナガカメムシ *Mizaldus gotoi* (Hidaka, 1960) カメムシ目 ナガカメムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

体長 3 mm 程の微少種。捕食性のカメムシで、紀伊半島南部と四国に  
 選定理由 分布する。枯れ木や落葉層の中に生息する。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献  
 ・情報 1 後藤 伸. 1964. 紀州の異翅半翅目昆虫Ⅱ (2) ナガカメムシ科. 南紀生物, 6 (2) : 46-51.  
 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ミナミオオヘリカメムシ *Molipteryx asahinai* Kikuhara, 2006 カメムシ目 ヘリカメムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

オオヘリカメムシに似るが生殖器及び体型・触角第 4 節は第 3 節  
 選定理由 よりも短いことにより区別できる。紀伊半島が分布の北限になり、  
 ホウロクイチゴに寄生する。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献  
 ・情報 1 後藤 伸. 2000. 虫たちの熊野. [照葉樹林にすむ動物たち]. 256pp. 紀伊民報, 田辺.  
 2 Kikuhara, Y. 2006. A new species of the genus *Molipteryx* from Japan (Hemiptera, Coreidae).  
 Japanese Journal of Systematic Entomology, 12 (2) : 231-238.  
 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ニシキキンカメムシ *Poecilocoris splendidulus* Esaki, 1935 カメムシ目 キンカメムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

キンカメムシ科の中でも最も美しい種で、生息地は少なく、全  
 国に数カ所が知られているのみ。食餌植物はツゲで、石灰岩、蛇  
 紋岩など塩基性岩石地帯に生息している。年による発生個体の増  
 選定理由 減が著しく、生息地でも毎年発見できるとは限らない。

和歌山県では紀美野町黒沢山、広川町霊巖寺、和歌山市加太で  
 発見されている。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献  
 ・情報 1 後藤 伸. 1966. 紀州の異翅半翅目昆虫Ⅲ. 南紀生物, 8 (2) : 58-64.  
 2 後藤 伸. 1971. ニシキキンカメムシの再発見. 南紀生物. 13 (1) : 19.  
 3 的場 績. 2001. ニシキキンカメムシの新産地. KINOKUNI, (60) : 16.  
 4 吉田元重. 1975. 再びニシキキンカメムシについて. 南紀生物, 17 (1) : 33.  
 写真: 的場 績撮影

シラハマナガゴミムシ *Pterostichus kiiensis* Morita & Ohkura, 1988 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 白浜町行徳山を模式産地に記載された種で、県南部の低山地から山地にかけて広く分布する。ナガゴミムシのグループはよく似た種が多く、区別は困難。紀伊半島固有種である。

執筆者 (的場 績)

**参考文献  
・情報**

- 1 Morita, S. & Ohkura, M. 1988. Two new pterostichine carabids from the Kii Peninsula, central Japan (Coleoptera, Carabidae). *Entomological Review of Japan*, 43 (1) : 25-32.  
写真：松野茂富提供

オオダイオオナガゴミムシ原名亜種 *Pterostichus biexcisus biexcisus* Straneo, 1955 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 体長 2 cm 以上もある大型のナガゴミムシ。護摩壇山から那智山にかけての山地帯のガレ場に生息している。近年減少傾向にある。紀伊半島固有亜種である。

執筆者 (的場 績)

**参考文献  
・情報**

- 1 田中昭太郎. 1984. 和歌山県とその周辺の歩行虫 (1). *KINOKUNI*, (26) : 18-20.  
写真：松野茂富提供 (県外産)

オオダイナガゴミムシ *Pterostichus ohdaisanus* Nakane, 1963 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 体長 1.5 cm 程の黒色のゴミムシ。前胸背の側縁は強く弧状。紀伊半島固有種で、護摩壇山や果無山脈の森林林床で発見される。

執筆者 (的場 績)

**参考文献  
・情報**

- 1 初宿成彦. 2012. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録 (2) ゴミムシ類、カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属、ハムシ科. 372pp. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第44集, 大阪.  
写真：松野茂富提供

コモリヒラタゴミムシ *Nipponagonum amphinomum* (Bates, 1883) コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 紀伊半島固有種で、体長は1 cm 程。後翅が退化した種で、湿潤な落葉層から発見される。高野山、護摩壇山、大塔山等で発見されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 秋田勝巳. 1996. 和歌山県古座川町平井で得た甲虫類. 南紀生物. 40 (2) : 195-197.
- 2 吉田元重. 2010. 護摩壇山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅. 写真: 一般財団法人 自然環境研究センター提供

ナガツヤヒラタゴミムシ *Synuchus picicolor* Lindroth, 1956 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 紀伊半島固有種で、ホソツヤヒラタゴミムシに似るが、上翅端は尖らず、第3間室孔点が1個であるため、同属の他種と区別できる。立ち枯れ樹の間隙に潜んでいることが多い。高野山、護摩壇山、日高川町白馬山等、標高の高い山地に多いが、低山地でも見られる。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 2007. 和歌山県産甲虫類分布資料 16. KINOKUNI, (71) : 22-24.
- 2 吉田元重. 2010. 護摩壇山系の昆虫. KINOKUNI, Suppl. 2, 83pp. 和歌山昆虫研究会, 湯浅. 写真: 一般財団法人 自然環境研究センター提供

ナガホラアナヒラタゴミムシ *Jujiroa elongata* S. Ueno, 1955 コウチュウ目 オサムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 地中性のゴミムシで、体長は1.1~1.2 mm 程。複眼は小さく体は扁平。分布状況は不明。紀伊半島固有種である。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 田中昭太郎. 1981. ナガホラアナヒラタゴミムシ発見さる. KINOKUNI, (19) : 18. 写真: 松野茂富提供 (県外産)

**ナチセスジゲンゴロウ (トモクニセスジゲンゴロウ) *Copelatus tomokunii* M. Satô, 1985** コウチュウ目 ゲンゴロウ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 那智妙法山を模式産地として記載された種で、原記載以降、白浜町以南、那智山周辺にかけて記録され、個体数も多い。当初は紀伊半島固有種と考えられていたが、九州でも発見されている。

本種は林道脇の水たまりや側溝等の不安定な水域に生息し、イノシシのぬた場等でも発見される。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 的場 績. 1996. 和歌山県産甲虫類分布資料 2. KINOKUNI, (49) : 10.
  - 2 Satô, M. 1985. The genus *Copelatus* of Japan (Coleoptera, Dytiscidae). Transactions of the Shikoku Entomological Society, 17 (1/2) : 57-67.
  - 3 田中昭太郎・深見訓士・松野茂富. 2021. ナチセスジゲンゴロウとヒコサンセスジゲンゴロウの簡易同定法. 月刊むし, (604) : 41-46.
- 写真: 松野茂富提供

**ツシマヒラタシデムシ近畿地方亜種 *Necrophila jakowlew simulator* (Shibata, 1969)** コウチュウ目 シデムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** オオヒラタシデムシに似るが、触角が異なる。河川敷や低地の草原に生息する。本亜種は大阪平野周辺に限り分布し、和歌山県が分布の南限に当たる。紀の川周辺と有田川周辺に分布する。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 的場 績. 1991. 和歌山の甲虫 21 ツシマヒラタシデムシ. 自然博物館だより, 9 (4) : 5.
  - 2 的場 績. 1994. 和歌山県産甲虫目録 (2) シデムシ科. 和歌山県立自然博物館館報, 12 : 55-59.
- 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

**マメクワガタ *Figulus punctatus* Waterhouse, 1873** コウチュウ目 クワガタムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 小型のクワガタムシで、黒潮により分布を広げた種。和歌山県では県南部の海岸林にのみ生息する。本州では紀伊半島にのみ分布する。

執筆者 (的場 績)



- 参考文献・情報**
- 1 青柳昌宏. 1949. 本州のマメクワガタ. 新昆虫, 4 (13) : 24.
  - 2 的場 績. 1984. 和歌山の甲虫 11 マメクワガタとチビクワガタ. 自然博物館だより, 7 (2) : 5.
  - 3 吉田元重. 1975. マメクワガタ本州からの記録. 甲虫ニュース, (31/32) : 15.
- 写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ウスグロボタル *Cyphonocerus inelegans* Nakane, 1967 コウチュウ目 ホタル科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 体全体黒褐色。林床湿度の高い良好な森林に棲む。ホタル科であるが発光せずフェロモンによるコミュニケーションをする。  
紀伊半島固有種であり、良好な森林の指標種となる。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 的場 績. 1997. 和歌山の甲虫 45 ウスグロボタル. 自然博物館だより, 15 (4) : 3.  
**・情報** 写真: 的場 績撮影

クロマドボタル *Pyrocoelia fumosa* (Gorham, 1883) コウチュウ目 ホタル科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** 前胸背は全体黒色で、前縁に 2 個の透明な窓状部がある。前胸背に赤色部のあるオオマドボタルとの関係が問題になっていて、和歌山県が両種の分布境界になり、橋本市周辺ではクロマドボタル、橋本市よりも南ではオオマドボタルが分布する。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 的場 績. 1999. 和歌山県産甲虫類分布資料 5. KINOKUNI, (56) : 26-27.  
**・情報** 写真: 的場 績撮影

ナンキセダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber nankiensis* Yokoyama, 1968 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

**選定理由** セダカコブヤハズカミキリの紀伊半島亜種。原亜種と比べ上翅端の棘状突起が著しく発達している。本県南部に固有の亜種で、紀伊半島南部の照葉樹林を代表する種である。

執筆者 (的場 績)



**参考文献** 1 奈良 一. 1989. 新和歌山県産天牛虫科目録 (II). 南紀生物, 31 (1) : 53-59.  
**・情報** 写真: 梅本 実提供

アヤモンチビカミキリ *Sybra ordinata ordinata* Bates, 1873 コウチュウ目 カミキリムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

## 選定理由

体は黒褐色で、不明瞭な縦条紋を持つ。琉球列島では多くの亜種に分かれ、原名亜種は本州～屋久島に分布する。本州では紀伊半島のみに分布する。

和歌山県ではすさみ町～那智勝浦町の海岸林に生息し、各種枯れ枝にいるが、イヌビワの枯れ枝に多い。

執筆者 (的場 績)



## 参考文献

## ・情報

1 的場 績. 1991. 和歌山の甲虫 10 アヤモンチビカミキリ. 自然博物館だより, 7 (1) : 4.

写真: 松野茂富提供 (和歌山県立自然博物館所蔵標本)

ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシ *Xanthoderopygus kasaharai* Senoh & Matoba, 2002 コウチュウ目 ヒゲナガゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

## 選定理由

小型のヒゲナガゾウムシで、近似種が多く、同定は困難であるが、雄の尾節板が鋭三角形になることにより、他種と区別できる。

護摩壇山～日高川町白馬山にかけての固有種である。

執筆者 (的場 績)



## 参考文献

## ・情報

1 的場 績. 2010. ゾウムシ雑記 32. KINOKUNI, (78) : 19-21.

2 Senoh, T. & Matoba, I. 2002. A new species of the genus *Xanthoderopygus* (Coleoptera, Anthribidae) from the Kii Peninsula, central Japan. *Elytra Tokyo*, 10 (2) : 358-362.

写真: 的場 績撮影

オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ *Xanthoderopygus matobai* Senoh, 1984 コウチュウ目 ヒゲナガゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	-	国	-
--------	------------	----	------	---	---	---

ゴマダンカギバラヒゲナガゾウムシに似るが、尾節板は長方形。上翅後方の白色毛斑は W 字状になる。大塔山系の固有種である。

執筆者 (的場 績)



## 参考文献

## ・情報

1 Senoh, T. 1984. A revision of the genus *Deropygus* Sharp in Japan, with description of a new genus and five species. *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 16 (39) : 25-40.

写真: 的場 績撮影

イチハシシギゾウムシ *Curculio ichihashii* Morimoto, 1962 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 体長 2.3 mm 程の小型のシギゾウムシ。最近まで紀伊半島固有種と思われていたが、広島県と四国でも発見されている。照葉樹林に棲み、和歌山県ではシイで発見されている。日高郡以南で発見される。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. 和歌山県立自然博物館館報, 17, 29-51.
  - 2 的場 績. 2017. ゾウムシ雑記 41. KINOKUNI, (91) : 16.
- 写真: 的場 績撮影

ネジロツブゾウムシ *Sphinxis pubescens* Roelofs, 1875 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 暖地系の種で、九州と紀伊半島に分布する。本種の近似種は琉球列島に分布し、両種ともホルトノキにつく。紀伊半島が分布の北限並びに東限になる。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 的場 績. 1995. 春日の森の昆虫 春日の森調査報告書. 100-123. 海南市教育委員会, 海南.
  - 2 的場 績. 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. 和歌山県立自然博物館館報. 17 : 29-51.
- 写真: 的場 績撮影

カスミゾウムシ *Lignyodes japonicus* Kojima & Morimoto, 2003 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 和歌山県と三重県で僅かな標本が採集されているのみ。近似種は北アメリカとヨーロッパに分布し、トネリコに依存しているらしいが、日本産の種についての生態や寄主植物は全く分かっていない。紀伊半島固有種と思われる。

執筆者 (的場 績)



参考文献  
・情報

- 1 Kojima, H. & Morimoto, K. 2003. A new *Lignyodes* Dejean, a new representative of the genus and the tribe *Lignyodini* from the eastern Palaearctic region (Coleoptera, Curculionidae). The Coleopterists Bulletin, 57 (4) : 383-389.
- 写真: 的場 績撮影

オチバアナアキゾウムシ *Pentaparopion costatum* Morimoto, 1982 コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

落葉中に棲み後翅が退化している。腐葉土の豊富な海岸林に見られる。八丈島と紀伊半島、岡山県でしか発見されていない。海流により分布を広げた好事例種。

和歌山県では、有田市宮崎ノ鼻から白浜町にかけての海岸林で発見されている。

執筆者 (的場 績)



参考文献・情報

- 1 的場 績. 1986. オチバアナアキゾウムシ和歌山県に産する. KINOKUNI, (30) : 14.
- 2 的場 績・吉田元重. 2005. 和歌山県に於ける土壌性ゾウムシの分布調査. KINOKUNI, (66) : 1-10.  
写真: 的場 績撮影

ルイスヒゲボソゾウムシ *Phyllobius lewisi* (Sharp, 1896) コウチュウ目 ゾウムシ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

紀伊半島固有種であり、和歌山県内外を問わず生息地は局所的である。和歌山県では高野山と、果無山脈、大塔山で発見されている。広食性で、ブナ科、カバノキ科、バラ科、ツツジ科等から発見される。

執筆者 (的場 績)



参考文献・情報

- 1 的場 績. 1999. ルイスヒゲボソゾウムシを多数採集. KINOKUNI, (55) : 26.
- 2 的場 績. 1999. 和歌山県産ゾウムシ科目録. 和歌山県立自然博物館館報, 17 : 29-51.  
写真: 的場 績撮影

クモトラフバエ *Xanthotryxus mongol* Aldrichi, 1930 ハエ目 クロバエ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

高山性のハエであるが、本県では 1000 m 以下の低標高に生息し、分布の南限にあたる。大型で黄金色の美しい種。通常は本州の高山帯に分布する。和歌山県では高野山と護摩壇山に分布する。

執筆者 (弘岡拓人)



参考文献・情報

- 1 春沢圭太郎. 2007. 近畿地方のクモトラフバエの記録. はなあぶ, (24) : 63.  
写真: 的場 績提供

ルーミスシジミ *Panchala ganesa* (Moore, 1858) チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

選定理由

関東地方以南の暖地に産するが、分布は局地的。雌雄の斑紋はほとんど同じ。ムラサキシジミと類似するが、小型で翅表の青藍色斑は紫色を帯びることはなく、裏面の斑紋も鮮明。食樹は、主にブナ科のイチイガシ、ウラジロガシで、生息には安定した照葉樹林が必要な種である。

和歌山県は、数少ない生息地の一つで、紀南地方の大塔山系、古座川流域、那智勝浦町那智山、新宮市瀬八丁等の常緑広葉樹林帯に局地的に分布する。古座川町では町の天然記念物に指定されている。



執筆者 (小島和也)

参考文献・情報

- 1 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51): 17-43.
- 2 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川. 写真: 大橋弘和提供

ウラナミアカシジミ紀伊半島南部亜種 *Japonica saepestriata gotohi* Saigusa, 1993 チョウ目 シジミチョウ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

紀伊半島南部のみに分布する亜種で、斑紋は名義タイプ亜種と比べ、前翅長が短く、裏面の黒条が発達し、尾状突起が長い。食樹は、名義タイプ亜種が主にクヌギ等のブナ科落葉樹であるのに対し、本亜種はブナ科常緑樹のウバメガシである。

なお、和歌山県での分布は、従来から田辺市以南とされてきたが、最近になって日高郡や有田郡内で採集されたとの情報がある。



執筆者 (小島和也)

参考文献・情報

- 1 後藤 伸. 1994. 紀伊半島におけるウバメガシ林の注目すべき昆虫 I ウラナミアカシジミ紀伊半島亜種と野外調査記録. 南紀生物, 36 (1): 31-38.
- 2 後藤 伸. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の蝶類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 133-139, 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 3 的場 績. 1997. 和歌山県産蝶類既報の整理. KINOKUNI, (51): 17-43.
- 4 松下 弘・後藤 伸・谷 幸子. 1993. 古座川町の自然Ⅲ. 78pp. 古座川町教育委員会, 古座川. 写真: 大橋弘和提供

ベニシタバ *Catocala electa zalmunna* (Butler, 1877) チョウ目 ヤガ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

大型の美麗種で後翅に鮮やかな紅赤色紋を有す。長い間、本県に生息するのか疑問視されていたが、護摩壇山から幾つか採集されている。

執筆者 (的場 績)



---

参考文献 1 植田広行. 1999. 和歌山県におけるベニシタバの記録. KINOKUNI, (55) : 13.  
・情報 写真：小島和也標本（県外産）

---

ヒゴキンウワバ *Chrysodeixis taiwani* Dufay, 1974 チョウ目 ヤガ科

県カテゴリー	学術的重要 (SI)	旧県	2012	学術的重要 (SI)	国	-
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由 南方系の種で、主に九州各地に分布している。四国にも分布するが、紀伊半島が分布の東限になる。和歌山県では大塔山系で発見されている。

執筆者（的場 績）

---

参考文献 1 嵯峨昭仁. 1991. 和歌山県未記録の蛾類. KINOKUNI, (40) : 18.  
・情報

---